

# 聖徒の道

6  
1996



末日聖徒  
イエス・キリスト  
教会

# 聖徒の道

1996年6月号



表紙——ロンゴリという名で知られる、インド民芸の砂絵に、巧みに最後の仕上げをするインド、ヒデラバード第2支部のヘマー・グーティ。

裏表紙——建立後350年を過ぎたタジマハール(上)はインドの文化的な宝の一つと見なされている。一方、インドの若い教会員たちは、イエス・キリストの福音という霊的な宝を見いだしている。チョークでロンゴリの下絵を書く若い女性たち(下)。左からカルーナ・ネラプーディ、ブラルドハナ・ピラバトフーラ、ディーバ・ネラプーディ。(「インド——種をまく季節」本誌p.34参照。表紙写真/マイケル・R・モリス)

こどものページ——「預言するレーマン人サムエル」(絵/アーノルド・フリーバーグ)

サムエルは勇敢な主のしもべでした。命を危険にさらしても、ゼラヘムラの悪い人々に悔い改めを叫びました。サムエルのしたことと、人びとがどんな態度をとったかは、14ページの「モルモン書物語」にあります。

## 一般

- 大管長会メッセージ——家族と国の助けとなる4つの簡単な事柄  
大管長ゴードン・B・ヒンクレー ..... 2
- 家族——世界への宣言 大管長会ならびに十二使徒評議会 ..... 10
- フローレンス・チャクーラの奇跡  
ジャン・U・ピンボロー, バーバラ・J・クラーク ..... 12
- 障害と信仰と奇跡 第一副管長トーマス・S・モンソン ..... 18
- インド——種をまく季節 マイケル・R・モリス ..... 34
- 預言者の約束を証明する ジェームズ・R・プリンス ..... 44
- 真実か偽りか ジェフリー・R・ホランド ..... 46

## 青少年

- 質疑応答——友人がジョセフ・スミスの示現を受け入れられるようにするには、わたしにどんな助けができるでしょうか ..... 22
- 体のためにならず ハロルド・G・ヒラム ..... 26
- 聖餐会から学び取るために ダリン・リスゴー ..... 30
- 逆効果 ステファニー・ラドフォード ..... 32

## 定期特別記事

- 読者からの便り ..... 1
- 家庭訪問メッセージ——自分の顔に神の面影を刻む ..... 25

## こども

- 悲しい誕生日 ロバート・A・ミラー ..... 2
- 歌——ともだち キャロル・リン・ピアソン, リード・N・ニプレー ..... 4
- 小さなお友だちへ ジョン・B・ディクソン長老 ..... 6
- 分かち合いの時間——かていのあい アレン・アシュトン ..... 8
- 拾った人はもらう人 マリン・ヘレン・ターナー作 ..... 10
- おもちゃばこ——数字で色合わせ ローレル・ロールフィンク ..... 13
- モルモン書物語  
レーマン人サムエル, イエス・キリストについて話す ..... 14

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレ、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト  
十二使徒定員会：ボイド・K・バック、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：ジャック・H・ゴースリンド  
顧問：スペンサー・J・コンディー、L・ライオネル・ケンドリック  
教科課程管理部責任者  
実務部長：ロナルド・L・ナイトン  
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー  
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーグ

国際機関誌スタッフ  
編集主幹：マービン・K・ガードナー  
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン  
編集副主幹：デビッド・ミッチェル  
編集補佐/こどものページ：ディエーン・ウォーカー  
工程管理：メアリーアン・マーティンデル  
出版補佐：ベス・テリー

デザインスタッフ  
機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ  
アートディレクター：スコット・バン・カンペン  
デザイナー：シェリー・クック  
制作主幹：ジェーン・アン・ビーターズ  
制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニー・S・カービー、マシュー・H・マックスウェル

予約販売スタッフ  
ディレクター：ケイ・W・ブリッグ  
配送部長：クリス・クリステンセン  
マーケティング部長：ジョイス・ハンセン  
聖徒の道 1996年6月号第40巻第6号  
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351  
株式会社 リック/クロスロード  
印刷所  
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)  
半年予約1,200円(送料共)  
普通号/大会号200円

Copyright © 1996 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1994年8月 翻訳承認—1994年8月 原題—International Magazines June, 1996, Japanese. 96986300  
●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留が郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。  
●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

The Sato No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150, U.S.A. and Canadian subscription is \$9.00 per year. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A.

「兄弟がお荷物になることなんてないんだよ」

ロシアで専任宣教師として働いていたとき、わたしはひざを痛め、3週間ほど療養しなければなりません。その間伝道ができずに、わたしは気落ちしてしまいました。また周囲の人々の負担になっているのでは、と心苦しく思っていました。

何日間か、こういった気持ちをぬぐい去ることができずにいました。そんなときエフィボブ伝道部長夫妻が、『リアホナ』(ロシア語版)の最新号を持って来てくれたのです。「兄弟」と題する、シーラ・キンドレッドの記事(1995年6月号、こどものページ p.6)の中に、次のような言葉が書かれていました。「兄弟がお荷物になることなんてないんだよ。」この一節を読んだとき、わたしの心は平安と喜びに満たされました。

皆さんの働きに感謝しています。また、世界中から寄せられるすばらしい証に感謝しています。

ウクライナ・キエフ伝道部  
ボスクレセンスキー支部  
ボンダレンコ・アラ・ビクトロブナ

慰めと力

教会に入って6年になります。教会に入ってからというもの、わたしはたくさん試練を経験しました。時にはがっかりしたり、ふさぎ込んだりしてしまうこともありましたが、自分が受け入れた真理から離れずにいられるよう、神に助けを祈り求めました。

試練のときにあって、慰めと力の源となってくれたものの一つに『リアホナ』(英語版)があります。『リアホナ』を読むとわたしの霊性は高まり、証が強められます。『リアホナ』のおかげで、たとえ困難の中にあっても、人生を明るく生きていくことができます。読めば読むほどたくさんのことが学べるこの機関誌に感謝しています。フィリピン、バコロッドステーク  
パグラウーム・ピレッジワード  
メアリー・ジェーン・キジャノ

読む時間の作り方

夫とともに、しばらく前から『リアホナ』(ポルトガル語版)を予約購読するようになりました。何か月分かが送られてきましたが、わたしは1冊も読まずにいました。職場が家から離れていたため、なかなか読む時間が取れませんでしたし、帰宅してからは、片付けなければならない家事が多すぎて読めなかったのです。

そんな中で、わたしはついに『リアホナ』(ロシア語版)の最新号を見つけました。会社に出かけるときに持参し、バス停やバスの中、また仕事の休憩中に読むようにしたのです。

おかげで、主の御霊を以前にも増して身近に感じられるようになりました。このすばらしい羅針盤は、わたしの生活に大きな役割を果たしています。ブラジル、クリチーバ・ノボ・ムンドステーク、アラウカリアワード  
レニルス・A・C・L・デ・モラエス

ハンガリーより感謝を込めて

ハンガリー語版の機関誌『リアホナ』とこどものページ「チーラゴスカ」(「小さな星」の意)に対する感謝の気持ちを伝えたいと思います。わたしたちは預言者や世界中の聖徒に関する記事を読むのが好きです。ハンガリー、ブダペスト  
ボード家族

教会員との一致

ロシア語版の『リアホナ』が大好きです。この機関誌を通じて世界中の聖徒と触れ合い、信仰の一致を感じたり、霊的な支えを受けたりできるからです。ロシア、サンクトペテルブルク伝道部  
バシリオストロブスキー・アイランド支部  
ベラ・テレホワ



# 家族と国の助けとなる 4つの簡単な事柄

大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー

**わ**たしはこのすばらしい時代に生を受けたことを深く感謝しています。通信・交通手段、医学、家庭や職場での様々な便利な機器など、技術面の進歩には目を見張るものがあります。わたしは、人々の生活を向上させてくれた科学者たちに心からの敬意を抱いています。

わたしが生まれた当時、合衆国の平均寿命は50歳でした。それが今では75歳になっています。この短い間に、寿命が25歳も伸びたという事実は驚くに値することではないでしょうか。同様の事柄が、この世のほかの様々な分野でも起きています。ペニシリンが発明されたのは、わたしが30歳のときでしたが、その後、驚異的な薬品が次から次へと生み出されてきました。

皆さんはそれらの事柄をよく御存じです。わたしがこのような進歩についてお話ししたのは、ただ感謝の意を表すためです。確かに人類は、技術的な分野において様々な奇跡を成し遂げてきました。しかし悲しむべきことに、道徳、倫理的な面においては荒廃が進んでいます。皆さんが子供時代を過ごした家庭のことを思い起こしてみてください。多くの家庭では祈りがなされていました。朝には家族がともにひざまずき、神の見守りを願い、夜にはまた家族そろって



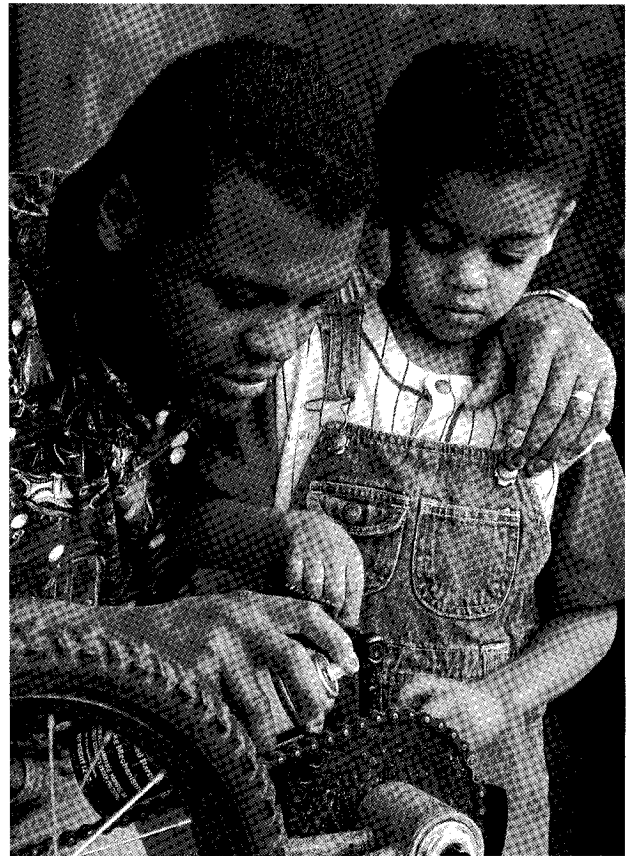
子供たちに徳を教えてください。主は現代の啓示の中で、次のように宣言しておられます。「わたしはあなたがたに、あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じた。」

祈りをささげたものです。家族の祈りはすばらしい実をもたらしました。言葉では説明しにくいのですが、確かに家族の祈りは子供たちにとって大切な意味を持っていました。永遠の父なる神への感謝を表すその行為は、尊敬と敬虔、感謝の念を培いました。祈りの中では、病人や貧しい人々、助けを必要としている人々のことが思い起こされました。国の指導者のことも思い起こされ、それによって、公職に就く人々への尊敬の念が培われました。そのような敬意は、今、どこに行ってしまったのでしょうか。

このような祈りがある家庭の中には、下品な言葉や神の名を汚すような言葉話す人はいませんでした。礼儀正しさと人のために尽くすことも、当時はよく説かれていました。最近ある人が、アブナー・ハウエルの何年前の話の録音したテープを贈ってくれました。実はアブナー・ハウエルはわたしの近所に住んでいました。いわゆる少数民族に属する人で、苦勞して学業を修め、ユタ州議会の守衛官の職に就きました。その話の中で、彼はわたしの母への感謝の気持ちを述べていました。学校に通っていた子供のころに、わたしの母に勉強を見てもらったり、意地悪な人たちからかばってもらったりしていたのです。わたしたちは家庭の中で、地上のすべての人は神の息子であり、娘であると教えられていました。たとえ肌の色が違って、その心、感情は同じなのです。

わたしたちの時代には、だらしない服装をして学校へ行くことは、とても考えられないことでした。わたしが長ズボンを最初にはいたのは、中学校を卒業するときでした。それまではほかの子供たちと同様、短いズボンと綿の黒いソックスをはいていました。しかし、その服装はきちんとした、小ざれいなものでした。ソックスの繕いはとても難儀な仕事でしたが、大切な仕事でした。

わたしたちは公立の学校に通いました。わたしたちが通っていた小学校はアメリカの政治家アレクサンダー・ハミルトンにちなんで名付けられていました。また、中学校は合衆国大統領セオドア・ルーズベルトの名を取って命名されていました。わたしたちはこれらの人物について教わりました。2月12日はアブラハム・リンカーンの誕生を記念する祝日で、2月22日はジョージ・ワシントン大統領を記念する祝日でした。これらの祝日が近づく、わたしたちは学校で、「正直なアブラハム」や、父親の桜の木を切ってしまったことを打ち明けた少年時代のジョージ・ワシントンの話などを学びました。それ



PHOTOGRAPH BY WELDEN ANDERSEN

**一緒に働いてください。子供たちは親と一緒に働く必要があります。それによって、清潔さ、進歩、繁栄などを手に入れるには働かなければならないことを学ぶのです。**

らの話は、歴史的にはそれほど意味のある出来事ではなかったかもしれませんが、わたしたちの生活には非常に大きな影響を与えました。わたしたちは正直の原則への正しい認識を深めました。今でも大統領を記念する祝日はありますが、多くの人にとってそれは、単なる休日となってしまうています。

わたしたちは女性を敬うことを教えられました。女の子と一緒に、近所でゲームをしたり、家でパーティーをしたりしました。年齢が進んでデートをするようになって、デートに関するはっきりとした標準があり、交際する相手を敬っていました。あのころから今に至るまで、技術的な面において、わたしたちの社会は数多くの進歩を遂げてきました。しかし、内面的に大切なものについては、非常に多くのものを失ってきています。

今の時代には数々のすばらしい自動車がありますが、同時にカージャックや走行中の自動車からの発砲事件などを心配しなければならない時代です。普通のテレビに

加えて、有線テレビやそれに関連した様々な機器類もあります。しかしそれらを通して、非常に下品で言葉遣いも冒瀆的で反道徳的な娯楽が、家庭の中に押し寄せています。多くの都市では、夜は危険で歩くことができせん。犯罪が現代の最も深刻な問題として採り上げられています。アメリカ合衆国を例に挙げると、年間に600万件の凶悪犯罪が発生していると言われていています。1960年から1992年の間における、対人口比の犯罪増加率は371パーセントです。わずか32年の間にです。1992年の殺人事件の被害者数は2万3,760人でした。これはベトナム戦争の全期間を通して戦死したアメリカ兵のほぼ半分に上る数です。

子供が子供を殺すという事件も、この社会の悲惨な現象の一つとなってきています。殺人は、青少年の死亡原因の中で第2位を占めています。警官の増員、刑務所増設のために、絶えず多くの予算が求められています。それが必要なことは確かです。しかしわたしがもっと強く確信しているのは、そのような対応だけで状況を大きく変えることはできないということです。問題の核心に触れていないからです。

もちろん、このような懸念は、合衆国に特有のものではありません。世界中の国々で、同様の問題が見受けられます。確かにわたしたちは科学技術面での恩恵に浴しています。わたしがこれまで生きてきた時代になされてきた科学上の発見の数は、それに先行するすべての時代になされた発見の数よりも多いのです。しかし、それ以外の多くの分野で、わたしたちはほんとうの文明という点において、いつしか混乱の闇の中に足を踏み入れてしまいました。少なくとも大都会といわれる地域においては、そのことが言えます。

人間が作ってきた社会にはこれまで常に犯罪が存在してきました。それらは、すべてではないにせよ、これからも常に存在することでしょう。ポルノグラフィ、不道徳な行為、そのほか数々の問題は、これまでも社会の中に存在し、今後も存在し続けていくことでしょう。しかし、わたしたちが今日の<sup>ま</sup>目の当りにしている風潮がこのまま続けば、何らかの大きな破局に見舞われることは避けられません。例えば、婚外子（法律で認められた結婚関係にない男女の間に生まれた子供）の問題は、これまでも常に社会に存在し続けてきたことであり、これからも存在し続けていくと思われまふ。しかし、これは深刻な結果をもたらすものであり、わたしたちはこのいと

わしい社会現象の増加を見過ごしにするわけにはいきません。父親のない子供があふれているような状況は、どのような社会であっても、必ずその償いを求められます。

国家予算における歳入不足は確かに重大な問題ですが、わたしがそれ以上に心配しているのは、人々の道徳心の欠如ということです。わたしたちの社会には、より多くの警官が必要なのでしょうか。そのことの必要性に疑いを差し挟む気持ちはありません。社会はより多くの刑務所を必要としているのでしょうか。それも必要だと思われまふ。しかし、そのようなこと以上に、何にも増して必要とされているのは、家庭を強めることなのです。子供は家庭の中で育てられるのです。今、社会では青少年の問題が非常に深刻になっています。しかしそれよりも深刻なのは親の問題なのです。この教会ではこれまで長い間にわたって、教会員の家庭を強めるために多くのことを教え、様々な働きをしてきました。わたしはそのことに感謝しています。

現代の日常生活が様々な面で便利になっているのは喜ばしいことです。しかし、わたしは今多くの家庭の中で起きている事柄に心を痛めています。最近伝えられたところによると、合衆国だけで年間80万件以上の家庭内暴力が起きています。離婚率の高さは、社会を構成する家庭の弱さについて、重要な事柄を物語っています。荒廃した家庭は必然的に、問題のある子供を生み出します。

では、今何ができるでしょうか。1日、1か月あるいは、1年という短い間に状況を180度転換させることはできません。しかしわたしは確信しています。必要な努力をして、今の世代から状況転換への働きを始めるなら、次の世代にはすばらしい成果を達成することができます。それは、人の歴史の流れの中で見れば、それほど長い時間ではありません。徳に満ちた精神を家庭の中に取り戻すこと以上に、永続的な祝福をもたらせるものはほかにありません。

少年のころ、わたしたちは学校のある間は町で暮らし、夏になると果樹園で生活しました。そこでは、りんごや桃の果樹園があり、ほかに様々な果物の木を育てていました。兄とわたしは、10代になると木のせん定の仕方を習いました。2月と3月には、雪がまだ地面に残っていましたが、土曜日ごとに果樹園に行きました。農業大学で開かれた講習会にも出席しました。当時の経験からせん定について大切なことを学びました。例えば、2月

に桃の木をどうせん定するかで、9月にどのような実を収穫できるか、ほぼ決まってしまうことを学びました。要は、生長していく実が、風通しのよい状態で、日光を十分に受け、互いに十分な間隔を保てるように枝をせん定するのです。

同じことが子供にも言えます。次のような真実を突いた古い格言があります。「若木が傾いていれば、その木はかしぐ。」以前に総大会で話したことを繰り返させていただきます。わたしたちは結婚して間もなく、最初の家を建てました。お金があまりなかったのも、ほとんどの仕事を自分でしました。庭造りも全部自分でしました。たくさん木を植えました。その最初はサイカチの木でした。いずれ夏には涼しい木陰を作ってくれる日が来ると想像しながら、庭の片隅にそれを植えました。そこは峡谷からの東風がいちばん強く当たる場所でした。穴を掘り、そこに植えました。そして周りに土を入れ、水をかけましたが、後はその木のことはほとんど忘れていました。それは直径2センチほどの小さな木でした。枝はともしなやかで、どちらの方向にでも簡単に曲がりました。年月は過ぎていきましたが、わたしはその木にはほとんど注意を向けませんでした。そしてある冬の日、たまたま窓越しに、葉をすっかり落としたその木を見たのです。それは樹形も悪く、バランスが取れず、西方に傾いていました。まったく信じられない思いでした。わたしは外に出て、その木を自分の力で押して、まっすぐに立てようと試みました。しかし幹の直径はすでに30センチほどになっていて、わたしの力ではびくともしませんでした。そこでわたしは、工具箱から滑車とロープを取り出してきて、ロープの一方の端を木に、もう一方をしっかりと支柱に縛りつけ、それを引っ張りました。滑車が少し動き、木の幹がわずかに揺れました。しかし、それだけでした。「おまえにはわたしをまっすぐにすることはできない。遅すぎるよ。おまえが構ってくれなかったから、わたしはこんなふうになってしまったのよ。てこでも動かないよ」と、その木に言われているような気がしました。

わたしは最後の一念で、西側に伸びた大枝をのこぎりで切り落としました。少し下がって、自分がしたことの結果を見てみました。わたしが切ったのは木の主立った部分で、空に向かって伸びる枝が1本だけ残っていました。

あの木を植えてから、すでに半世紀以上がたちました。

今その家には娘とその家族が住んでいます。先日、その木を見てみました。大きくなり、形もよくなっていました。今ではその家にとって貴重な存在となっています。しかし、わたしがその木に残した傷はひどいものでした。まっすぐに立て直すためとはいえ、我ながら随分手荒なことをしてしまったのです。最初に植えたときに、ひも1本で動かないようにしておけば、風の力にも耐えて、まっすぐに育っていたことでしょう。ひもを結わえることなど、わずかな手間でもできたことですし、そうすべきだったのです。しかし、わたしはそれをしませんでした。そして木は、吹きつける風の力に負けて、傾いてしまったのです。

子供たちは、木とよく似ています。普通小さな子供であれば、それほど力を入れなくても、その生活を形作り、導いていくことができます。箴言の作者はこう書いています。「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言22:6) この訓練の根幹は家庭にあります。そのほかに頼りとなるものはまずありません。このますますひどくなる状況の中で、行政に依存してはいけません。前合衆国大統領ジョージ・ブッシュの夫人、バーバラ・ブッシュは1990年にマサチューセッツ州ウェルズリーで、ウェルズリー大学の卒業生を前に次のような賢明な勧告をしています。「家族としての皆さんの成功、社会としてのわたしたちの成功は、ホワイトハウスで行われることではなく、皆さんの家で行われることにかかっています。」

神の教えはわたしたちの助けとなり、驚くべき結果をもたらしてくれます。神の教えは正しい価値観の守り手であり、標準を説いてくれるすばらしいものです。価値観にかかわる神のメッセージは、いかなる時代にあっても首尾一貫しています。シナイ山の時代から今日に至るまで、主の声は善と悪について厳かな宣言を発しています。その声は現代の啓示の中でも、次のように宣言しています。「わたしはあなたがたに、あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じた。」(教義と聖約93:40)

「では、どうしたらよいのか」と皆さんは思われることでしょう。親の立場にある人が、これからお話しする4つの簡単な事柄に従うなら、1世代か2世代のうちに、道徳的価値観において、わたしたちの社会を180度転換させられることでしょう。

それは次のように簡単なものです。親と子供が(1)





PHOTOGRAPH BY CRAIG DIMOND

良書を一緒に読んでください。小さな子供たちに本を読んで聞かせていない親がいることを残念に思います。良書の中に見いだされる感動を知らない子供たちはかわいそうです。

一緒に徳について教え、それを身に付ける。(2) 一緒に働く。(3) 一緒に良書を読む。(4) 一緒に祈る。

小さな子供を持つ方々に、次のことをお勧めします。

1. 子供たちに徳を教えてください。人に対して礼儀正しくあるべきことを教えてください。わたしたちは、これまでユーゴスラビアの分裂に伴い、とても信じられないような状況を目にしてきました。ユーゴスラビアは激しく憎み合う幾つかのグループに分裂し、血で血を洗う戦いをしています。慈悲の心が消え失ってしまったかのような状態で、罪のない人々が情け容赦なく、銃で撃ち倒されています。なぜこのようなことになってしまったのでしょうか。この地域の家庭で、何世紀にもわたって自分たち以外の民族への憎しみが代々語り伝えられてきたことに原因があるのではないのでしょうか。この地域で繰り返されている悲惨な状況は、過去何世代にもわたって子供たちの心にまかれてきた憎しみの種が苦い実となって表れたものなのです。

どのような地域にあっても、異なるグループの人々が互いに争う必要など決してないのです。人は皆永遠の父なる神の子供です。またその親子としてのきずなとともに、兄弟同士のきずなを持つことが可能であり、持たなければなりません。このことを家庭で教える必要があります。女性に対しても、男性に対しても敬意の念を持つように教える必要があります。夫の立場にある人々は、妻に対して尊敬と優しさと感謝の気持ちをもって語りかけるようにしてください。妻の立場にある人々は、夫の美德を見いだし、それについて語るようにしてください。デビッド・O・マッケイ大管長はよく、男性が子供に対してできる最も素晴らしいことは、自分が子供の母親を愛しているということを理解させることであると言いました。

わたしの言っていることは古いでしょうか。確かに、そのとおりです。それは真理そのものと同じほどに古くから存在する教えなのです。争いの絶えない家族は、そこに悪魔の狡猾さが表れているにすぎません。

親は子供に、性の神聖さを教える必要があります。また、生命を創造するこの賜物が神聖なものであること、幸福と平安と徳を得るには、肉体に秘められた強い力を抑制すべきであり、そのようにできるということを教えてください。すべての若い男性の心に、若い女性は皆永遠の御父の娘であり、若い女性を傷つけるのは、自分自

身の愚かさを示すだけでなく、神御自身を傷つけるのと同じであるという重要かつ明白な教えを刻みつける必要があります。子供が生まれると、それに伴って、生きていくかぎり続く責任が生じることも教えてください。

盗み、人をだますことが悪であり、偽りはそれを口にする人の不名誉になることなどの真理を模範と言葉によって教えてください。礼儀を文明の中に回復させようと思うなら、子供が幼いうちから、家庭の中で、まず両親がそれを始めなければなりません。それ以外の方法で、達成できるものではありません。

2. 一緒に働いてください。「怠け心は悪魔の仕事場」という言葉は、いつごろから言われ始めたものなのでしょうか。子供たちは親と一緒に、皿洗い、床掃除、芝の手入れ、庭木のせん定、ペンキ塗り、修理、整理整頓などをする必要があります。清潔さ、進歩、繁栄などを手に入れるには働かなければならないということを教えてくれる数多くの事柄と一緒にする必要があります。何かを手に入れるにはそれを盗めばよいというような考えで大きくなっている若人があまりに多すぎます。

落書きは、それを書いた本人がきれいにすれば、すぐに消えることでしょう。わたしは自分が中学1年のときに経験したことを今でも覚えています。わたしはほかの男の子たちと昼食を食べていて、バナナの皮をむき、それを地面に捨てました。すると校長先生が近づいて来て、わたしにそれを拾うように言いました。その言葉には、非常に強い響きがありました。わたしはベンチから立ち上がると、そのバナナの皮を拾い、くず入れに捨てました。くず入れの周りには、ほかにもごみが落ちていました。わたしが自分のバナナの皮を拾うと、校長先生は、ほかのごみもきれいにするように、と言いました。わたしはそれに従いました。以来、バナナの皮を捨てたことは一度もありません。

3. 良書を一緒に読んでください。わたしは、テレビは大勢の人を教えるために作られた道具としては最高のものではないかと考えています。しかし一方で、テレビの画面からわたしたちの家庭の中に吐き出されてくる卑わいな表現、腐敗、暴力、冒瀆的な言葉などは厳しく非難すべきだと思います。それは今の社会の悲しむべき縮図です。1日に6、7時間もテレビを見ている家庭が数多くあるという現実、非常に深刻なことを物語っています。テレビ中毒にかかっているそのような人々がいることを残念に思います。それはまさしく中毒症です。ほ

かの数多くの悪い習慣と同じで、有害な習慣です。小さな子供たちに本を読んで聞かせていない親がいることを残念に思います。良書の中に見いだされる感動や、偉大な人物の精神に触れる体験のすばらしさを知らない子供たちはかわいそうです。それらの作品は、優れた作家たちが、様々な大切な事柄について、磨き上げ、洗練された言葉でそれぞれの考えを述べたものなのです。

合衆国大統領トーマス・ジェファーソンが子供のときに欽定訳『聖書』のすばらしい聖句を学びながら育ったということ、以前に読んだことがあります。聖典を読み続ける中で、わたしたちは偉大な人々、時には主御自身と歩むことさえできます。さらには、美しく力強い感動的な語句に訳された古代の預言者の厳かな言葉を読み、深く味わうこともできます。実にすばらしい機会です。

「テレビを消して、良書に親しもう」というスローガンに従うなら、わたしたちは子供たちを強めるという点において、非常に大切な働きをすることになります。誤解しないでください。テレビを通してわたしたちは実に多くの価値あるものに触れることができます。しかしわたしたちは、自分で良いものを選ぶ必要があります。多くの放送作家やプロデューサーのくだらない作品や話にうつつを抜かしてはなりません。

最近ある人が1冊の本をわたしに贈ってくれました。彼は大きな大学の哲学博士で、その本を読んで非常に深い感銘を受けた、とのことでした。わたしは早速読んでみました。その物語の主人公はパリに住む少年で、8歳のときに事故で失明してしまいました。彼が闇に取り囲まれたときに、どのようにして新しい光の世界に入って行ったかを描いた物語でした。彼が16か17歳のときにドイツがフランスを占領し、ドイツ兵がパリに進駐してきました。この盲目の少年は、才気あふれる学生で、レジスタンスのグループを組織しました。そして仲間たちと一緒に印刷機で刷り上げた小さな新聞を通して情報の収集と伝達を行う仕事を進めました。その仕事は、1回に25万部を配付するまでに成長していきました。しかし彼は、仲間の裏切りによって逮捕され、ブーヘンバルトの収容所へ送られました。不潔で絶望的な環境の中、彼は自分と同じような犠牲者と寝起きを共にしました。目は見えませんでした。彼の心の中には一つの光があり、その惨めな状況を克服させてくれました。彼はその不潔な収容所に入れられた人々の指導者として頑張りました。彼が始めた小さな新聞は、やがて大新聞となりました。



PHOTOGRAPH BY LONGIN LONCZYNA, JR.

一緒に祈ってください。父親と母親の皆さんが、子供と一緒にひざまずき、神の座に向かって、祝福への感謝を述べるよう奨励されています。

わたしはその本を読み、傑出した一人の青年の物語に感動し、鼓舞されました。テレビの中に子供のヒーロー、ヒロインを見つけることができなければ、良書の中にそれを見いだせるよう、子供たちを助けてください。

4. 最後は、一緒に祈るということです。祈りは難しいことでしょうか。子供と一緒にひざまずき、神の座に向かって、祝福への感謝を述べ、自分自身や苦しむ人のために祈り、世の贖い主、救い主の名によってお祈りをするように、父親と母親を促すのはそんなに難しいことでしょうか。祈りには大きな力があります。そのことは、わたしも、そして皆さんもともに証<sup>あかし</sup>することができます。いかなる家族であれ、この簡単で貴い行いがもたらす恵みを逃してしまうのは、実に悲しいことです。

これらは親と子供について考えるべき大切な事柄です。一緒に徳について教え、それを身に付けましょう。ともに働きましょう。一緒に良書に親しみ、一緒に祈りましょう。これらのことは、どんなに生活が忙しくても、実現可能です。また子供たちと一緒に、特に彼らが幼い

ときに行うべきです。子供たちが10代に入ってしまう、もはや手遅れと思えるかもしれません。しかし、わたしのサイカチの木の例を思い出してください。手荒な処置をし、苦労もありましたが、それでも随分美しくなり、後には熱い日差しを防ぐ木陰を作り、喜ばれるようになったのです。

わたしは聖なる使徒職に任じられている一人として、また今の召しに任じられている者として、皆さんにお勧めします。その聖なる職は、誉れとして与えられたものではありません。皆さんを祝福し、励まし、力づけ、善き事柄と神聖な事柄への信仰を築くための責任を伴って与えられたものです。兄弟姉妹の皆さん、その神権の権能によって皆さんを祝福いたします。たとえ自分たちの働きがわずかばかりのものと感じたとしても、皆さん一人一人が、それぞれの家庭を徳の精神で満たし、国家の中にあってもそれを再び取り戻すために、良い働き手となるように祝福いたします。□

このメッセージは、1994年3月5日、ブリガム・ヤング大学管理協会ワシントンD.C.分会での説教を基に書かれました。

### ホームティーチャーへの提案

1. 人類は、技術的な分野において様々な奇跡を成し遂げてきた。しかし悲しむべきことに、道徳的、倫理的な面においては荒廃が進んでいる。

2. 今日<sup>こんにち</sup>の社会で何にも増して必要とされているのは、家庭を強めることである。

3. 親の立場にある人が、以下の4つの簡単な事柄に従うなら、1世代か2世代のうちに、道徳的価値観において、わたしたちの社会を180度転換させられるであろう。

- 子供たちに徳について教える。
- 一緒に働く。
- 一緒に良書を読む。
- 一緒に祈る。

4. これらのことは、どんなに生活が忙しくても、実現可能である。また子供たちと一緒に、特に彼らが幼いときに行うべきである。

# 家 族

## 世界への宣言

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会  
ならびに十二使徒評議会

**わたしたち**、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。

**すべての人は**、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親の大切な霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神になる可能性とを備えています。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。

**前世で**、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、

業ぎょうであり」(詩篇127：3)とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前みまへで報告することになります。

**家族は**神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改めゆる、赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっ

最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を得るために、地上での経験を得られるようになったのです。神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。

**神が**アダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。

**わたしたちは**宣言します。この世に命をもたらす手段は、神によって定められたものです。わたしたちは断言します。命は神聖であり、神の永遠の計画の中で重要なものです。

**夫婦は、**互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。「子供たちは神から賜<sup>たま</sup>わった嗣<sup>し</sup>

とって確立され、維持されます。神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。また、必要なときに、親族が援助しなければなりません。

**わたしたちは**警告します。貞節の律法を犯す人々、伴侶<sup>はんりょ</sup>や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。

**わたしたちは、**全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進めてくださるよう呼びかけるものであります。

この宣言は、1995年9月23日、ユタ州ソルトレーク・シティーで開催された中央扶助協会集会において、ゴードン・B・ヒンクレー大管長により、メッセージの一部として読み上げられたものである。

# フローレンス・チャクラー

ジャン・U・ピンボロー、バーバラ・J・クラーク

ナ イジェリアのラゴスに住むフローレンス・チャクラーの顔には喜びがあふれています。それは当然かもしれません。チャクラー姉妹は信仰、家族、教育の面で最高の祝福を受けているのですから。彼女は、強い信仰を持つ子供たちの母親であり、経験豊かで有能な看護婦でもあります。また、夫のクリストファーがガーナ・アクラ伝道部の部長に召されていた間は良き補佐役でした。伝道期間中、チャクラー姉妹は宣教師たちに、水を沸騰させろ過してから飲むように、十分な食事を取るように、そして身の回りを清潔に保って生活するよう

に教え、彼らが病気にならないように配慮しました。現在、チャクラー夫妻はさらにすばらしい奉仕の機会にあずかっています。チャクラー兄弟が先ごろ、アフリカ地域の地域幹部に召されたのです。

けれどもフローレンス・チャクラーの人生は始めからば色だったわけではありませんでした。彼女がどのようにして目的を達成し成功したかをたどってみると、それは奇跡の物語のようです。

毛虫が決して美しいとは言えない幼虫から見事なちょうへと次第に変化していくさまは奇跡にたとえられます。けれども人の生活が変わるとい

とは、それよりはるかに美しいものです。そしてこの奇跡はすべての人に起こり得るのです。エズラ・タフト・ベンソン大管長もこう説明しています。「自分の命をささげて神の御心<sup>みこころ</sup>をなそうとする人は、当のわたしたちが考えている以上に、神がわたしたちの能力を引き出して多くのことを成し遂げられることに気づくでしょう。神はそのような人に対して、さらに大きな喜びと展望を与え、また理解力を増し加え、肉体を強め、精神を高め、祝福を豊かに注ぎ、さらに多くの機会を授け、慰めと平安、友人を与えてくださることでしょう。」(1986年12月7日、大管長会クリスマス礼拝集会)

毛虫から美しいちょうへと変わっていくさまがゆったりとした時の流れの中で行われるのと同じように、人の生活の変革も瞬時にして起こるわけではありません。主を一心に見詰め、主の御心に従おうとする人は、たとえ人生がチャレンジの連続であったとしても、そうしたチャレンジを通して強さを増し加えられるのです。

## 「一心不乱に働こうと決心しました」

フローレンス・チャクラーの人生からは、変化の奇跡をはっきりと見て取ることができます。フローレンスはナイジェリアのオニチャの貧しい家庭に生まれました。父親は船乗りでめったに家にいませんでした。母親は正式な教育も受けられずに、家族を食べさせるためにただひたすら働いていました。

フローレンスは10代になろうとするころにやっと自分の家がどれほど貧しいか分かるようになりました。そして11歳のときには、「貧乏な生活から脱け出すんだ」というはっきりとした決意を固めるようになっていました。この決意が幼い子供の単なる望みと異なるのは、生活を向上させるためにどうするかを決めていたことでした。

第1に、「心から神に従うことによって貧しきから抜け出そうと決心しました」とフ



# の奇跡

ローレンスは当時を回想します。この根本となる決意に加えて、3つのことを実行する決意もしました。「両親と年輩者に従順であること、真剣に勉強すること、そして、体を動かして一生懸命働くことです。」

フローレンスは人生の大半をひたすら働き続けてきました。家族のために共同水道や川から水をくんでくることが、木の切れ端を集めてきて炊事のたきぎに小さく切ること、そして家族の主食であったキャッサバを何時間もかけて母親と一緒にすりおろすこと、などです。

学校から帰るとすぐに幼い弟や妹の面倒を見、食事を食べさせ、それから勉強にかかりました。毎週土曜日は共同水道で洗濯をしました。休日でさえ、授業料を稼ぐ

フローレンス・チャクーラは、常に一生懸命働くことにより、貧困にあえぐ子供から、目的を達成し成功した女性へと変わることができた。





ために野菜を売り買いして歩きました。

11歳の少女であっても、決心してそれをやり遂げようとする強い気持ちがあったからこそ、これらすべてができたのです。「家族への愛、両親を尊敬する気持ちを表したい一心でしたから、喜んでしていましたよ」とフローレンスは述懐しています。

### 「あなたの歩んだ人生を話して聞かせなさい」

フローレンス・チャクラーは、貧しい家庭の子供たちに対して、とりわけ学校に行けないことや貧しさを恥じている子供に対して、特別な思いやりを示してきました。ガーナ・アクラ伝道部の部長夫人として支部を訪問するときは、そのような子供たちのために特別なメッセージを携えて行きました。「ある小さな支部を訪問したときの事です。」多くの若人は読み書きができず、教会へも来ていませんでした。「すると、『あなたの歩んだ人生を話して聞かせなさい』とささやく御霊の声がありました。そこでわたしは、自分も彼らと同じような境遇に育ったこと、そして勉強することと両親や先生に従うことによって





恥ずかしさを克服できたことを話したのです。」

フローレンスは少女時代に、学校の教師や校長をしている友達の両親を見て、自分も勉強に打ち込むことを決心しました。

フローレンスが看護婦に興味を持った理由の一つは看護婦の制服へのあこがれでした。弟や妹の世話をしたことも隣人を助けたいという思いをはぐくむきっかけとなりました。フローレンスが中学へ通うための授業料は父親が借金をして工面してくれました。後にフローレンスは自分でその借金を返済しています。けれども大学や、教職課程のある短大に進む余裕はありませんでした。しかし国の奨学金で看護学校に通うことができました。こうして、16歳のときには家から6時間の距離にある学校で、看護婦としての訓練を受け始めました。

彼女は、クイーン・エリザベス病院の看護学校を卒業する年には、年間最優秀看護婦に贈られるフローレンス・ナイチンゲール賞に輝きました。その後も勉強を続け、5年後の1970年には助産婦の資格を得ました。

今日、<sup>こんにち</sup>チャクラー姉妹は若人に対して、教会の学習能力向上プログラムに参加して読み書きの能力を身に付けるように奨励しています。「自分たちがアフリカの将来を担うようになることを分かってもらいたいです。」そして、自分の持つ能力に気づくと同時に、独創力と想像力を使って能力をさらに高めるよう若人を励ましています。

### 「救い主<sup>いかり</sup>に錨を下ろしている家族」

教育に対する情熱にも増して、若きフローレンスの心を大きく占めていたのは、結婚して自分の家族と一緒に教会に集いたいという気持ちでした。彼女はそれが最大の望みだったと言っています。家族そろって教会へ行く近所の人の姿を見ると、彼らが何か特別に祝福された人人のように思えたものでした。フローレンスは当時「ホーリー・ニエジェ」と呼ばれていた英国国教会の元牧師を尊敬していました。この人は子供たちに正しい行いをするように説いていました。

フローレンスの最大の望みを実現させた一連の出来事は、彼女の模範的な行いに端を発しています。彼女が看護婦として故郷ナイジェリアのオニチャに戻っていたときのことです。近所に住むある女性が、フローレンスは



看護婦として助産婦として大成した後に、フローレンスはクリストファー・チャクラーと出会い、二人で主の教会を探し求めた。

勤務を終えると、男性と連れ立ってどこかへ遊びに行くこともなく、まっすぐ家に帰って来ることに気づきました。そこで自分のおい<sup>い</sup>にフローレンスとの交際を勧めました。

クリストファー・チャクラーはフローレンスに会うなり自分は妻になってくれる人を探していると言いました。そして、おばが太鼓判を押すこの女性に、「結婚してほしい」と告げたのです。フローレンスは彼のプロポーズに、「考えてみます」と約束しました。

「わたしは生まれてからずっと、主を非常に身近に感じていました。何かが主に近くあるようわたしにささやき続けていたのです。」彼女は自分を大切にしてくれて、酒を飲まない善良な男性と結婚できるよう祈っていました。「わたしは救い主<sup>いかり</sup>に錨を下ろしている家族が欲しかったのです。」

フローレンスがクリストファーについて祈ると、温かい気持ちを感じ、この人は霊的な男性だということが分かりました。返事を聞くためにクリストファーが訪れた

とき、フローレンスは承諾し、二人は1972年3月3日に結婚しました。

フローレンスを感じたとおり、クリストファーも霊的に満たされるものを探し求めていました。二人は定期的に断食と祈りをささげて、幾つかの教会を巡り歩きました。

クリストファーの教育に対する情熱も同じでした。すでに大学で政治学と情報科学の学位を取得していたクリストファーは結婚後間もなく妻と一緒にナイジェリアを離れアメリカ合衆国に渡りました。そしてクリストファーはイリノイ州立大学の大学院で教育学を修め、フローレ



ンスは幾つかの病院で働きながら心理学を勉強しました。

二人がナイジェリアに戻ったのは1977年ですが、まだどの教会へ行くか決まっていませんでした。しかし1981年ごろになると、もう教会から教会へと巡り歩くことにうんざりしていました。

チャクラー家では毎年最後の日に家族で断食することを慣例としてきました。そこで、1981年の大晦日<sup>おおみそか</sup>は家族全員の人生を託せる教会を見いだせるよう、導きを求めて断食しました。それから9日後、フローレンスが台所で食事の用意を、



夫が不在で、ほかに神権者がいない中、フローレンスはひざまずき、病気の息子への助けを求めて祈った。  
上——チャクラー夫妻

クリストファーが大学の講義の準備をしていたときでした。二人はそろって祈りの答えを受けたと感じました。

「家族ぐるみでおつきあいしている友人をどうしても訪ねなければならないという気持ちになったので、それを主人に告げると、『実はぼくも同じ気持ちなんだ。今すぐ行こうか』と言ってくれたんです。」

友人宅を訪れた二人は、出された飲み物に驚きました。普通の家であればビールを出してもてなすのに、ジュースを勧められたのです。友人夫婦は「今、末日聖徒イエス・キリスト教会という教会に所属しているため、アルコールやたばこを口にしなくなったんだよ」と説明してくれました。

そのときの様子をチャクラー姉妹は次のように話しています。「主人とわたしはお互いに顔を見合わせました。わたしたちは深く愛し合っているのです、相手の目を見ればお互いの考えが分かるのです。そして、二人してすぐにこう尋ねました。『その教会の会員になるにはどうしたらいいの。』」

こうして、宣教師から福音について学び、1982年2月にバプテスマを受けました。

### 「わたしはいつも心の中で歌を歌っています」

教会に入ってから10年後、クリストファー・チャクラーはガーナ・アクラ伝道部を管理する召しを受けました。この召しによってすばらしい祝福の扉が開かれました。チャクラー夫妻はソルトレーク神殿で夫婦の結び固めを受けたのです。

現在、南アフリカ・ヨハネスブルク伝道部で宣教師として働いている長男のエメカも、そのとき両親との結び固めを受けることができました。

チャクラー夫妻はほかの二人の息子たちとも結び固めを受ける日を待ち望んでいます。次男のウーケンナは高校を卒業し、セミナーを終了したところです。ウーケンナは支部の音楽指揮者と伴奏者の召しを受けており、医学の道に進みたいと願っています。10歳になる三男の名前はオルエブで、これには「神の奇跡」という意味があります。オルエブは、学校の成績が非常に優れているだけでなく、美しい声の持ち主です。チャクラー家にはほかに二人の養女がいます。

チャクラー兄弟姉妹は教会の召し、育児のいずれにつ

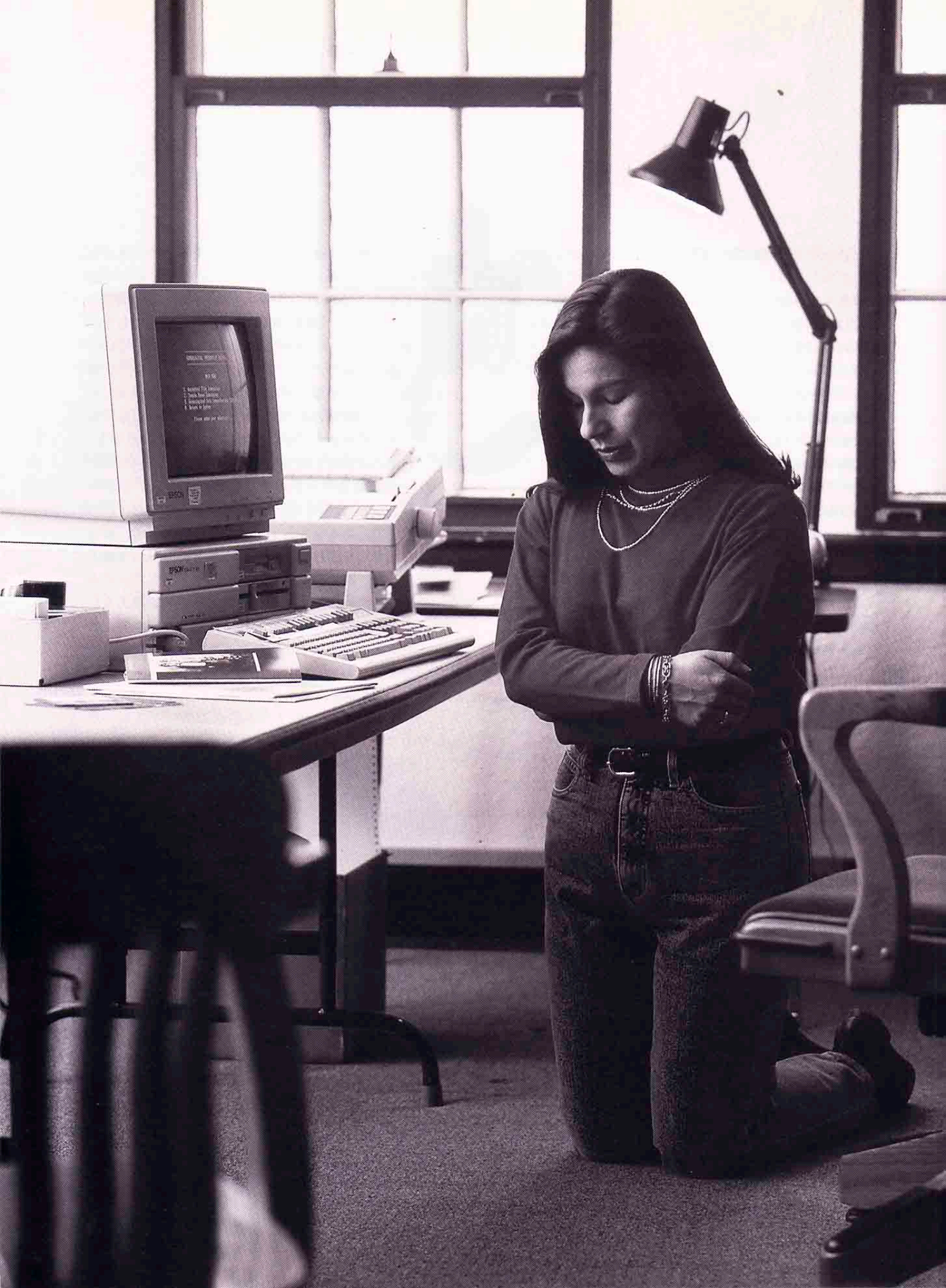
いても御霊の導きに従うことの大切さを学んできました。伝道部長である夫がシエラ・レオネに出かけていて不在だったときのことで、ウーケンナが非常に重い病気にかかり、チャクラー姉妹が家にいて看病していました。当時9歳だったウーケンナは医師から薬をもらっていましたが、病状は悪化する一方でした。おうとが続き、体力が急速に衰え、やがてすっかり衰弱してしまいました。フローレンスが脈をとると、かすかに鼓動が分かるぐらいにまで弱っています。彼女は死を覚悟しました。

息子のために祝福を頼もうにも神権者がいないため、チャクラー姉妹はベッドの傍らにひざまずき、息子をしっかりと抱きながら、助けを求めて祈りました。祈っている途中で、ある薬を与えてはいけないという、はっきりとした示しを受けました。そのときの時刻は午後5時45分でした。次の投薬は午後6時の予定でした。チャクラー姉妹は慰めの気持ちを覚えながら祈りを終えました。どうすべきかをはっきりと知った彼女は薬を変えました。するとウーケンナの脈拍は直ちに正常に戻り、吐きけが治まったのでした。

「家にいれば神権の祝福を与えてくれる主人が、その日はいませんでした。ですから主にお問い合わせするしかなかったのです。わたしは信仰を行使し、主を呼び求めました。そして主は、ウーケンナを助けてくださったのです。」

フローレンス・チャクラーは自分の人生で起きた奇跡を感謝の気持ちを込めて数え上げています。「わたしは食物を他人にねだるようなことはありませんでした。自立することができました。家庭を衛生的にすることによって伝染病を予防するよう家族に教えることができました。多くの人々に教える機会がありました。また、神権を持ち、神を畏れ、神に奉仕することを子供たちに教えてくれる夫にも恵まれています。」

フローレンス・チャクラーの人生は、不安と欠乏の人生から、平安と喜びの人生へと変わりました。「主はわたしの祈りを聞いてくださいました。主は、輝く幸福な未来を求めて苦しみ、探し求めるわたしを御存じでした。主はわたしの努力に対して数え切れないほど多くの祝福を下さいました。教会に入ってから、わたしは平安な気持ちで毎朝を迎えています。わたしはいつも心の中で歌を歌っています。」□



# 障害と信仰と 奇跡

第一副管長

トーマス・S・モンソン

**家**族歴史の探求を始める人々に大きく立ちはだかる障害の一つに、「恐れ」とそれに付随する無力感という敵があります。天父と御子はわたしたちに、亡くなった先祖を探求し、彼らの身代わりとして昇栄の儀式を執行するよう命じておられます。しかしながら、神は先祖の探求で悩み苦しむわたしたちを放置されるのではなく、時として劇的な方法で道を備え、わたしたちの祈りにこたえてくださいます。

数年前のことですが、ロイター通信からのある特電が新聞に掲載されました。一人のアメリカ人が、長い間音信の途絶えていたイギリスの親戚を探するため、ロンドンに1通の手紙を出したところ、消息が判明したというニュースでした。モンタナ州マイルズシティに住む25歳の青年マイク・アークデイルが知っていたことといえば、祖父のライオネル・ドーソン・アークデイルが19世紀末に北アイルランドから合衆国に移民して来たということだけでした。そこで彼は、ロンドンで唯一住所を知っていた英国観光局あてに、自分の親戚を探してほしいという手紙を書きました。

観光局でこの手紙を開封したのが、広報担当職員ギルバート・アークデイルという人でした。

ギルバート・アークデイルは簡単な調査を行ってから、マイクに返事を書

きました。「初めまして、わたしはあなたのいとこです。」

その後どうなったかは言うまでもありません。

スカンジナビアに先祖を持つ人々には「父称」という厄介な問題があります。スカンジナビアにゆかりのない方々にわたしたちが抱えている問題を紹介しておきます。わたしの祖父の名前はネルス・モンソンと言います。祖父の父親はモンソンとは言わず、モンズ・オークソンでした。その父親はオーク・ペダーソン、そして、その父親はピーター・モンソン、またモンソンに戻ります。彼の父親の名前はモンズ・ルスティヒで、これは兵役に就くときにピーターソン、ジョンソン、モンソンなどの姓が多かったために区別する目的で付けられた、スウェーデンの軍隊名です。この問題は命名の過程を理解すれば解決することができます。

ヒュー・B・ブラウン副管長は神権系図委員会が創設されたときに委員会の一員だったわたしたちに対し、霊界における伝道活動はピッチを上げて進められていると述べました。さらにブラウン副管長は、ジョセフ・F・スミス大管長の言葉を引用して、この世において永遠の福音を聞く機会のなかったすべての人は今福音を耳にしていると語りました。スミス大管長はこのように宣言しています。「預言者ジョセフに啓示されたこの福音は、福音の知識なくしてこの世を去り、霊界へ行って獄にいる霊たちにすでに宣べ伝えられている。ジョセフ・スミスは彼らに福音を宣べ伝えている。ハイラム・スミスも同様である。ブリガム・ヤングも、預言者ジョセフの管理の下にこの神権時代に生きたすべての忠実な使徒たちも同様である。」<sup>1</sup>

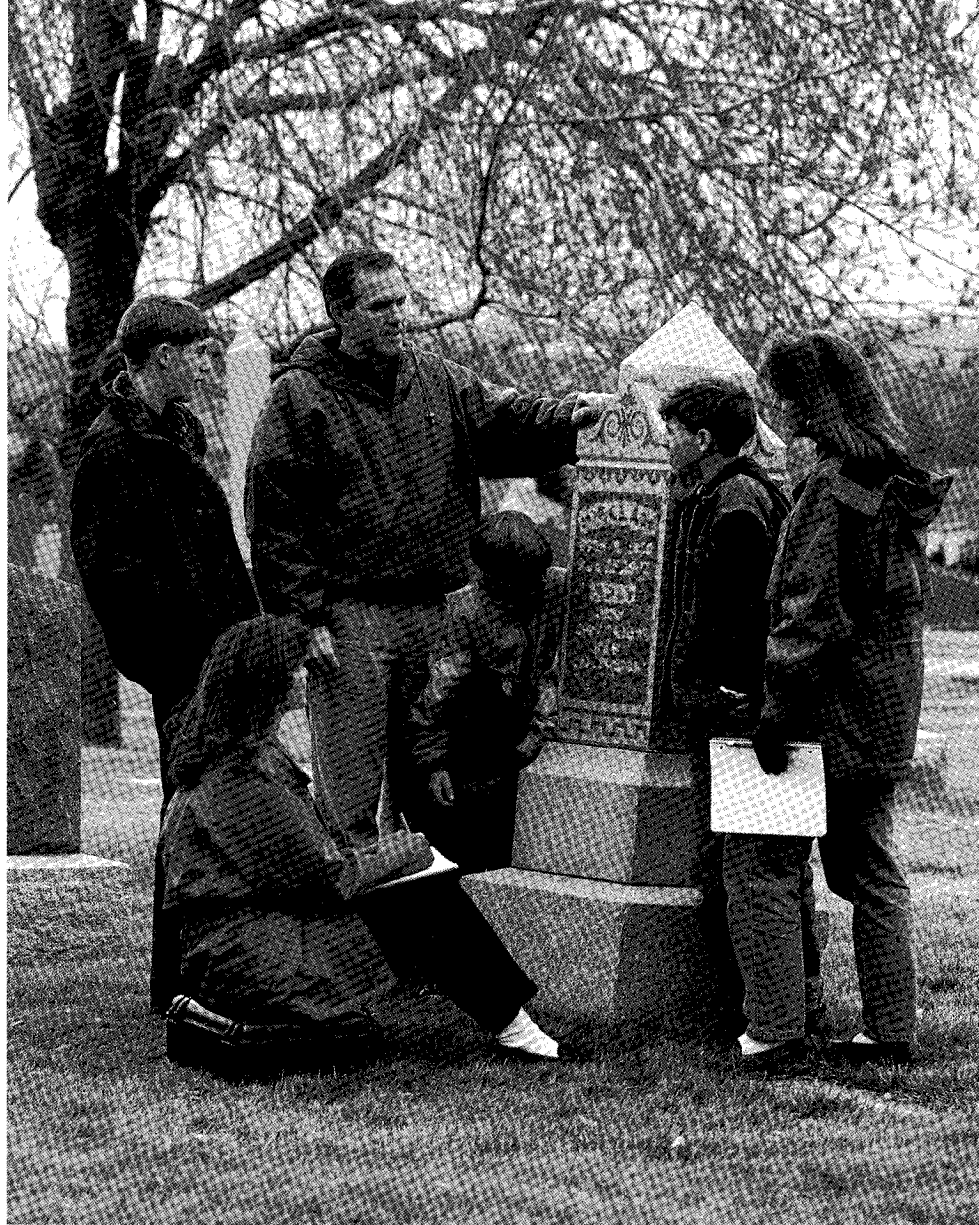
またスミス大管長は1916年に次のように述べています。「わたしたちの働きを通して、彼らを縛る鎖が外され、彼らを取り巻く闇が払われる。そして光が彼らの上に輝き、彼らは地上の子孫が自分たちのためにしたことを霊界で聞き、あなたがこれらの義務を果たしてくれたことを、あなたとともに喜ぶであろう。」<sup>2</sup>

わたしは「義務」という言葉が好きです。わたしにとって義務という言葉は何か神聖な響きを持っています。ハ

リー・エマソン・フォスディックの言葉が心に浮かんできます。「人は金のために精を出す。そして、人のためにはもっと力を出し、大義のためにはその全力を尽くすものである。義務を喜びに変えて初めて、徴集兵としてではなく、愛国心に燃えた一国民として国家のために戦うようになる。義務は、喜んで力いっぱい行おうという人の手によらないかぎり、立派に果たされることはない。」家族歴史の探求に熱心に取り組んでいる人々は、義務についてこの定義を満たしています。全力を尽くしているからです。

先祖を探求するわたしたちに、この世の障害が大きく立ちほだかり、とても乗り越えられそうもないと感ずることがあります。しかし往々にして、奇跡的な方法で山積する問題が取り除かれ、先が見えてくるものです。

数年前のことですが、カリフォルニア州ユバシティーに住むアリス・E・スミスは曾祖父の死亡記録を探し出すに当たって特別な経験をしました。それはわたしたちの信仰をも鼓舞してくれる体験でした。スミス夫妻は、ワシントン州シアトル近郊に住む娘を訪問する、年に1度の旅行から帰るところでした。スミス姉妹は、ご主人が帰路に寄り道するのをとても嫌うことをよく承知していたのですが、曾祖父の死亡記録を探し出せるかもしれないので墓地に立ち寄って欲しくないかと頼みま



先祖を探求するわたしたちに、この世の障害が大きく立ちほだかり、とても乗り越えられそうもないと感ずることがあります。しかし往々にして、奇跡的な方法で山積する問題が取り除かれ、先が見えてくるものです。

した。意外なことにご主人は、コロンビア河畔の小さな町に寄ることを二つ返事で承知しました。

二人は車を走らせて、3か所ある墓地のうち、勳を頼りにいちばん近い墓地へ行きました。年代の古い墓がある一帯の中央に駐車すると、一つ一つ墓標を見て回りました。10分もしないうちにいちばん下の娘が声を上げました。「ここにベイリーってあるわ。きっとこれよ。」

ご主人は空き缶に水をくみ、車からタオルを持って来ると、丹念に墓標を

ふいて長年のこけを落とし、名前と日付を完全に読めるようにしました。さらにふき続けると簡単な言葉が刻まれているのが分かりました。この刻印には重大な意味がありました。「ここにわが心を置く。わが心を取りて、結び固めよ。天の宮廷に結び固めよ。」まさにそれは天の助けでした。こうして、メソジスト派の熱心な信者だった先祖から現代の子孫にあてたメッセージが伝えられたのでした。

昔の賛美歌「すべての祝福の泉に來たれ」から引用した言葉も見つかりま

した。この賛美歌は、そこに込められた神聖なメッセージとともに、増し加わる子孫に永遠にわたって歌い継がれていくことでしょう。またこの家族にとって、「結び固める」という言葉もいっそう大きな意味を持つことでしょう。

主の業はこの世に生きている人だけに限定される、と主が語られたことは一度もありません。預言者ジョセフ・スミスは、わたしたちが自分の救いのために必要なすべてのことは、亡くなった愛する人々の救いのためにも行われなければならないと述べています。なぜなら、救いの条件はだれに対しても同じだからです。

善を行うことに疲れ果ててはなりません。この神聖な業に対して小さなあるいは無意味な貢献しかできないと感じることがあったら、「人の価値が神の目に大いなるものであること」<sup>3</sup>を思い起こしてください。わたしたちがこの業に対して証を得ると、当然、その成長と発展のためにもっと貢献したいという気持ちになります。様々な障害も朝日の前のもやのように消えていきます。変わらぬ信仰をもって神の業を行って行けば、必要とする祝福を受ける備えができるでしょう。

わたしがカナダのトロントに本部を置くカナダ伝道部の部長を務めていたとき、伝道部内にマートル・バーナムという、家族歴史の探求に非常に熱心

な姉妹がいました。この神聖な務めにとっても忠実な人で、特にセントローレンス川地域の資料をたくさん集めていました。しかし彼女は、あるところで行き詰まっていた。どこに助けを見いだせばよいかも分かりません。研究し、調査し、祈りましたが、成果は上がりません。それでも、あきらめませんでした。必要な資料を見つけられないまま月日が過ぎていくことに焦りや疲れを覚えてはいましたが、希望を持ち続けたのです。

ある日、バーナム姉妹が古本屋の前を通りかかると、どうしても中に入りたいという気持ちになりました。書棚を上から下に見ていくと、ある本が目にとまりました。どうして目に留まったかについて彼女は、「主が靈感を与えてくださったとしか考えられません」と、証しています。それは2冊の本で、『クウィント湾岸開拓者の生活 (Pioneer Life on the Bay of Quinte)』、第1巻、第2巻とそれぞれ背表紙に書いてありました。何かの小説のようでした。彼女は手を伸ばして書棚からほこりだらけの2冊の本を取り出し、内容を見て驚きました。それは小説ではありませんでした。そこには、記録が残されるようになって以来、クウィント湾岸一帯に生活したすべての人の系図が記されていたのです。彼女は我を忘れてページをめくっていました。そして、彼女の系図の空白

部分に当たる記録が見つかったのです。こうして、バーナム姉妹の家族歴史の探求は再び軌道に乗ったのでした。

この書物をバーナム姉妹が買えるよう、地元の長老定員会がかなりの資金を調達してくれました。そして、この大切な資料はソルトレーク・シティーの教会本部に送られました。この書物を通して、幕のかなたへ行った何千人もの人々の系譜がつながったという手紙がわたしのもとに寄せられました。家族の系譜をつなぐこの宝の発見に大勢の人々が喜びました。その一人が、当時大管長会の一員だったヘンリー・D・モイル副管長です。彼の祖父の一人がまさしくその地域の出身だったのです。これらすべてのことは、信仰篤い一人の主の僕が、あきらめず、落胆もせず、「わたし個人にできることはもう何もない」という言葉を発しなかったために起こりました。

家族歴史の探求というわたしたちの宗教の根幹を成し、また報いある業を果たす兄弟姉妹のうえに、天父の祝福が注がれますようにお祈りしています。

□

#### 注

1. 「福音の教義」p.450
2. Conference Report 「大会報告」1916年10月, p.6
3. 教義と聖約18:10

## 友人がジョセフ・スミスの示現を受け入れられるようにするには、わたしにどんな助けができるでしょうか。

わたしの友人は、「教会の教えはすべて受け入れられるけど、ジョセフ・スミスの最初の示現だけは別だ」と言います。わたしは友人にどう話せばよいのでしょうか。

本誌の答えは、問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

### 回...答

アダムの時代以来、神は預言者を召して、地上に住む神の子供たちに御言葉を伝えてこられました。「聖書」の中で、神はこう言われています。「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされぬ。」(アモス3:7)

示現というのは、神が預言者と交わられるための一つの方法にしかすぎません。神は次のように言われました。「あなたがたのうちにも、もし、預言者があるならば、主なるわたしは幻(訳注——英文では“vision”，つまり「示現」)をもって、これにわたしを知らせ、また夢をもって、これと語るであろう。」(民数12:6)

現代も、昔の時代と同じように、神は生ける預言者を通してわたしたちを導かれます。事実、回復の最も偉大なメッセージの一つは、神が言われたように、「主なるわたしは、地に住む者に下る災いを知っているので、……ジョセフ・スミス・ジュニアを訪れ、彼に天から語り、戒めを与えた」(教義と聖約1:17)というものです。

ジョセフ・スミスは、モーゼの場合と同様、預言者になることを自ら求めたわけではありませんでした。しかし、二人とも劇的な示現を受けました。それは二人の生涯を変えただけでなく、大勢の人々の生涯をも変えることにな

りました。モーゼの示現は、モーゼが険しい山を登り、不思議な燃えるしばを見定めようとしたときに与えられました。14歳のジョセフに与えられた示現は、人目につかない森の中に入って、どの教会が真実か知りたいと願ったときに与えられました。その疑問が天を開いたのです。こうしてジョセフ・スミスは、主がイエス・キリストの福音を今のこの地上に回復なさるための選ばれた器となったのでした。

あなたの友人にも、若きジョセフが真理を求めたときに行ったことと、同じことをしてみるよう勧めてください。つまり、聖文を読み、神に導きを求めるのです。さらに、末日の預言者たちの勧告を研究し、その教えに従い、自分でも証が持てるよう、祈ることです。

『モルモン書』についての証は、同時に、ジョセフ・スミスの預言者としての神聖な召しについての証でもあります。フィリピン、ディゴスステーク、サンタクルーズ・ダバオ・デル・サワードのデクスター・ドネイルは次のように言っています。「ジョセフ・スミスが神の訪れを受けた、と人々に確信させる一つの方法は、『モルモン書』を読んでもらうことです。わたしはそれを経験を通して知りました。人がモロナイの約束に従って、読んだ本が真実なものかどうか天父に尋ねるならば(モロナイ10:5参照)、この

聖典に対する証を得ることができます。そして、『モルモン書』が真実だということが信じられたら、当然、神の力を通してそれを翻訳した人のことも信じられるようになるはずです。」

### 読者からの提案

はっきりしていることは、あなたの友人がメッセージを受け入れる準備はできていても、それを伝えた人信じるところまで至っていないということです。イエス・キリストの福音は、現在、ジョセフ・スミスが天からの示現を受けた結果として、この地上に存在しています。その示現は、ジョセフが教会の回復の過程で受けた数多くの啓示のうち、最初のものでした。今、その回復の実は、世界中で見いだすことができます。

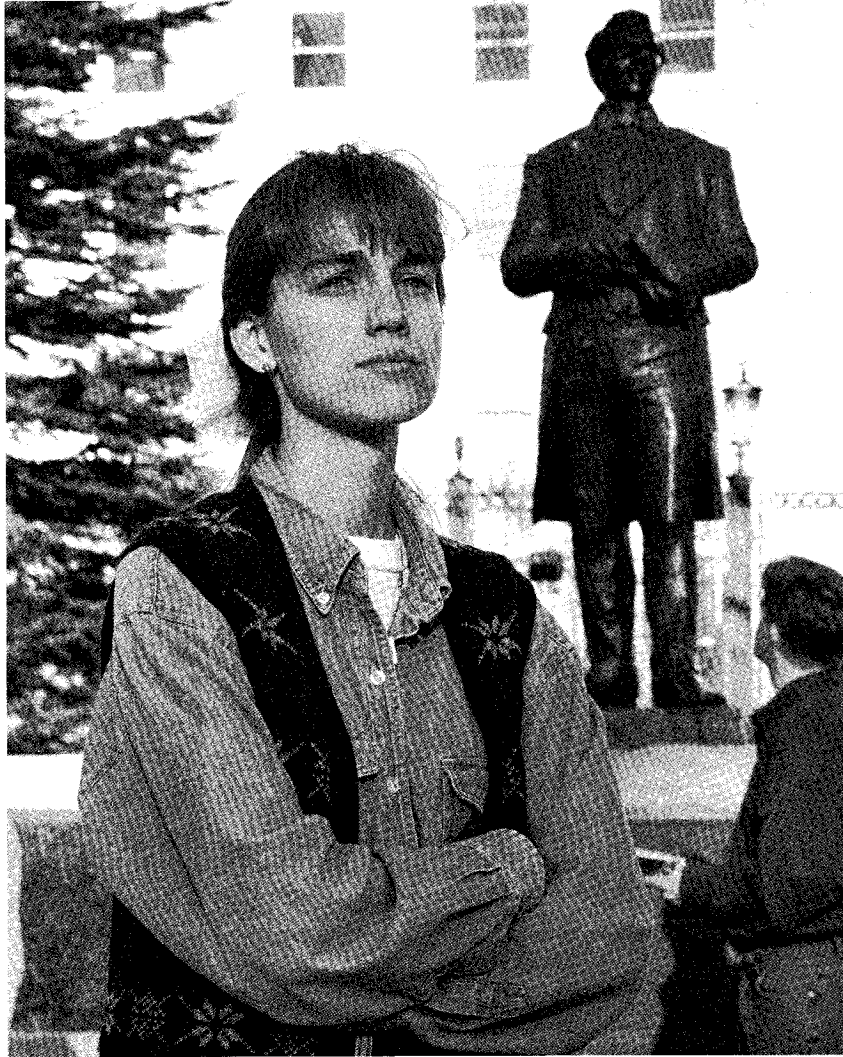
あなたの友人が信仰をもって祈り、あなたもその友人のために信仰をもって祈ったなら、その友人は必ず、教会の教えも主の預言者であるジョセフ・スミスも受け入れられるようになります。



イタリア、カタニア伝道部  
カタニア支部  
グラシア・マリア・サルバトリア・バッテサト

わたしもあなたの友人と同じでした。わたしは教会が好きでしたし、教会の活動もとても好きでした。わたしは教会の教義を受け入れ、それが真実であることも知っていました。宣教師たちが、「ジョセフ・スミスは古代の預言者と同じように神の預言者でした」と説明したとき、わたしはその意味を十分に理解してはいませんでした。でも、わたしはそのことで悩んだりはしませんでした。教会に出席し続け、従順で





PHOTOGRAPH BY MATT REIER

いれば、主の祝福により理解できるようになる、と確信していたからです。

『教義と聖約』を読んでいたとき、わたしは、かなり多くの章が「……預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示」という言葉で始まっていることに気づきました。そのことについて考えていたとき、「もしそれぞれの章に天父の下さったメッセージや勧告、戒めの言葉が書かれているとすれば、神は絶えずジョセフ・スミスと接触を保っておられたに違いない」という考えがわたしの心に浮かびました。

その後、『モルモン書』を2度目に読んだとき、リーハイの証あかしを読んでとても感動しました。エジプトに売られたヨセフが一人の聖見者の出現について預言しているという証です。その「聖見者の名はわたしにちなんで付けられ、またその名は彼の父の名を取っ

て付けられる」(2ニーファイ3:15)とありました。預言者ジョセフ・スミスの名前は父親の名前のジョセフから取って付けられ、しかもその名前は、数千年前にエジプトにいた偉大で霊的な指導者の名前、ヨセフ(Joseph)から取って付けられていたのです。

さらに、預言者ジョセフ・スミスの殉教の記録を読んだとき、わたしは再び御霊みたまのささやきを感じました。そして、主がこの末日に一人の預言者を選ばれたことを確信しました。天の御父と救い主にお会いし、さらにイエス・キリストの福音を回復するために必要なだけの、偉大な信仰を持った預言者が選ばれたのです。

今、わたしには、ジョセフ・スミスが神の真の預言者であったことと、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長が現在主の教会を導いているということに

ついて、強い証があります。

あなたの友人にも、わたしと同じことをしてみるよう勧めてください。つまり、教会に定期的に出席し、教会員の証に注意深く耳を傾け、聖文を熱心に読み、絶えず御霊の証を求めて祈るのです。

ブラジル、ペロ・ホリゾンテ伝道部  
ヤナウーバ支部  
ターニャ・アキコ・タカハシ(15歳)

友人と一緒に『高価な真珠』の「ジョセフ・スミス—歴史」を読んでください。読むときには一緒に祈ってください。そして自分の証を伝えてください。わたしも宣教師から福音を学んでいたときにはいろいろと疑いを抱いていましたが、この方法が功を奏しました。今では、ジョセフ・スミスが預言者、聖見者、啓示者であったことに、まったく疑いを抱いていません。



チリ、オバエステーク  
オバエ南ワード  
ジェラルド・バラス・エオフレ(19歳)

あなたの友人が教会についてあらゆることを受け入れていたとしたら、ジョセフ・スミスの最初の示現も、そのほかにジョセフ・スミスが受けた啓示も受け入れる必要があるはずですよ。たぶん、あなたの友人も心の奥底では、ジョセフ・スミスが預言者であったと知っているのではないのでしょうか。結局、わたしたちの教会がこの末日に存在するのは、ジョセフ・スミスが預言者だったからなのです。

自分自身で啓示を求めて、断食をして祈るように友人に勧めてください。この教会が真実であり、ジョセフ・スミスが主の預言者であったという御霊

あかしの証を個人的に受けるのです。友人がその証を得られたら、あなたは、バプテスマの水に入る友人の姿を見るという祝福にあずかれるでしょう。



メキシコ、マデロステーク  
アンプリアシオンワード  
ロシオ・ロドリゲス・サンチェス

ジョセフ・スミスのお話をすると、あなたとあなたの友人にとって最良の機会と場所を見いだせるよう、助けを求めて天父に祈ってください。あなたの友人の心が和らげられるよう、またあなたの言うことを受け入れてくれるよう、祈ってください。その機会と場所が与えられたら、あなたの証を友人と分かち合い、さらに、誠心誠意で祈るならばジョセフ・スミスについての個人的な証が得られることを伝えてください。

ドイツ、ドルトムントステーク  
ドルトムントワード  
ステファニー・フリッツ

わたしには、ジョセフ・スミスの最初の示現を受け入れられないあなたの友人の気持ちが痛いほど分かります。わたし自身、バプテスマを受けた後でさえ、ジョセフ・スミスの最初の示現については疑いを抱いていたからです。しかし、時がたつにつれ、自分の信仰と証は強められていきました。わたしにとって転機となったのは、最終的に、『聖書』にある次の助言に従ったときだったと思います。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」(ヤコブの手紙1：5)

この同じ聖句を指針として、若きジョセフ・スミスは実際に「神に、願い求め」、その祈りは栄光に満ちた示現を通してこたえられたのです。

わたしは、その示現が確かに実際にあったのだと証できます。わたしたちが義にかなった目的で真心から祈りをささげるとき、主が必ずわたしたちの祈りにこたえてくださることを、わたしは知っています。

ポルトガル、マトシンホスステーク  
レカ・ダ・パルメイラ支部  
ホセ・ダ・シルバ・マトス

わたしは伝道中、この問題に直面している人を大勢見てきました。自分の経験に基づいて、次のような提案をしたいと思います。それは、わたしたちの天のお父様は、真の書物である『モルモン書』を、偽りの預言者を通して世に現すようなことはなさらなかったであろうということです。愛を込めてあなたの証を伝えてください。



プエルトリコ、サンファン伝道部  
ダニー・ビバール  
長老

聖文にはこう書かれています。「神が実に人々に靈感を与えて、昔と同じようにこの時期と時代にあっても神の聖なる業に人々を召しておられることを、世に証明している。これによって、神は、御自分が昨日も、今日も、またとこしえに変わることはない神であることを示しておられるのである。」(教義と聖約20：11-12)

わたしは、父なる神とイエス・キリストが実際にジョセフ・スミスに御姿を現されたことを知っています。ジョセフ・スミスを通して、またジョセフ・

スミスによって、イエス・キリストの真の教会が、この最後の神権時代に回復されたのです。



フィリピン、カ  
ルーカステーク  
カルーカン第3支  
部  
ソエ・カラゴス・  
イアドス

教会の教えは真実であり、義にかなっています。こうした真理がジョセフ・スミスを通じて啓示されたのですから、ジョセフ・スミスは確かに神の選ばれた預言者であったはずで、ジョセフ・スミスが経験したそのほかの示現も皆、同じように間違いなく真実です。

コートジボアール、アビジャン伝道部  
セリー長老

「質疑応答」コーナーでは、下記の質問に対する皆さんの意見をお待ちしています。締め切りは1996年8月1日です。あて先は下記のとおりです。

QUESTIONS AND ANSWERS  
International Magazines  
50 East North Temple Street  
Salt Lake City, Utah 84150  
U.S.A.

氏名、住所、年齢、所属ステーク／地方部、ワード／支部名を明記のうえ日本語で意見をお寄せください。手書き、ワープロ、いずれでもけっこうです。できれば写真を同封してください。ただし返却は致しかねます。

質問——「福音は人を幸福にする」と言われています。わたしは、しなければならぬことはきちんと行っています。それなのに幸福感を味わえないのはどうしてでしょうか。□

# 自分の顔に神の面影を刻む

「あなたがたは……純真な心と清い手をもって……自分の顔に神の面影を刻まれた有様で（神を）仰ぎ見ることができるか。」（アルマ5：19）

アルマ書第5章の中で、アルマは当時の教会員に次のように尋ねています。「あなたがたは靈的に神から生まれているか。……あなたがたは心の中に、この大きな変化を経験したか。」（14節）「あなたがたは、自分たちを造られた御方の贖いを信じる信仰を働かせているか。」（15節）「あなたがたは、自分の顔に神の面影を刻まれているか（19節）。

これらは皆、今日、わたしたちが自答すべき良い質問です。

## 大きな変化を経験する

わたしたちが「神から生まれ」、神の面影を「自分の顔に刻む」ための第一歩は、イエス・キリストに対する信仰から始まります。信仰は、わたしたちが悔い改め、福音の儀式を通して救い主と聖約を交わす動機づけとなります。その後は、聖約を守るにつれて、主がわたしたちに聖霊を通して祝福を与えてくださいます。聖霊によってわたしたちは心を清め、変えることができるのです。

教会員の多くはこの大きな変化を経験したことがあり、アルマの質問に心からへりくだった気持ちで「はい」と答えることができます。しかし、まだそのような変化を起こすために必要な決心をしていない人もいます。あるいは、そのような変化を経験したことがあっても、自分が主の愛を生活

の中でほんとうに実践しているかどうか疑問に感じる人もいます。

## 自分の顔に主の面影を認める

わたしたちの靈的な状態がどのようなものであろうと、祈りや瞑想を通して天父と一対一で時を過ごすことにより、わたしたちは洞察力を得たり、個人的な成長を遂げたりすることができます。鏡を見るときのように、自分自身について変える必要のある事柄を発見するかもしれません。またあるときには、鏡に写った自分の顔に主の面影を見いだすこともあるでしょう。最近、ある姉妹はそのような自分の経験について次のように語りました。

「ある晩、わたしの人生に生じた非常に困難な問題について熱心に祈っていると、天父の愛がわたしの体中に満ち、慰めを感じました。感謝の気持ちで祈りを終え、涙をぬぐいながら立ち上がったとき、ふと鏡を見ました。その瞬間、つかの間ではありましたが、確かに御霊により、わたしの心だけでなく顔の表情までもが美しく変えられていたのです。数秒の後、目に見える変化は次第に薄れていきましたが、しばらくの間、純粋な愛の気持ちに満たされていました。この経験は、御霊を伴いできるふさわしさをもっと身に付けたいというわたしの願いを深めてくれました。」

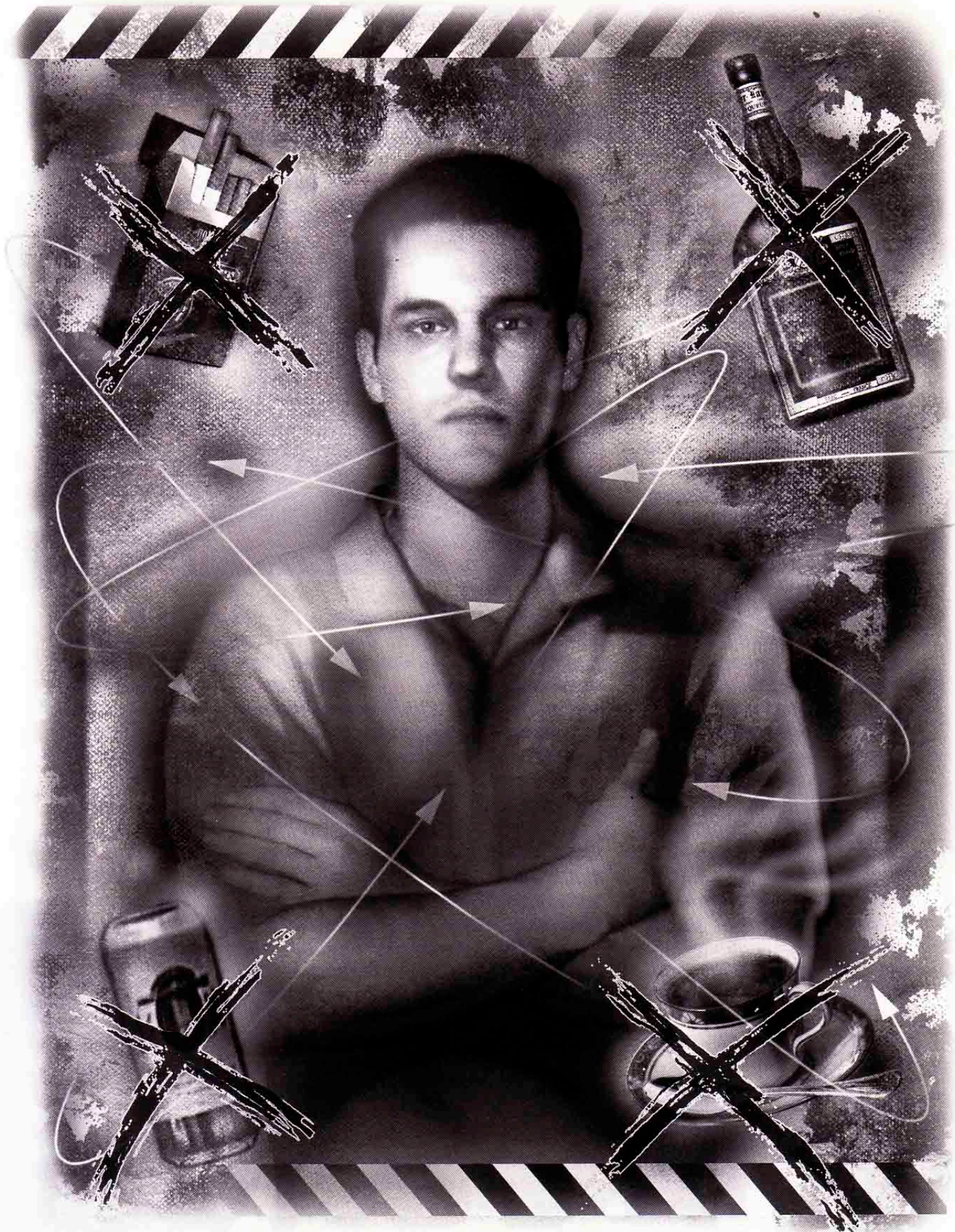
主の教会の会員として、わたしたちは「キリストの満ちみちた徳の高さ」（エペソ4：13）にどれほど近づいているか、自分で吟味するよう勧められています。それは、この姉妹のように、祈りと瞑想を通して行うことができま

す。聖文を勉強し、聖餐にあずかることも、わたしたちの生活に聖霊の導きを招くうえで役立ちます。そして、御霊の力によって、わたしたちはキリストにもっと近づく方法を学ぶことができるのです。またあるときには、わたしたちの努力が主に受け入れられたことを御霊によって確信することもあります。どのような場合でも、そのような経験を通してイエス・キリストに対する信仰が強められるのです。

こうして、イエス・キリストを中心とした生活を送るようになるにつれて、アルマが語った大きな変化を経験し、自分の顔に神の面影をよりいっそうはっきりと刻むことができるようになります。

- わたしたちの生活の中に御霊を招く方法として、どのようなことが挙げられますか。
- 自分の顔に主の面影を刻むとは、どういうことでしょうか。□





# 体のためにならず

七十人会長会  
ハロルド・G・ヒラム

**歯**科医になるための最後の2年間、わたしは世界屈指の上顎骨整形外科医から授業を毎週受けるという特権にあずかりました。教授自身、自らの準備と訓練のために、長く真摯な勉学の日々を送った人でした。歯科医としての学位を取得した後で、彼はさらに歯列矯正術、口腔外科、整形外科、病理学の分野でも学位を取得しました。その技術は世界中に知れわたり、至る所から彼を頼って患者が殺到しました。外傷性の事故に伴う口や顔の整形、顔を変形させる悪性腫瘍の除去、そのほか、顔を元の状態に戻すために彼の才能を必要とする人が大勢いたのです。

わたしたちは、毎週この高名な外科医から講義を受けることができたのです。講義は臨床室で行われました。そこで歯科の生徒は個々の患者の障害を観察するだけでなく、外科矯正によってもたらされる効果も知ることができました。治療前の講義では、臨床や実験の後の研究結果を数多く紹介してくれました。また障害を引き起こさせたと考えられる様々な原因や薬品について議論が交わされました。

わたしが何度となく興味を覚えたのは、主が預言者ジョセフ・スミスを通して人類に明らかにされた有害な物質の中に、これらの薬品と同じ成分が含まれていたことでした。知恵の言葉には、わたしたちの体に有益な種々の物質はもちろん、有害な物質についても重要な助

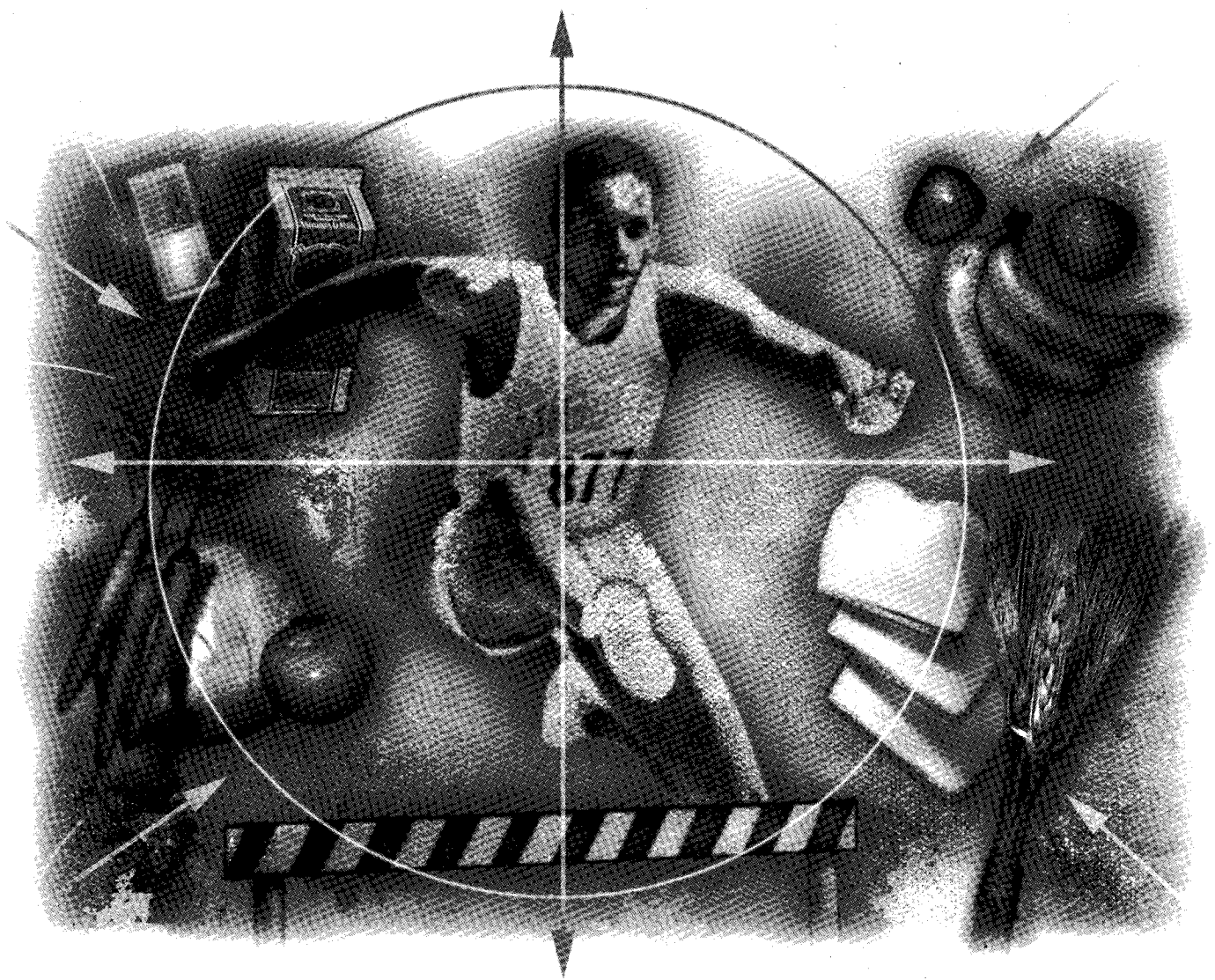
言が記されています。この知識は、医学界により世に紹介されるずっと以前に主により明らかにされていたわけです。この事実は、ジョセフ・スミスが主から召された回復の預言者だった、という強い証をわたしにもたらししました。

講義の最中に目を閉じると、まるで教会の集会に出席し、知恵の言葉を守って生活することにより得られる祝福について学んでいるような気がしたものです。この著名な外科医は、ほとんどすべての講義の中で、たばこのもたらす有害な結果について痛烈に非難しました。そして、わたしたち学生はその事実を目の当たりにしたのです。

当時、喫煙が肺癌の第一の要因であるという証拠は確認されていましたが、口腔癌や喉頭癌の第一の要因であるとまで書かれた出版物はほとんどありませんでした。あの臨床室で、歯科学生だったわたしは、口や顔にできる癌もたらす破壊的な結果を見せつけられました。この種の癌は、喫煙だけでなくかみタバコの習慣にも帰因します。たばこという刺激物を絶えず口内の組織と接触させることにより、顔を変形させる腫瘍の生じる可能性が高くなるのです。

「さらにまた、たばこは体のためにも、腹のためにもならず、人間のためにも良くない……。」(教義と聖約89:8)

講義の中では、アルコールも口やのどの繊細な組織にある種の刺激を与え、別の種類の腫瘍を生む原因になる



と非難されました。

「さらにまた、強い飲み物は腹のためにならず、あなたがたの体を洗うためのものである。」(教義と聖約89：7)

お茶やコーヒーについては、体に及ぼす化学的な悪影響という観点からだけでなく、摂取する際の温度という観点からも論じられました。これらの飲み物は、熱い温度で飲むのが普通であり、知らず知らずのうちに、沸騰温度に近い温度で飲む人が多いのです。このような習慣がもたらす有害な影響も実際に観察しました。

「さらにまた、熱い飲み物は体や腹のためにならない。」(教義と聖約89：9)

しかし、どうしてこれらの物質の影響力は人により異なるのでしょうか。同じ状況や環境にあっても、病気で患う人がいるかと思えば、まったく問題を生じない人が

いるのはなぜでしょうか。

高名な我らが教授は、次のように説明してくれました。細胞というのは普通の状態では正常に働くものです。しかし、そのような細胞も、何らかの要因が引き金となり異常を来します。そして、急速に成長した異常細胞は、変形をもたらし、生命を脅かす破壊的な腫瘍となるのです。この引き金となる要因、いわゆる誘導要因に反応する度合いは、個人個人が受け継いだ遺伝子に左右されます。反応の度合いが非常に高く、小さな刺激物でも細胞に変化を来す人もいますし、そうかと思えば、刺激物に比較的強い人もいます。このように、細胞が誘導要因に反応する度合いは、遺伝子の状態によって異なるのです。ある人は長生きをして何の問題もなく年を取っていくのに、ある人は人生の早い時期に簡単に発病してしまう理

由は、ここにあるのではないでしょうか。

このことを理解すれば、「知恵の言葉」で言う「すべての聖徒の中の弱い者および最も弱い者の能力に適するもの」(教義と聖約89:3)という言葉の意味をもっとよく理解することができるでしょう。有害な物質に対する抵抗力の弱い人の場合、1回だけの経験が引き金となって思いもしなかった、危険な細胞の変化を招く可能性があるのです。

預言者ジョセフ・スミスは、この「知恵の言葉」という偉大な健康の律法を、まだそのような考えが人々に知られていない時代に明らかにしたわけですが、この預言者の言葉を医学界の進歩が立証してきていることには興味を覚えます。

若い歯科学生だったころのわたしは、この傑出した<sup>じょう</sup>顎骨整形外科医の知識に深い感銘を覚えました。豊富な知識を持っているように見えましたし、その技術には驚嘆させられました。しかし、実際のところ、彼の知識はハンセン病患者を癒し、ラザロを死から蘇生させ、さらに盲人の目を見えるようにしたあの偉大な医師の知識に比べれば取るに足りないものだったのです。「知恵の言葉」はこの偉大な医師から与えられました。そして医学界は、やっとのことでその知識に追いつこうとしているのです。

今日、主の与えられた健康の律法に従って生活することの大切さと、主の禁じられた物質を摂取することの危険性を証明する発見が日を追うごとに増してきています。真理が、部分的にはありますが、世の人々に受け入れられつつあるのです。世の中が健康に関心を持ちだしたのです。何億円というお金が運動器具や健康クラブの費用に飛んでいます。部分的ではあっても、「知恵の言葉」に従うことが大切だと認められるようになってきたのです。しかし、サタンは一つの方法が駄目になった場合、いつも別の方法を使います。麻薬、不道德、ポルノグラフィ、家族のきずなを弱めることなどがそうです。

わたしは力強く霊感あふれる父が、次のような賢明な勧告を与えてくれたことに生涯感謝することでしょう。「最初の誘惑に常にノーと言うなら、2回目の誘惑に自分がノーと言えるかどうか心配なくて済む。」最初の誘惑にノーと言えるだけの勇気があれば、2回目の誘惑については心配する必要がないというこの考え方は心に平安をもたらしてくれました。すべてはわたしにかかっていたのです。□

**知** 恵の言葉(教義と聖約89章)の中には、してはならないことが明記されています。しかし、同時に教会の指導者の話や聖文、特に「知恵の言葉」から、健康に役立つこととして日々できることも、たくさん学ぶことができます。

「知恵の言葉の中でも『なすべきこと』に触れた箇所にもっと心を開けるならば、『すべきでないこと』の勧めに従うのがもっと容易になるでしょう。」(ジョン・A・ウィットナー、*Conference Report*『大会報告』1926年4月、p.110)

## 「なすべきこと」を実行しましょう

**運動**——霊的な健康も大切ですが、肉体的な健康状態も大切です。皆さんは、毎日運動を十分に行っているでしょうか。エズラ・タフト・ベンソン大管長は、次のように述べています。「休息と運動は健康には欠かせません。また、新鮮な外気の中での散歩は霊を活気づけます。」(*Ensign*『エンサイン』1974年11月号、p.66)

**睡眠**——確かに、「毎晩どれくらい休息を取ればいいのか」は教義と聖約第89章に記されていません。しかし、少しページを戻してみると、第88章124節にこう書かれています。「必要以上に長く眠るのをやめなさい。疲れることのないように、早く床に就きなさい。あなたがたの体と精神が活気づけられるように、早起きをしなさい。」

肉体には十分な休息が必要です。だからといって一日中寝ていてもよいというわけではありません。

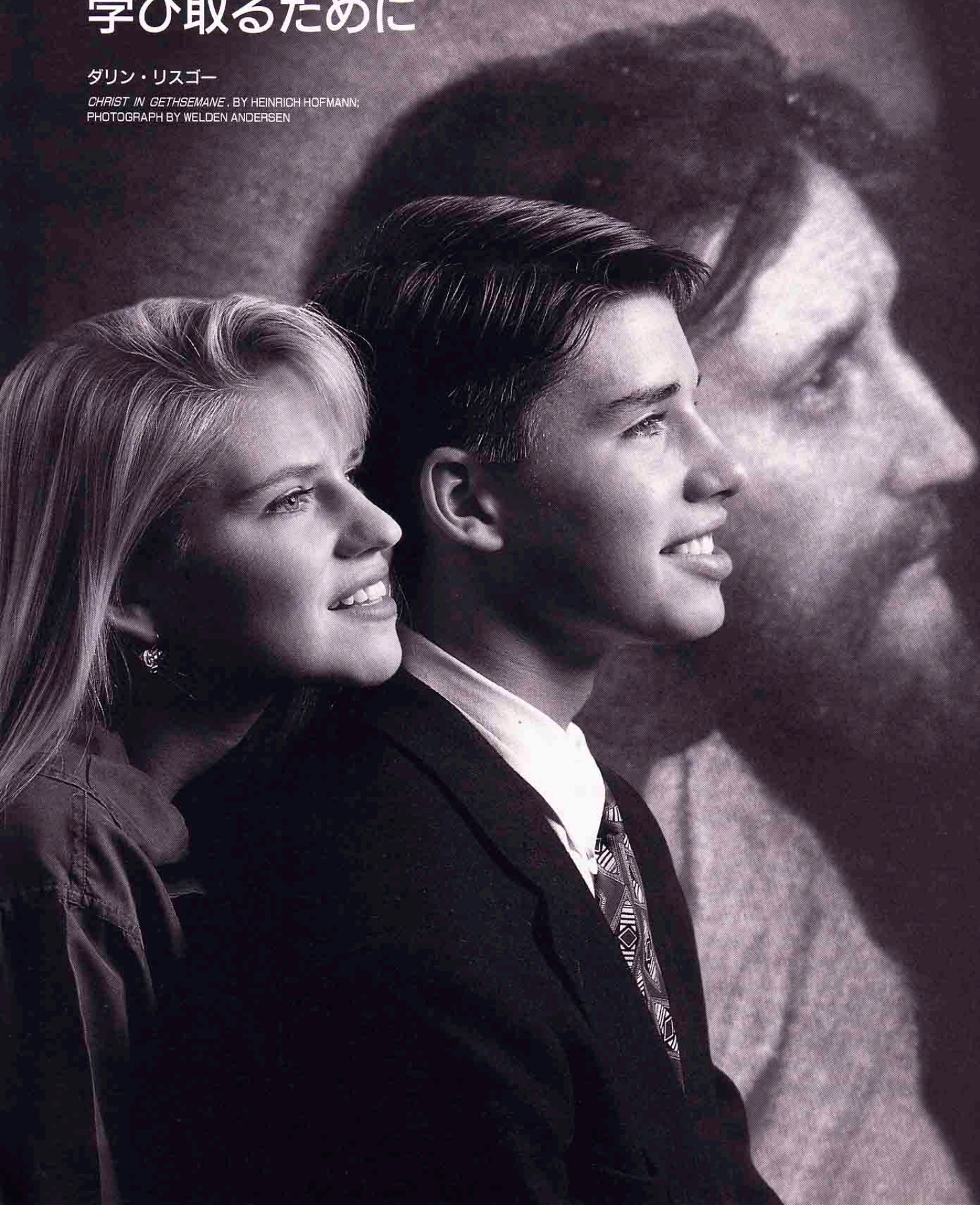
**食物**——適切な食事を心がけることも、肉体を管理する方法の一つです。聖文には、すべての穀物は人間のためになり(教義と聖約89:14参照)、肉は「人間が…用いるために定め」られたが「控えめに用い」(教義と聖約89:12)なければならない、と書かれています。

慈愛に満ちた天父は、わたしたちが幸福と健康を得られるように、絶えず指示を与えてくださいます。わたしたちは選択の自由を行使して、注意深くその導きに従うことができます。そうすることにより、わたしたちの生活も日ごとに祝福を受けるのです。世の人々も、若い歯科学生時代のわたしがそうであったように、試行錯誤を繰り返して、最終的にはこの真理にたどり着くことでしょう。そして、忠実に信仰を表す人々はすでに祝福を享受し幸福を得ているのです。□

せいさん  
聖餐会から  
学び取るために

ダリン・リスゴー

CHRIST IN GETHSEMANE, BY HEINRICH HOFMANN;  
PHOTOGRAPH BY WELDEN ANDERSEN





**せい** 聖餐会を終えて席を立つとき、何も得られなかったという気持ちを感じることはありませんか。もしあるとすれば、それは集会のせいではないかもしれません。聖餐会から大切なことを学び取ろうと思えば、そのための準備をする必要があります。

### 準備して臨む

準備を整えてから礼拝堂に向かいましょう。以下のことを試してみてください。

■日曜日になる前に、安息日を聖く保つ計画を立てましょう。その日に備えて霊的な思いを持ちましょう。

■土曜日の夜には睡眠を十分取るようにしましょう。集会中に居眠りしてしまうようでは、あまり得られるものはないでしょう。

■慌てなくていいように、朝は早く起きましょう。集会開始時間までに教会堂に着けるようにしてください。そうすれば、よい席に座れ、最初から聖餐会に出られるでしょう。

■身なりを整えてください。敬虔な気持ちになるのに役立ちます。聖餐の儀式を執行する場合、これは特に大切です。

■礼拝堂には敬虔な気持ちで入りましょう。友達に会ったら、心を込めてあいさつしてください。そのとき、自分がいる場所をよくわきまえてください。

■注意を集中し、話者の話が理解できるよう、御霊を感じられるよう、また学んだことを忘れずに、生活に取り入れられるよう祈りましょう。

### 集会中

さあ、思いと心の準備は整いました。後は学ぶだけです。以下のアイデアを試してください。

■気を散らすものはすべて片付けておきましょう。いたずら書きをしたり、所持品をいじったりしないようにしましょう。

■話の内容から気持ちがそれないようにしましょう。ほかのことを考えようとする誘惑に打ち勝ってください。

■泣いている赤ちゃん、あるいは周りの雑音に気を取られすぎないようにしましょう。手助けできる状況でないかぎり、ささいな雑音は無視することです。

■敬虔な態度で聖餐を取りましょう。聖約を新たにし、またイエス・キリストの贖いを思い起こすために、わたしたちは聖餐を取るのです。祝福の言葉に耳を傾けましょう。パンと水が配られるときには、パンと水が表しているもの、キリストがわたしたちにしてくださいましたことについて考えましょう。

■注意を払って話者の話に耳を傾けましょう。話者が自分に直接語っていると考えてみてください。主が話者を通して自分にメッセージを送られているのではないかと自分に問いかけてみましょう。

■「退屈している」という印象を与える態度（ひざの上にひじを付いて、手で頭を抱え込んだり、頭を前の席の背もたれに載せたりなど）は避けましょう。それは、話者の気が散る原因にもなり、何かを学び取るというよりは、眠気を呼ぶ姿勢でもあります。

■話を聞いているとき、真理を証す

る御霊を感じ取ろうと努めてください。耳と心で聞くようにしてください。自分の気持ちと受けている印象に心を留めてください。

■後で振り返りたいと思う事柄についてはメモを取ってください。教会の集会用のノートや日誌を持参するとよいでしょう。書き留めることにより、学んだことをいっそう多く思い起こすことができます。

■断食証会の時間、あるいは、話者が証を述べているときは、自分自身の証について、またどのようにその証を得たかについて考えてみましょう。

■時計を見ないようにしましょう。時間を気にすると、ますます集会が長く感じられるだけです。また、話者が気にするかもしれません。

■学んだことを実践しましょう。聖餐会で語られるメッセージは、日曜日のためだけのものではありません。1週間忘れないでいるために、聖餐会中に取ったメモを読み返したり、生活に取り入れられるよう努力したりしてください。

### 聖餐に関する聖句

聖餐会に臨む前や、聖餐会中に気持ちがそれそうになったとき、次の聖句を読むのもよいでしょう。

マタイ26：26-29

ヨハネ6：48-58

1コリント11：23-29

3ニコファイ18：1-7

モロナイ4、5章

モロナイ6：5-6

教義と聖約27：20

# 逆効果

わたしの証はすでにいくらか揺らいでいました。車のフロントガラスに反モルモンのちらしを見つけたのは、そんなときでした。

ステファニー・ラドフォード

いつものように、目覚まし時計が4時半に鳴りました。そして、いつものように、わたしは手を伸ばしてベルを止めました。暗闇の中で起き上がり、毎朝どうして4時半に起きなければならないのだろうと自問しました。早朝セミナーなんてばかばかしいとぶつぶつ言いながら、起きて仕度をしました。兄はすでに起きています。

いつものように、わたしたちは5分遅れて教室に着きました。わたしは後ろの方の席に座りました。最近、わたしの証は揺らいでいました。物事がうまくいかず、成績も落ちていました。もし自分が正しい生活を送っているのなら、すべてはもっとうまくいくはずだと思いました。

席に着いてはいるものの、レッスンを聞いてはいませんでした。教会はほんとうに真実なのだろうかと考え始めていたのです。その考えにぞっとしました。これまでずっと教えられてきたことは間違っていたのだろうかと思いました。そこですぐ、授業中でしたが、教会が真実なのかどうか分かるよう助けてください、と静かに祈り始めました。そのときも、教えられていたレッスンにはまったく耳を傾けてはいませんでした。こうして、ようやくセミナーが終わり、兄と一緒に建物を出ました。

車に乗ろうとすると、フロントガラスに1枚のちらしが挟んであるのに気づきました。最初は何かの広告だろ

うと思いました。二つ折りになっているちらしを広げると、太字で上の方にこう書いてあります。「どちらを信ずるべきか。」読んでみると、そこには互いに矛盾し合うように見える『モルモン書』の聖句と、教会の書籍や指導者の言葉が羅列してありました。通りを少し行った所にある別の教会のちらしでした。

兄とわたしは、それを家に持ち帰り、両親に見せました。二人はそれを読むと、みんなでその中の一つの文章について数分話し合いました。すると矛盾は解けました。両親はちらしを机の上に置き、わたしたちは学校へ出かけました。

2, 3日後、わたしはちらしを取り上げ、引用句を一つ一つ調べ始めました。ちらしは間違っていました。引用句はどれも矛盾してはいなかったのです。引用句を集めた人は、聖句や指導者の言葉の一部、つまり、一見したところ互いに矛盾するように思える、一部分だけを引用していたのです。そのとき、初等協会の教師がかつて教えてくれたことを思い出しました。「聖句の一部ではなく、全部を読みなさい。」

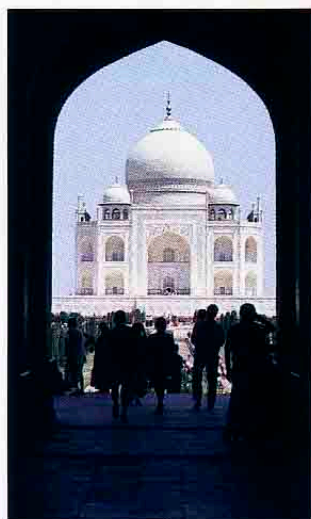
わたしはベッドのそばにひざまずき、祈りました。教会が真実であるかどうか、また『モルモン書』に書かれていることは正しいかどうか、天父に尋ねました。アーメンと言ってから、そのまま数分ひざまずき、耳を傾けました。立ち上がったとき、靈感を受けたような気持ちになりました。心が高まり、幸せな気持ちに包まれました。その経験から、教会も『モルモン書』も真実であると知ることができました。それはまさに、祈りへのこたえでした。

ある意味で、わたしは教会を中傷しようとする人々に感謝しています。彼らがいたからこそ、わたしは自分自身で答えを見つけようとしたのです。そして、これまで教えられてきたことはほんとうに真実である、と悟ったのです。□



# インド

種をまく季節



マイケル・R・モリス

10億人近い人々と福音を分かち合うというチャレンジに直面するインドの末日聖徒たちは、会員伝道の呼びかけにこたえています。

**彼**らが自分たちを「流浪の民の支部」と呼んだのには理由があります。支部の会員のほとんどが故郷を遠く離れた人たちで、人数も少なかったからです。

「流浪の民」は、インドで最初の末日聖徒のグループでした。ほんの少数のイギリス人兵士や船員たち、そしてカルカッタ出身のインド人改宗者数人で構成されたこの支部は、1851年から1856年と1884年から1888年という、この国の短く実り少なかった初期の伝道時代に創設された支部の一つでした。

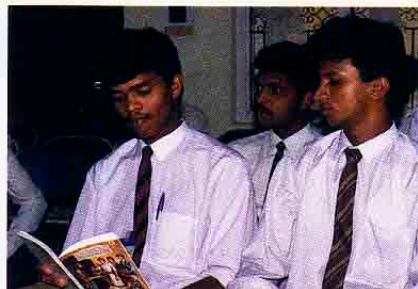
成功を見ることの少なかったこの時期の後、インドの伝道活動は一時停止さ

---

17世紀に建設されたタジマハール宮殿（上）は、インドの過去の象徴である。バンガローレのメアリー・シーラやフローレンス・マチルダ（右）のような末日聖徒はこの国の未来を象徴している。

PHOTOGRAPHY BY MICHAEL R. MORRIS



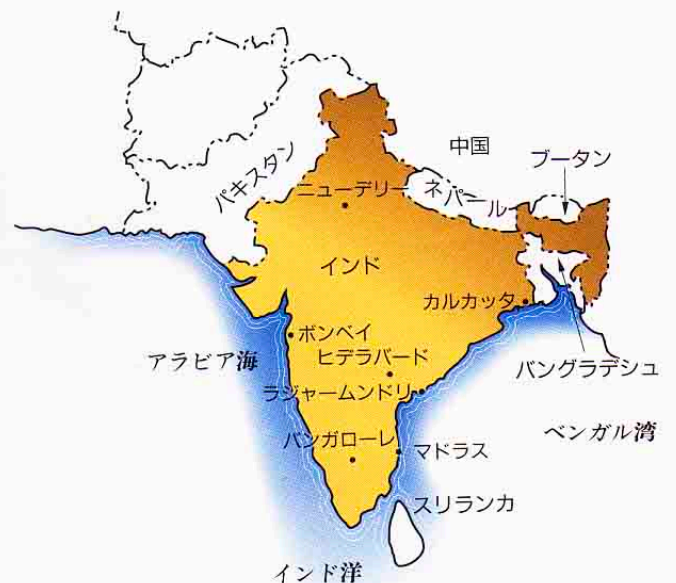


上——ラジャームンドリの子供たち。  
下——ヒデラバード第2支部の会員  
たち。日曜日の集会を終えて（左  
下）。

れました。言語と文化の壁を乗り越えることができずに伝道部は閉鎖され、宣教師は本国に戻りました。イギリス人改宗者の中にはアメリカに移住した人たちもいましたが、インド人会員たちは宣教師のいない状況で最善を尽くして頑張り続けました。

初期の宣教師たちが遭遇したチャレンジは現在も存在します。今なお、インドは多様性に富み、伝統と東洋の宗教に深く根ざした国なのです。古代と近代が頭を突き合わせ、貧困が富をしのぐ中で、様々な習慣とカースト（階級）を持つ何億人もの人々で満ちた国なのです。

インド人は、何世紀も昔の先祖の信仰や習慣を引き継いでいくことで、死者に敬意を表します。宗教的な伝統には回復されたイエス・キリストの福音と相いれない部



分があるため、福音を受け入れるには時間がかかります。州によっては改宗が違法行為とされている所もまだあり、伝道は容易ではありません。しかし、皮肉にも、その伝

統が福音をいっそう魅力的にしているのです。人はこの世での自分の運命を変えることができないし生まれついた立場を受け入れなければならない、というインドの伝

## 「この上なくすばらしい思い」

**ラ**クスミ・トゥーラセースワリ・マダは、彼女を教会に導いてくれた宣教師たちについて敬虔さをもって語ります。「トゥーラセー」は彼らから、自分が神の子であると教えられました。「それまでは、自分があまり価値ある存在とは感じていませんでした」と彼女は言います。「でも、今のわたしには福音があります。自分が神の娘だと知っています。」

改宗する前のトゥーラセーは、今はなくなりつつあるものの、何世紀も女性を隔離してきた、つましさを象徴する伝統のベールに顔を隠し、多くのインド人の女性と同じような人生を歩んでいました。継父母に育てられ、虐待されて子供時代と思春期を過ごしたトゥーラセーには、自尊心も将来の希望のかけらもありませんでした。福音を見いだす前の自分の人生を指して、「いつも泣いてばかりいました」と彼女は言います。

神の前に価値ある存在であると知ったことで、彼女の苦難の人生は靈的に癒されました。しかし、バプテスマを受けたことを両親に言い出せずにいました。グルと呼ばれるヒンズー教の高名な導師だった父親は、彼女の変化に気づき、なぜそんなに幸せそうなのか訳を知りたがりまし

た。そして、娘が自分の教えに背いたことを知ると、屈辱を感じ、彼女を勘当してしまいました。

自分には永遠の可能性があり、昇栄にあずかることもできると知ったことで、ラジャームンドリで地方部宣教師としての召しを受ける決心ができた、とトゥーラセーは言います。「わたしの得た知識は、この国の人々が必要としているものです。」そう語るトゥーラセーの名前は、ヒンズー教の女神の名を取って付けられました。この名を変えずに残しているのは、「人々にわたしが改宗者だということを知ってほしいからです」と彼女は言います。「伝道活動は大好きですが、ここラジャームンドリで伝道するのは難しいです。わたしがだれの娘か皆が知っているからです。」

伝道を困難にしているもう一つの理由は、彼女が女性だからです。福音を分かち合う女性宣教師を見るのは、珍しいだけでなく、インド人男性を狼狽させるのです。男性求道者が、妻と一緒になければ昇栄できないと教えられて驚くこともよくあります。教会では、永遠の結婚の教義を理解することで女性に対する意識が向上しました。また、ほとんどは親に決められた結婚ではありますが、

永遠の結婚の教義は彼らの結婚生活の励みとなっています。

現在、トゥーラセーの顔は、服の鮮やかな色合いとともに、新たに身に付けた楽観主義と自信で輝きを放っています。彼女がバプテスマを受け、聖霊の賜物を授かったことは、彼女に「これまで感じたことのなかった、この上なくすばらしい思いをもたらしました。だれでもそんな気持ちが必要です」と彼女は言います。「聖霊を通して、神はわたしに偉大な答えを下さいました。奉仕するのが大好きです。そして、証を分かち合うことの大切さを実感しています。」□

**ラジャームンドリで、地方部宣教師の同僚スジャータ・アナパルティと宣教師のレッスンを復習するトゥーラセー・マダ（左）。**



統的な思想を、教会の教義は否定するものだからでしょう。

「福音は人をそのような考えから解き放つてくれます」とインド・バンガローレ伝道部のクルチャラン・スィング・ギル部長は言います。「福音は人が皆平等であり、神のようになる可能性を持った神の子であると教えてくれます。この知識だけで、人は大きな自信を持ち、自分の生まれた場所やカーストという制度に屈することなく、喜んで熱心に働くようになります。そして彼らは、

ヒデラバード第1支部のダルシャナム・サムエル・カラ  
カンダ支部長と奥さんのアルーナ・デビは、支部の成長  
は会員たちの伝道意欲の賜物だと語っている。



貧困が貧困を生む悪循環を破りつつあります。自分が何者であり、可能性と能力を持っていて、それらを伸ばしていけることを悟るからです。」

回復のメッセージを聞いて受け入れる機会のあったインド人は、まだ数えるほどにすぎません。しかし、教会の会員は、1993年に伝道部が開かれる以前の約500人から、この2年間で2倍以上に増えています。

インドがシンガポール伝道部の一部だったときは、伝道部の指導者がインドの支部を頻りに訪問することができず、専任宣教師の数も不足しがちでした。教会の成長は遅く、信仰を強く保つのに苦勞する会員たちもいて、地元の指導者たちは失意と戦わなければなりませんでした。1960年代、70年代、80年代に改宗した末日聖徒の1世たちは教会の成長を心から喜び、宣教師の数が増えたことに感謝しています。今では、60人の長老と姉妹宣教師、それに数組の夫婦宣教師たちがいるのです。

24の主要言語と1,000の方言、そして9億5,000万人の人口を持つこの国に福音を広めるといふ大仕事に氣遅れする人たちがいるかもしれませんが、インドの若くて元気な末日聖徒たちは、祖国の豊かに実ったぶどう園で働くことに大変熱心です。それは、会員伝道のチャレンジを偉大な機会と感じているからです。

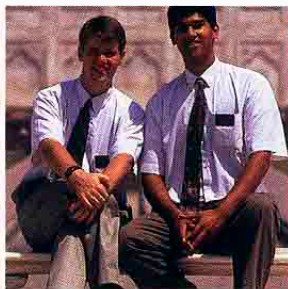
「インドでは、教会の会員であることと伝道は同義語なのです」とギル部長は言います。ギル部長はインド北部で生まれ、アメリカに移住してから1956年に教会に入りました。「9億5,000万人に福音を教えようとするなら、遅かれ早かれ、会員たち自身が同胞を教える必要が生じてきます。この考えは会員たちにも浸透しつつあります。会員たちが伝道活動に参加し、宣教師と協力するようになってきているのです。まさに驚きです。こんなに早く会員伝道が活発になるとは思ってもいませんでした。この数か月間で驚くほど前進しました。」

末日聖徒が人口100万人当たり二人以下というこの国で、すべての会員は宣教師である、という神の教えが(教義と聖約88:81参照)、真剣に受け止められています。その結果、イエス・キリストの回復された福音は、





上——レッスンを終え、新会員のピクター・ポールと語り合うラジャームンドリのジョブ・シリル長老（左）。左下——1993年に開かれたインド・バンガローレ伝道部のランダル・ドウェイン・デービス長老とパルタ・バイマル・ガンジー長老。右下——バンガローレ最初の教会員マイケル・アンソニー、奥さんのクリスチンと子供たち。



まるでガンジス川が蛇行しながらインドの国土を潤しているように、ガンジーの国の隅々にまで広がり始めています。

### ..... 会員伝道の成功

1993年8月、専任宣教師たちが3年ぶりにラジャームンドリの町を訪れたとき、小さな支部は苦勞していました。

そこで専任宣教師たちは、信仰の強い会員たちと協力して、支部の強化に努めました。福音の教義を強調し、補助組織を作り、指導者訓練の実施に力を入れると同時に、集会所用に家を借り上げたのです。それによって会員の靈性が再び高まり、バプテスマが増えるという結果

を生みました。聖餐会せいさんの出席は、1993年の36人から、支部が分割された7か月後には200人以上に急上昇していました。

会員たちは、宣教師と一緒に働くことで家族や友人を効果的に改宗に導けることを悟りました。そんな会員たちの熱意に動かされるように、新たな会員伝道プログラムと「一人が一人を」という地元のモットーが生まれ、専任の地方部宣教師が召されるようになったのです。

川辺の町ラジャームンドリは、広大なゴダバリ川がインド南東部のベンガル湾に注ぐ河口付近に位置し、サウナのように高い湿度と高温にもかかわらず、専任宣教師たちには「宣教師天国」として知られています。

「会員伝道の成功を皆とても喜んでいます」と、ラ



ジャームンドリ第2支部の支部長を務める専任宣教師のジョブ・シリルは言います。彼は1993年、故郷のヒデラバードで伝道中に、実の母にバプテスマを施すことができました。シリル長老は、インドが初期の成長の遅れを取り戻しつつあると感じています。

「1850年代に初めて宣教師が来たとき、この国には真理を受け入れる備えがなかったかもしれません」と彼は言います。「しかし、今のインドは福音を受け入れる備えができています。若くて教養のある人たちも含め、多くの人が真理を探し求めているのです。」

現在ラジャームンドリの教会が直面している最大のチャレンジは、さらに多くの指導者を育成することです。1993年にはまだ小さかった支部が、目下再度の分割に備えて準備中だからです。

### 「この世で最高の業」

ヒデラバードは、中央インド、広大なデカン高原のラジャームンドリ西部に位置します。ここでは、過去2年間の改宗者の90パーセントが、会員の友人または親戚でした。ヒデラバードはかつて強い勢力を誇ったペルシャ王たちの本拠地があった所で、今も人口数百万人の活気

支部の活動に集ったデリー第2支部のモニカ・メーシー、シーバ・ダス、ローズイー・ガネシャン、アシャ・ダナパウル。

あふれる都市です。ここでは、教会の3つの支部が徐々に会員を増やしています。

スニーサ・ムララと弟のサントシュとサンジェイは、会員が増えていることを喜んでいます。この3人の姉弟は、サモアでバプテスマを受けたおじとおば、エドウィン・ダマラフとエルシー・ダマラフを通じて1978年に教会を知りました。彼らは、1980年代のほとんどをヒデラバードで3人だけの末日聖徒の青少年として過ごしました。教会での奉仕と教えを通して身に付けた学習習慣と祈りのおかげで、スニーサ、サントシュそしてサンジェイは、3人とも競争率の高いことで知られるインドの医科大学入学試験に合格することができたと言います。

スニーサはヒデラバードの医大を卒業しましたが、在学中知恵の言葉を実践していたことから、同級生の好奇心をそそり、福音についての話し合いになることがよくあったと言います。弟たちの通ったインド南東部のマド

ラス近くにあるミッション系の一流医大では、末日聖徒は彼らだけだったので、二人は教会に関する誤解を解くように努力しました。サントシュは学生たちの間で大変人気があり、学生協会の会長に選出されたほどです。「わたしたちは模範を示すことの大切さを学びました」とサンジェイは言います。「説教したり言い争ったりするより、ずっと効果的な方法です。」

現在、インドの若い世代は回復された福音のメッセージを受け入れる傾向をますます強めています。スニーサ、サントシュそしてサンジェイのように、大半の教会員は若い人たちです。指導者のほとんどが20代、30代の会員で占められている支部も珍しくありません。

日曜日、ヒデラバード第2支部では27歳の電気技師ラジュ・グーティが日曜学校会長会の責任を熱心に果たしています。奥さんのスーアプナは、初等協会の会長として支部の子供たちに賛美歌とレッスンを教えています。ラジュの25歳の弟ピクターは、経営管理学修士課程の学業から時間を割いて、支部長会の責任に従事しています。22歳の妹ヘマーと19歳の弟ジョンは二人とも大学生で、それぞれ若い女性会長と若い男性会長として支部の青少年たちを助けています。そのうえ、5人とも週日には時間を作って地方部宣教師として働いているのです。

ヘマーとジョンは伝道に出たいと願っています。ヘマーの言葉を借りると、伝道は「この世で最高の業」なのです。しかし、ヘマーの伝道は親の決めた結婚のために延期されるかもしれません。すべては教会員でない父親の一存にかかっています。「毎日の祈りの中で、両親が改宗してわたしを伝道に出してくれるように主に祈っています」とヘマーは言います。「伝道はわたしにとって、とても大切なものですが、父を敬わないわけにはいきません。」

選択が許されるなら、ヘマーやほかの若い女性たちのほとんどは、インドで「恋愛結婚」と呼ばれる結婚の形態を選ぶことでしょう。親に決められる結婚より自分の意志で相手を選ぶ結婚です。かつてタブーとされていたデートも、インドの都市部では見られるようになり、恋愛結婚の数は増えています。若い末日聖徒の女性は、いつか、何千マイルも離れてはいるもののいちばん近いフィリピン神殿に連れて行ってくれる神権者と結婚する

ことを望んでいます。そして、インドに神殿が建設される日のために熱心に働き、祈っているのです。

教会員の数が少なく、都市間の距離も遠く離れているため、教会員同士で結婚できる若者はほとんどいません。そして、会員でない人と結婚した人たちは活発でいることが難しくなります。このジレンマを解決するため、インドの伝道部長たちは、末日聖徒の独身成人同士を紹介し、会員間の結婚を奨励するようにしています。

### 「モルモンとは」

フィリピンで伝道したセエマ・ジョンは、自分を帰還宣教師だとは思っていません。「今も、自分はずっと宣教師だと思っています」と彼女は言います。セエマはインド北部にある首都ニューデリーの出身です。1,000万人近くが住む大都市ニューデリーには、教会の小さな支部が二つあります。「わたしは行く先々に、いつでも証を携えて行きます。」

セエマは亡き母のためにフィリピン・マニラ神殿で身代わりの儀式を行い、家族を啓発するためにためまづ努力してきました。「福音の知識にとっても感謝しています」と彼女は言います。「真理を知っていながら、その喜びを分かち合える家族や友人がいないのはつらいものです。」ほかのインド人帰還宣教師と同じように、セエマも、伝道の業、改宗そして活発化がもたらす喜びが大好きです。

インド南部のバンガローレで教会が力を増している原因は、支部の指導者として奉仕する帰還宣教師たちにあると言えるかもしれません。バンガローレ第1支部の支部長マイケル・アンソニーと二人の副支部長そして幹部書記は、伝道中に得た熱意を現在の召しに注いでいます。こうして、支部のパプテスマ数は増え、聖餐会は80パーセント近い出席率となっています。

「今では神殿推薦状を持っている人が支部に10人います」と、バンガローレで最初の教会員だったアンソニー支部長は言います。「会員たちには神殿に行くだけの経済力はありませんが、自分たちが忠実であろうと努力していることを主に示したいと望んでいるのです。」

バンガローレ第2支部の会員たちは、愛の力で、教会

活動にあまり活発でない家族のほとんどを再活発化することに成功しました。ラジャ・ドリスワミ支部長はこう言います。「家族全員に命の木の実を与えたいと望んだリーハイのように、わたしたちも、すべての人がバプテスマを受け、活発でいてくれることを願っています。」

教会への認識を深めてもらうために、バンガローレの二つの支部はほかの教会と一緒に社会奉仕活動に参加しました。また、昨年12月には、ほかの教会の聖歌隊も参加したクリスマスプログラムで、二つの支部合同の聖歌隊が4,000人の聴衆を前に歌いました。「みんなモルモンタバナクル合唱団を期待していたようですが、とにかく、わたしたちの歌を喜んでくれました」とドリスワミ支部長は言います。「皆が、『これでモルモンとはどんな人々なのか分かった』と言ってくれました。」

### 「実を結ぶ」

神聖視されている牛がインドの舗装道路や農村の裏道をかっ歩しています。ヒンズー教の寺院からお経と香の香りが天に向かって立ち上る中、イスラム教のモスクからは信者に祈りを呼びかける声が聞こえてきます。クリスチャンはそれぞれの礼拝堂で賛美歌を歌い、赤いターバンを巻いたシーク教徒は彼ら独自の信仰行事を行っています。

北部にそびえ立つヒマラヤ山脈、北西部の砂漠地帯、北東にある肥よくな平野部から、南部のデカン高原、そして緑豊かな沿岸の平野地帯まで、インドでは日ごと様々な儀式や信仰行事が執り行われています。ヒンズー教、シーク教、仏教そしてジャイナ教の発祥地であるインドは、多宗教国家です。インド人の約83パーセントはヒンズー教徒、そして11パーセントがイスラム教徒です。クリスチャンのほとんどはインド南部の数州に住んでいます。インド人は、紀元50年ごろ使徒トマスがこの地方を訪れたと信じています。全人口に占めるクリスチャンの割合は3パーセント以下です。

このような背景の下で、末日聖徒イエス・キリスト教会は独自の地位を確立しようとしているのです。宗教を変えることに対して多くのインド人が保守的な態度を示していることを考えれば、近年の会員数の増加は画期的

と言えます。

歴史的に見て、キリスト教の宣教師たちが、人々に食物と金銭を与えることで「米クリスチャン」と呼ばれる改宗者を得たことがしばしばありました。飢えと苦しみの多いこの国では、「米クリスチャン」的態度は今でも残っています。教会に改宗すれば施し物を受けるところか、反対に人に与え奉仕するのだと聞くと、皆一様に驚きます。

「福音は物質以上のものを豊かに与えてくれる、という証を求道者自身が御霊によって得るまでは、彼らから、改宗したら『どんな得になるのか』と質問されることは珍しくありません」と第一副伝道部長であり、インドの教会地域監督も務めるエベネザー・ソロモンは言います。

現在教会は、公的には「協会」として認可されているだけで、まだ不動産も建物も所有していませんし、結婚を司式する法的権限も認められていません。ほかの宗教の指導者の中には、自分たちの信者が回復された福音を学ぶのを阻止する説得材料として、この事実を利用する人々もいます。それにもかかわらず教会に関心を持つ人は増え続けており、今では英語を話せない人々にも福音を広めるべく、準備が進行しているところです。

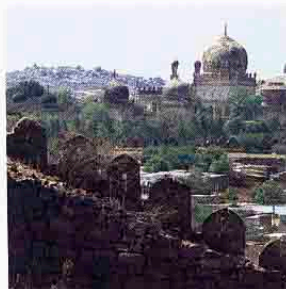
教会の各種資料や聖文をインドの主要言語に翻訳する作業が目下進められています。ヒンディー語、テルグ語、タミル語そしてベンガル語の資料が整えば、福音のメッセージを人口の約75パーセントの人々にもたらすことが可能となります。

1992年、十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老はインドの教会員に向かって、この国で主の業が進み行く時が来ました、と話しました。それ以来、会員たちは心新たに伝道活動に取り組み始めました。今日、会員たちは、よき羊飼いの呼びかけにこたえるインド人が増えていることを喜んでます。

「教会員であることはチャレンジですが、わたしたちは大きな家族のようなものです。」元ヒデラバード支部の支部長であるバサンス・ラシュ・ブラガンサは言います。「インドには教会がほんとうに必要なのです。時間とお金を犠牲にしてこの国に福音をもたらしてくれた宣教師たちに感謝しています。彼らがわたしたちの心にまいた種は、今生長し、実を結びつつあるのです。」



上——ラジャームンドリの支部の集会が開かれる家の前には、この少女のように好奇心いっぱいの子供たちがよく集まる。左下——ヒデラバードの南方にある、16世紀から17世紀にかけて建立されたクツブ・シャヒの墳墓。右下——インドの地域監督を務めるエベネザー・ソロモンとサビタ夫人、息子のケビン。



### 「美しい季節」

1856年に最初のインド伝道部が閉鎖されたとき、宣教師のロバート・スケルトンは自分が愛するようになった人々について次のように書き残しています。「今わたしは彼らを神の手にゆだねて去るが、神がその全能の力により、彼らに報いてくださる、と確信している。」<sup>1</sup>

それから150年近くたった今も、宣教師や会員たちはなお大きな問題に直面しています。しかし、御霊が人々に靈感を与え、ほかの人たちのために道を開こうとしている信仰深い人々を、神が祝福しておられます。

「わたしの国に美しい季節がやって来ました。すばらしい季節がやって来たのです」と、砂漠地帯のラジャス

タン州の人々は、インド北部に雨季が訪れたことを告げて歌います。<sup>2</sup>インドの末日聖徒たちも、同じように美しい季節の訪れを告げています。この国の初期の会員たちとは違い、今日教会に入る人たちはもはや流浪の民ではないからです。□

注

1. "British Soldiers, Sailors Were First LDS Elders in India" *Church News* 「イギリス兵と船員——インドを訪れた最初の長老たち」『チャーチニュース』1959年1月3日付け, p.12

2. ラグーピア・スィング "The Pageant of Rajasthan" *National Geographic* 「ラジャスタンの祭り」『インド紀行』1977年2月号, p.231

# 預言者の約束を 証明する

ジェームズ・R・プリンス

**エ**ズラ・タフト・ベンソン大管長は、1986年の大会で、聖徒たちに次のように約束しました。「『モルモン書』には力があって、真剣に読み始めるや否や、その力は読む者の人生に流れ込み……ます。」（『モルモン書』——わたしたちの宗教のかなめ石『聖徒の道』1987年1月号、p.6）わたしと妻は大管長の約束に鼓舞され、子供たちと一緒に『モルモン書』を読もうと決意しました。

当時我が家には、6歳<sup>かしら</sup>を頭に生後6か月まで4人の子供がいました。初めは1日に半ページ、つまり片方の段を読むのがやっとでした。全部で531ページ（英文）ですから、段の数はその倍もあります。途方もない量に思えました。

わたしたちの読み進む速度は実にゆっくりしたものでした。だからこそ、平日は何としても読もうとあらゆる努力をしました。子供たちはとても協力的で、読み始めるためにわたしたちを朝起こしてくれることもしばしばでした。読まない日などほとんどありませんでしたが、それでもニーファイ第一書を読み終えるのに半年以上かかりました。

このころになると、上の二人の子供たちは、わずかながら単語が読めるようになりました。そして遅いペースながら、イザヤ書の引用を含むニーファイ第二書を読み終えるころには、靈的な面をはじめいろいろな面で家族として成長しつつありました。わたしたちは靈的な事柄について家族で語り合う時間を毎日設けるようになりました。子供も一人増えました。汚れたおむつを替えたり、赤ちゃんにミルクをあげたりして、よく中断させられましたが、どんなに時間がかかるように思ってもその日の予定分は読み終えるよう努めました。

いちばん上の子供が11歳になるころには読む速さも増

し、1日に1ページ進むようになりました。その年も半ばに差しかかったころ、アルバータ神殿が翌年の春に再奉獻されるという知らせを聞きました。それはわたしたち家族がずっと待ち望んでいたことでした。計算してみたのですが、もし今のペースで読み進めていけば、奉獻式の当日には『モルモン書』の最後の1章を残すのみとなります。そこで、わたしたちはこの式に出席するため1,200キロの旅を計画しました。奉獻式当日の朝、早く起きて神殿の敷地まで行き、最後の1章を読むのです。

奉獻式の夜明けはまばゆく、澄み切っていました。神殿の敷地は美しく、わたしたちは古い石碑の後ろに腰を下ろし、最後の章を読む準備をしました。

その章を読み終え『モルモン書』を閉じたとき、いつにも増して、強く御靈<sup>みたま</sup>を感じました。『モルモン書』を読み終えるまで約5年の月日がかかったこととなります。わたしたちは、『モルモン書』が神の言葉であるという確信を得られるよう、一人ずつ順番に祈りました。天使を見たり、天からの声を聞いたりしたわけではありません。しかし全員が聖靈を身近に感じ、穏やかで平安な気持ち、そして愛に満たされました。『モルモン書』は真実<sup>あかし</sup>であり、神聖な書物である、という御靈の証を一人一人が受け、涙が込み上げてきました。

わたしたちは『モルモン書』の偉大な預言者について、より深く知ることができたことに感謝しました。そして預言者の言葉を読むことによって得た数々の祝福に感謝しました。すなわち、困難な時代にあって信仰や強さを増すことができ、家庭の中にいっそうの愛と平安をもたらすことができたのです。確かに、わたしたちは神の預言者が約束した祝福にあずかったのです。□









# 真実か偽りか

十二使徒定員会会員  
ジェフリー・R・ホランド

『モルモン書』の著者がだれなのか、すなわち『モルモン書』が神に源を発するものかどうかについて多くのことが語られています。しかしそれは、1830年3月26日に、ニューヨーク州パルマイラのあのE・B・グランデンの印刷所から初版が出されて以来、常に話題になってきたことなのです。

まず、エズラ・タフト・ベンソン大管長の非常に力強いメッセージを紹介しましょう。「『モルモン書』は〔わたしたちの〕証の<sup>あかし</sup>かなめ石です。かなめ石が取り除かれたらアーチが崩れ落ちるように、この教会のすべての教えは『モルモン書』の真実性に依存しているのです。教会の敵はそれをよく知っています。彼らがこの『モルモン書』の誤りを立証しようとあらゆることをするのはそのためであり、もしそれが立証できれば、預言者ジョセフ・スミスとともに倒れるからです。神権の鍵や啓示、また回復された教会についてのわたしたちの主張もそうです。しかし逆に、もしこの『モルモン書』が真実であるならば（事実、何百万人という人がこれが真実であるという御霊の<sup>みたま</sup>証を受けたことを証しています）、回復やそれに伴うすべてのことを受け入れなければならないはずでは

そうです、愛する兄弟姉妹の皆さん、『モルモン書』はわたしたちの宗教のかなめ石です。わたしたちの証のかなめ石であり、教義のかなめ石であり、主なる救い主の証におけるかなめ石なのです。」（『聖徒の道』1987年1月号、p.6）

この教会のすべて、何もかもが『モルモン書』の真実性にかかっており、しかもその暗示するところは、すべ

てが『モルモン書』の出現についてのジョセフ・スミスの言葉に基を置いているというのです。このようなとても大胆で重大な意味をはらんだ発言を、ベンソン大管長のような傑出した人物の言葉として耳にすると、思わずはっとさせられます。これはわたしにとっては、すぐに勝ち負けが決まってしまうサドンデス（訳注——球技の延長戦で、どちらかが得点した時点で試合終了となること）のようなものです。つまり、『モルモン書』はジョセフの言葉どおりのものなのか、それともこの教会とその創立者の言葉はでたらめで偽りであり、初めから人を欺くものだったのか、ということです。

人生はすべてがすべて白か黒かで片がつくものばかりではありませんが、『モルモン書』の信ぴょう性、またわたしたちの信条における『モルモン書』のかなめ石としての役割の真実性は、まさに白か黒かの問題であると言えます。ジョセフ・スミスはその言葉どおりの預言者だったのでしょうか。すなわち、御父と御子にまみえ、後に天使モロナイの訪れを受け、モロナイの口から繰り返し発せられる勧告の言葉を聞き、やがて一組の古代の金版を受け取り、それを神の賜物たまものと力によって翻訳したのでしょうか。それとも、そのようなことは一切なかったのでしょうか。もし仮に彼の言葉が偽りだったとすれば、ベンソン大管長の声明の精神に照らして考えてみると、ジョセフには、ニューイングランドの農村が生んだ英雄であるとか、善意の若者であるとか、驚くべき想像力を持った作家であるとかといった評価を受ける資格さえなくなるでしょう。そうです。偉大な教師とも、傑出したアメリカの預言者とも、偉大な知恵文学の作者とも呼ばれる資格はありません。『モルモン書』の出現についての彼の言葉が偽りであれば、彼にはそのように呼ばれる資格は一切ないのです。

わたしの今の心境は、キリストの神性について語ったC・S・ルイスと同じです。「わたしはここで、人々が主についてしばしば語るまことに愚かな言葉を口にしないように申し上げたい。〔つまり、〕『わたしはイエスを人の道を説く偉大な教師としては受け入れる用意があるが、彼の神としての主張は受け入れない』というものである。これは、わたしたちが決して口にすべきでないことの一つである。一介の人間であった者が、イエスの言われたようなことを口にしたとしたら、その者は人の道を説く偉大な教師などではない。自分をゆで卵だというたぐいの気の触れた人間か、でなければ地獄の悪魔であろう。あなたは自分で選択しなければならぬ。この男が過去にも現在にも神の子なのか、それとも狂人かそれ以下の者なのかを。あなたは彼を狂人扱いにして牢こゝろに閉じ込めることもできる。つばきを吐きかけ、悪魔として殺すこともできる。また、足もとに身をかがめて主なる

神と呼ぶこともできる。しかし、彼に対して偉大な人間の教師という意味のない考えを持つただけはやめようではないか。そのような選択を主はわたしたちに許されてはいない。主にはその意図はなかったのだ。」(Mere Christianity 『単なるキリスト教』 pp.40—41)

わたしが提案したいのは、イエス・キリストの福音が回復されたことと『モルモン書』が天与の書物であることについて、ベンソン大管長とまったく同じ、白か黒かの大胆な主張をすることです。これは義務です。論理的にも正当性の面からもこれは必要です。ジョセフ・スミスを預言者として、『モルモン書』を奇跡的に啓示された神の尊い言葉として受け入れてください。そうでなければ、ジョセフも『モルモン書』も、人々を滅びに陥れる欺まんとして、地獄に葬り去るべきでしょう。間違っても、想像力やまれな文章表現力をもってこの少年の驚くべき特質とするようなあやふやな立場は取らないようにしたいものです。それは、倫理的にも、文学的にも、歴史的にも、神学的にも受け入れられない立場です。

神の言葉は常に、「生きていて、力があり、もろ刃の剣よりも鋭くて、関節も骨髄も切り離すほど」です(教義と聖約6:2)。それが純粋に、簡潔に、そして正確に『モルモン書』に当てはまることを、わたしは改めて証あかしします。『モルモン書』はそのように生きていて、そのように力があります。そして確かに、そのように鋭いのです。わたしたちの歴史の中で、またわたしたちのメッセージの中で、「『モルモン書』は神の言葉である」という妥協を許さない宣言は、ほかのいかなる言葉にも増して、速やかに人々の理解の目を開かせてくれます。この問題について、わたしたちは決して揺らぐことはないでしょう。

ジョセフ・スミスについてのわたしの立場、すなわち『モルモン書』のゆえにわたしが取っている立場を明確にしたいと思います。わたしはジョセフ・スミスが天使の訪れを受け、その手に古代の金版を受け取ったことを、心の底からはっきりと証します。わたしはそれを、3人の証人とともに天使モロナイにまみえたかのように、また3人の証人や8人の証人とともに金版を見、手にしたかのように、はっきりと証します。

わたしの人生を変えたのは『モルモン書』です。『モルモン書』はイエス・キリストの福音が回復されたことをわたしに告げ、わたしの全身全霊を教会に浸してくれました。数ある世界の著作の中で、わたしは『モルモン書』を神聖なものとしての範ちゅうに入れます。『モルモン書』はわたしの知的・霊的生活の中で群を抜くもの、書の中の書であり、『聖書』を再確認するもの、ちりの中からの声、キリストについての証、そして救いへ導く主の言葉なのです。□

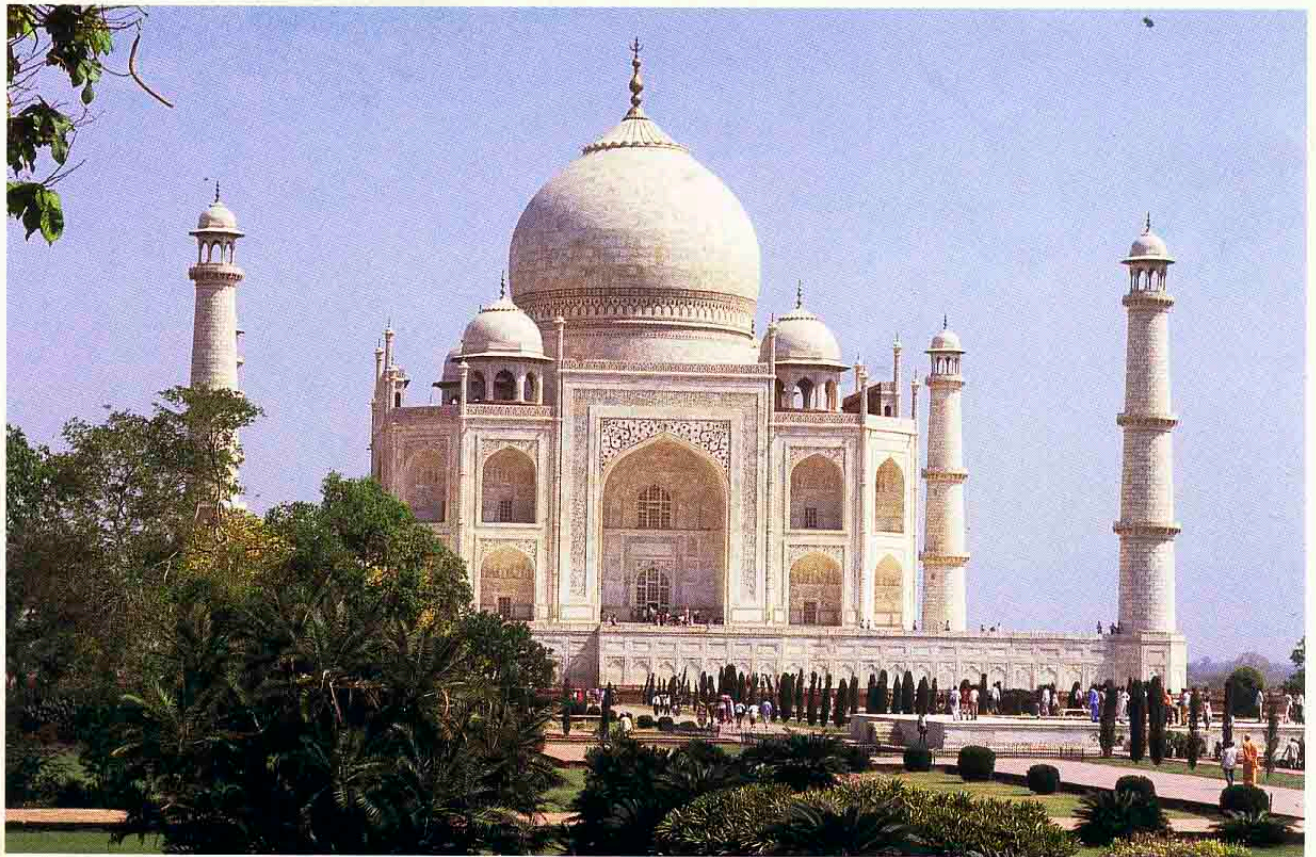


「ニーファイ人の子供たちを祝福する、復活したキリスト」 ロバート・T・バレット画

バウンティフルにあるニーファイ人の町で人々に教えを説いた後、復活した救い主は、子供たちを祝福し、彼らのために祈られ、こう言われた。

「あなたがたの幼い子供たちを見なさい。」

群衆は、天使らが天から降<sup>くだ</sup>って来て「幼い子供たちを取り囲み……恵みを施<sup>めぐ</sup>すのを見た（3ニーファイ17章参照）。



**9** 億5,000万人の隣人に福音を分かち合う——こう想像するだけでひるむ人もいられるかもしれない。しかし、インドの末日聖徒は直面するチャレンジの中に、すばらしい機会を見いだしている（「インド——種をまく季節」本誌p.34参照）。



# サッチャー女史の目にした 末日聖徒に息づくイギリスの伝統

「鉄の女史」、自由主義社会の基本は道義心にあると語る

『チャーチニュース』編集部記者  
R・スコット・ロイド

1980年代、強気な政治手法で世界に名をはせたイギリスの元首相マーガレット・サッチャーは、19世紀にイギリスからシオンに移住した人たちが今日に残した遺産を、自らの目で確かめた。

3月1日から8日までの日程でユタ州を訪れたサッチャー女史は、教会指導者の歓迎を受け、ブリガム・ヤング大学の学位授与式で名誉博士号を贈られた。続いて行われた講演会では、自由主義社会の基本は道義心にあると断言した。

ユタ州とイギリスは文化、ビジネス、教育面での交流を図ってきたが、今回サッチャー女史は1か月間にわたって開催されるイギリス・ユタ州フェスティバルに出席するために当地を訪れた。

1992年に女男爵の爵位を受けたサッチャー女史は、3月8日金曜日に行われた大管長会主催の昼食会に主賓として招かれた。

サッチャー女史は、3月3日日曜日、タバナクル合唱団の放送番組「ミュージック・アンド・スポークンワード」を見学した後、テンプルスクウェアの訪問者センター北館を訪れ、さらに同スクウェアに隣接する教会歴史美術館を訪れた。

3月5日火曜日、サッチャー女史は、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長管理の下に開かれたブリガム・ヤング大学特別学位授与式で、行政学名誉博士号



タバナクル合唱団の放送終了後、テンプルスクウェアのタバナクルから訪問者センター北館へ向かうマーガレット・サッチャー元イギリス首相（左から二人目）

を授与された。

同授与式では、最近までBYUの学長を務めたレックス・E・リーに対して、法学名誉博士号が贈られ、夫人のジャネットが夫に代わりこれを受けた。入院加療中の前学長はこの模様をテレビ中継を通して見守った。

ヒンクレー大管長は、サッチャー女史の1時間にわたる講演を受けて、「レディー・サッチャー、感動あふれる中にもチャレンジに満ちたお話をありがとうございました」と話し始め、「お話を伺って、あなたがなぜ『鉄の女』と呼ばれるのか、その理由が分かりました」と語った。

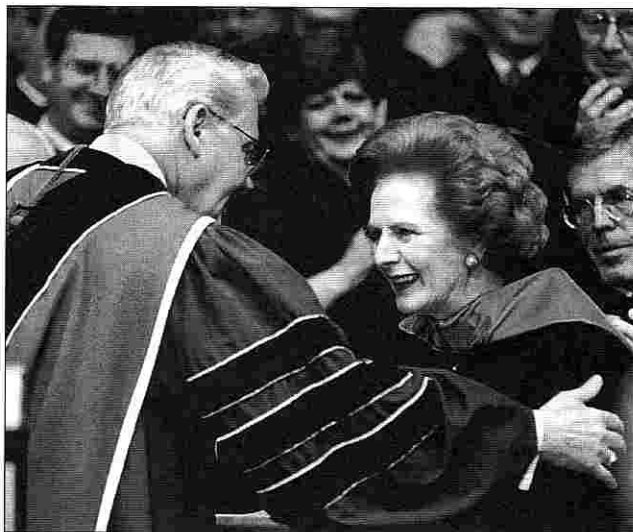
名誉博士号授与式の後、女史は次のようにも述べている。「信仰と勇氣、指導力によって今日のユタを形成した方の名を冠する由緒ある大学からこの学位を頂き、ほんとうに光榮です。」

講演の主題である『自由主義社会の根底を成す道義心』について、「道義心を根底に置いていない自由社会は、永続できません」と語った。

「わたしの友人であるアメリカこそ、実質的な意味で、自由を基として建国された世界で唯一の国です。人々は自由を求めてアメリカへ行きました。命を賭して海を渡りこの国を築いた人々は、報奨金を目当てにしていたわけではありません。実際に報奨金などというものはどこにもありませんでした。財産を築くためでもありません。自分たちの方法で神を礼拝するためにやって来たのです。そして、自らの模範を通してもっと広範囲に自由と正義を確立しようとしたのです。」

道義心と自由を基盤とした社会は繁栄することを女史は目にしてきた。また民主主義を純粋に追求する社会が、同じく純粋な民主主義社会に対して戦いを挑んだという例は、歴史的にも存在しないと述べた。

ヒンクレー大管長は講演の中で、サッチャー女史に対して次のように語りかけている。「あなたが歩かれたこの州とこの盆地に、1世紀前、何千何



名誉博士号を授与した後、マーガレット・サッチャー元イギリス首相に祝福の言葉を述べるプリガム・ヤング大学メリル・J・ベイトマン学長

万という男女がイングランド、アイルランド、スコットランド、ウェールズからやって来て、砂漠だったこの地を歩き、汗を流してばらの咲く街をつくり上げたのです。」

大管長は「高さ山よ」(『賛美歌』22番)の歌詞を引用して、これはチャールズ・W・ベンローズというイギリス人がその昔に作詞したものであることを説明した。

大管長自身、60年前にイギリス諸島で伝道したこと、また昨年の秋にはリバプールを訪れたことに触れ、リバプールが「アメリカ西部の山々に囲まれたこの盆地」へ移民するために、イギリス諸島から集結した末日聖徒が船出した港であることを説明した。

「わたしは祖国アメリカを愛しています。しかし、イギリス諸島もそれに負けないくらい愛していると言わなければなりません。わたしは人生でかけがえのない2年間をかこの地で過ごしたからです。……ジョージ5世が在位していた時代に、青年であったわたしは起立し、敬意を込めてイギリス国歌『神よ、王をまもらせたまえ』を歌いました」と大管長は語った。

3月3日、タバナクル合唱団の放送には、夫のデニス・サッチャー卿が女史に同伴した。この日はすべてイギリス人作曲家による曲目を演奏する特別

プログラムが生まれ、グスタフ・ホルスト作曲、セシル・スプリング・ライス作詞の「わが祖国よ、汝に誓う」も演奏曲目に加えられた。

放送に先立って、アナウンサー兼ナレーターのアナウンサー兼ナレーターのロイド・D・ニューエルはサッチャー女史とデニス卿を聴衆に紹介するとともに、その昔、教会に改宗したウェールズ人が結成したコーラスグループが今日のタバナクル合唱団に発展したことを説明した。また「創立以来歴代の指揮者をはじめとして、合唱団に関係している大半の人は、先祖をたどるとイギリス諸島から来ています」と述べた。

サッチャー夫妻は番組が終わると熱心に拍手を送った。そして、訪問者センター北館でニューエル兄弟とあいさつを交わし、夫婦で合唱団の放送を毎週聞けるようにイギリスの放送番組を当たってみると述べた。また、団員、指揮者、オルガニストに対して惜しみない賛辞を贈った。

女史はニューエル兄弟に対して、演奏で「わが祖国よ、汝に誓う」の2番の歌詞が聞けなかったことが残念だったと述べた。2番の歌詞にはこの曲で最も大切な、神の王国について触れた箇所があると言って、自ら暗唱し始めた。

そして はるか昔に聞かされたもう一つの国がある

それはわたしが最も愛する  
最も偉大な国  
わたしたちはその国の軍勢も  
その国の王も 目にすることは  
できないかもしれない  
その国の城壁は忠実な心 その国の  
威信は苦しみに耐えること  
そして一人一人静かに群れに加わり  
輝く国の境は次第に広がりゆく  
その国の道は柔和であり すべての  
小道には平和があふれている

サッチャー女史がブリガム・ヤング大学での講演を締めくくった言葉は、霊性と道義心を抜きにして社会の福利安寧の実現はあり得ないという主張だった。

訪問者センター北館を訪れた際、イギリス元首相はキリストの像とキリストの生涯を描いた絵を鑑賞したが、「物語をすべて御存じで、まったく説明する必要がなかった」と、スコットランド出身でテンプルスクウェアの案内係を務める宣教師メリサ・ケネディ・ターナー・アービンは言う。

教会歴史美術館ではグレン・M・レオナード館長が案内して、イギリス出身の末日聖徒の画家が描いたサッチャー女史の肖像画や風景画を紹介した。また永久保存されている教会歴史資料コーナーでは、各種の製作物や展示物にイギリスの香りが残されていることを指摘した。

日曜日には、サッチャー夫妻を十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老と妻のパトリシアが案内した。「サッチャー女史はすべてのことに大変感動していらっしゃいました。当教会が救い主とその聖なる御業の上に建てられていることを目にし、また納得されました。」

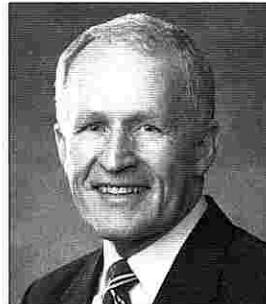
また、サッチャー女史が実はひとかどの音楽家で、オックスフォード大学時代に合唱団に籍を置いていたことがあり、タバナクル合唱団が演奏した曲をすべて御存じだったと語っている。(Church News 『チャーチニュース』1996年3月9日付け)

## フィリピン／ミクロネシア 地域の教会活動



第一副会長

アウグスト・A・リム長老



会長

ベン・B・バンクス長老



第二副会長

ケネス・ジョンソン長老

**教**会はミクロネシア地域で大きな発展を遂げています。この地域は2,200の島々から成り、島々全体の面積は非常に小さくても、太平洋上にヨーロッパよりも広い地域にわたって広がっています。フィリピンでは教会が発展を続け、広報活動のおかげで、かつてはあまり効果的に伝道できなかった人々にも教会の影響力が及ぶようになってきました。この地域における教会の最新の活動状況を知るために、本誌編集者はフィリピン／ミクロネシア地域会長であり、七十人であるベン・B・バンクス長老と副会長のアウグスト・A・リム、ケネス・ジョンソンの両七十人定員会会員にインタビューしました。

Q: ミクロネシア地域で教会はどのように発展しているのですか。

A: この地域には、マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦、パラオ共和国、グアム、北マリアナ諸島、そのほかの国が所有する様々な島がありますが、福音の力はますます増大しています。これらの島々には9つの地区と

40の支部があり、総会員数は8,000人に達しようとしています。多くの島々で教会はよく知られており、ますます多くの支部が集会所の建物を入手できるほど大きく発展しています。ミクロネシア・グアム伝道部の宣教師たちは、これらの遠く離れた島に散らばっている、文化も言葉も異なる人々に伝道するという務めを立派に果たしています。

Q: 教会が発展するうえで障害となることは何ですか。

A: ミクロネシアには困難な問題もあります。教会員はほかの宗教の人々から異常な反発を受けることもよくあります。でも、実際にはこのような反発は教会員の証を強める結果となっています。世界中どこでもそうですが、知恵の言葉を守るのは、ミクロネシアの多くの人々にとって常に困難な問題です。特に、お酒とたばこがそうです。新会員の定着も常に問題となっています。教会の発展に見合う指導者の育成も同様です。しかしおおむね、異なる文化的な背景を持った島々の人々は、家族のきずなを重視するなど、福音の原則にとってもよく一致しています。全

一般的に、ミクロネシアの人々は信仰が強く、指導者を尊敬し、よく従います。ミクロネシアで働くことができうれしく思っています。

Q: フィリピンでは教会はどのように発展していますか。

A: 昨年、広報の分野ですばらしい飛躍を遂げました。最初の広報宣教師に召された夫妻が大変活躍してくれたおかげで、現在フィリピンには正式な広報事務所が置かれています。二つの全国新聞が毎週、広報宣教師の書く家族をテーマにした記事を掲載し、毎週日曜日には、教会は主要ラジオ局にゴールデンアワー向け3時間の番組を提供しています。216ものケーブルテレビ局も視聴者に教会の番組を放送しています。毎年9月に行われる全国家族強化週間に、教会は主要団体として参加しています。実を言うと、わたしたちはフィデル・V・ラモス大統領の内閣の一人が議長を務める運営委員会のメンバーになっています。

教会は家族歴史や健康に関するパネルを展示し、とても大きな反響を呼びました。あるショッピングセンターからは、隣町の商店街で教会が家族歴史の展示をしたことを聞いて、自分のところでもやってほしいと頼んできました。

た。ほかのところでは、町の警察職員が全員、末日聖徒の集会所へやって来て、夫婦宣教師から人工呼吸法の訓練を受けました。最近、広報宣教師は教会のラジオ・テレビ番組を約80人のジャーナリストに見せました。最初、ジャーナリストたちは冷ややかで懐疑的でしたが、後で多くの人の目に涙が浮かぶのが見られ、「教会の価値感、まさに現在この国が必要としているものだ」といった好意的な感想が聞かれました。

Q: このような広報活動の成功によって、どのような成果が得られましたか。

A: 主がこのような短期間にこれほど多くの門戸を開かれたのを目にするのは驚くべきことです。フィリピン中のワード、支部、ステーク、地区が、地元市民の指導者や公的機関といっそう協力して働くのを目にするのはとてもうれしいことです。最近、教会がメディアと協力する機会があったおかげで、これまでは宣教師が近づくことができなかった嚴重警備地区に住んでいるフィリピン人にも、福音が届くようになりました。これらの人々の中からもっと改宗者が出てきて、指導者としての技能など、教会に新たな力を増し

加えてくれることでしょう。

しかしながら、まだ多くの人々にとって、フィリピンでの生活は厳しいものです。自然災害はあまりに頻繁に起きるので、新聞の見出しにもならないことがよくあります。ミクロネシアでは東端に至るまで貧困が広がっていますが、これらの島々の人々は概して食べる物には不自由しません。それと対照的に、フィリピンの貧困はひどく、かなりの割合の人々が栄養不良の状態です。数年前に、フィリピンで大きな火山が爆発したことを覚えている会員も多いことでしょう。でも、その灰が今でも雨で流され、大きな被害を及ぼしていることを知っている人はあまりいないと思います。あるフィリピンの会員は家を3回も建て直しました。高床式さえ試みましたが、ついにあきらめました。灰が10メートル近くも積もってしまったからです。

それでも、フィリピンの人々はとても快活です。就学率や識字率の高さは、彼らが生活を向上させようといかに努力しているかを示しています。彼らは霊的で、福音をよく受け入れています。今後も、教会は発展し続けることでしょう。(Ensign『エンサイン』1996年3月号, pp.79-80)

## 韓国人地域幹部、 政府の要職を務める

『チャーチニュース』投稿者  
ユン・サン・ク  
韓国ソウル発

アジア北地域幹部のチョン・ユル・キム長老は、法歯科学の専門家であり、数々の重要な事件において被害者の身元確認に貢献したことで有名になった。

キム兄弟はその知識、訓練、経験を

買われ、現在、政府の要職である韓国科学研究院(NISI: NATIONAL INSTITUTE OF SCIENTIFIC INVESTIGATION)院長の責任を受けている。

この研究所はアメリカで言えば合衆国連邦捜査局に当たり、ここでは法施行事務所や弁護士から提出される書類の中の科学的証拠を評価し、解明している。また法医学的検死を行ったり、放火事件や自動車事故の調査、死体の

身元確認などを援助したりしている。

キム兄弟は歯科医師として法歯科学の発展に尽力し、それに関する数々の論文を国際的な学術誌に発表してきた。

キム兄弟はこれまで、韓国で起きた幾つかの災害の調査に携わり、その持てる能力を証明してきた。当時世界で最大級の火災事故であった、1971年のダヨンガクホテル火災の調査に協力した。1987年に起きた飛行機事故の際には被害者の身元確認に携わり、また16年前、民主主義運動に対する政府弾圧の中で起きたクワンギョ大虐殺で、多くの人々の身元確認も行った。

キム兄弟がNISI所長の任を受けて間もなく、500人以上の死者を出した



サンブンドアパート崩壊事故が起こり、キム兄弟はその遺体身元確認作業の責任者として働いた。

十分な資質を持ち合わせながらも、ヨンセイ大学の教授である自分が、昨年そのような政府の重要な職に選ばれたことに驚いたと、キム兄弟は言う。

韓国最大の私立大学の歯学部教授であった彼は、当初政府の職に就くために教育現場を離れるのをちゅうちょしていたが、政府の方針が変わって、大学での責任はそのまま継続できることになった。

キム兄弟は国立ソウル大学の歯学部で学び、卒業時には優等生に選ばれた。卒業後は大学、およびNISIにおいて法歯科学を学んだ。

1941年生まれの際は、韓国が日本から独立したとき小学校1年生だった。韓国における末日聖徒の1世でもある。

1951年のある春の日、キム兄弟は初めて軍人でない外国人に出会った。彼らは教会の宣教師であった。キム兄弟は最初恥ずかしくて彼らに話しかけられなかったが、後に家から歩いて30分ほどの、学校に近い集会所に誘われた。新しく、白く、きれいな建物に彼が初めて足を踏み入れたとき、MIA（相互発達協会。現在の独身成人の活動）の集会が行われていた。

その後キム兄弟は宣教師から福音の原則を学び、教会に入る決心をした。しかし両親からバプテスマを受ける許可がもらえずに3年間待った後の1960年、18歳のときついにバプテスマを受

韓国政府の要職、韓国科学研究院の院長を務めるチョン・ユル・キム兄弟。キム長老は、アジア北地域幹部でもある。



けた。

バプテスマを受けた後キム兄弟は、現在は七十人に召されている、当時の韓仁相支部長から日曜学校福音の原則クラスの教師の召しを受けた。

1973年、キム兄弟は韓国最初の監督の一人に召され、当時十二使徒であったスペンサー・W・キンボール長老から聖任された。その後7年間監督として召しを果たし、多くの若人を備えて伝道に送り出した。

これまで、ステーキ会長、伝道部長会の一員として、また支部長、長老定員会会長、日曜学校会長として働いてきた。また、韓国に教会教育部が設立された後、パートタイム教師として数年働いたこともある。そのとき彼がインスティテュートで教えた多くの生徒たちが、監督、ステーキ会長、扶助協会会長、初等協会指導者、またそのほか多くの教会指導者となった。

キム兄弟は、総大会出席のためユタを訪れた1973年、プロボ神殿で自分のエンゲウメントを受けた。

1985年ソウル神殿が奉獻されたことは、彼に実に大きな祝福をもたらした。その一つは、それまで旅行手段がなくて神殿に入れなかった夫人のユン・スーク・キム姉妹と結び固めを受けたことである。ソウル神殿が奉獻された後、

二人は儀式執行者として働いてきた。

キム兄弟は1993年、ソウル地区の地区代表に召され、昨年地域幹部の責任を受けるまでその召しを果たしてきた。

バプテスマを受けた彼が教会の中で成長してきたのと同様、韓国における教会もまた成長を遂げてきた。彼がバプテスマを受けた当時は4つの支部しかなく、会員も200人に満たなかったのに比べ、現在では16のステーキ、5つの地方部、4つの伝道部があり、会員も8万人以上に増えた。

キム兄弟は、多くの召しを受けて働き、祖国に教会を打ち建てる助けができたことは大きな喜びだったと語る。

これからは重要な、そして多くの人の目に触れる政府の要職にある教会員として、自分の国に平等と公正を押し進めたいと抱負を語った。また、地域幹部として、天から受けたと確信しているその召しを尊び、大いなるものになりたいと語った。(Church News 『チャーチニュース』1996年3月9日付け、p.11)

## 本格的な広報活動に取り組んだ「手話講習会」

——名古屋ステーキ岡崎ワード——

**横** 浜ステーキの扶助協会会長で、手話通訳士の田中清姉妹が岡崎に来られることを教えてくれたのは、聴覚障害者の原田泰章兄弟（名東南ワード）でした。2月18日（日）の午

後、愛知県聴覚障害者協会の「文化講演会」の講師として、3時間にわたって「手話と私」というテーマで講演をされるとのことでした。

田中姉妹には、昨年の夏にご主人の

田中靖也地区代表（当時）と一緒にステーキのファイヤサイドに来ていただき、名古屋でとても楽しいお話を聞かせていただきました。その田中姉妹がせっかく岡崎ワードのすぐ近くまで来

『朝日新聞』1996年2月19日付け

## 「アーメン」「聖霊」 手話では、こんな風

岡崎でキリスト教用語講習

岡崎市菟美中の末日聖徒（まじつせいと）イエス・キリスト教会岡崎ワードで十八日、キリスト教用語の手話講習会が開かれた。県内のほか、岐阜市、四日市の計八カ所の集会所で手話通訳のボランティアをしている女性など、信者ら約六十人が参加した。講師は、NHKテレビの



手話ニュースキャスターで、二十年以上にわたって横浜の教会で手話通訳をしている田中清（きよ）さん（右）＝横浜市神奈川区。夫

に増えているが、キリスト教用語を伝える手話に決まらないうえ、手話通訳ボランティアが困っていたと

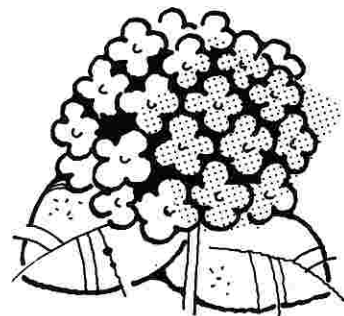
の靖也さん（右）とともに賛美歌を手話で通訳した後、「アーメン」「聖霊」などの言葉を手話で示した。信者らは田中さんの手の動きを見ながら、手話で表現していた＝写真。同教会の集会所には、最近、聴覚障害者の姿が徐々に増えているが、キリスト教用語を伝える手話に決まらないうえ、手話通訳ボランティアが困っていたと

このような準備の結果、名古屋市内・岐阜・四日市（三重県）などの6つのワード・支部で手話通訳をしている教会員12人が出席の返事を下さり、2紙の新聞も事前に告知記事を載せてくれました。また、一つの教会は過大な称賛の手紙を下さいました。そして名古屋ステーキの石井哲志会長が手話講習会に出席し管理して下さることになりました。

ところが、当日、関東から広島までの太平洋側を襲った大雪のために、横浜から田中ご夫妻が乗られた新幹線が1時間以上も遅れてしまいました。そのため、田中ご夫妻がワードに到着されたのは聖餐会の終了間際でした。

30分遅れで始めた手話講習会には、新聞記事を読んで近所の聴覚障害者が3人出席されました。また手話サークルで活躍している、しばらく教会にいられていなかった姉妹が久しぶりに教会にいられました。新聞社も取材に来て下さり、石井会長とわたしは生まれて初めてインタビューを受けました。

田中姉妹は、単なる手話の技術を伝えるだけでなく、聴覚障害者であるご両親に育てられた経験に裏付けされた感動的なお話をして下さいました。田中姉妹が話しておられる間、田中兄弟が傍らに立って手話通訳をされました。ほんとうにたくさんのお話を学んだ一日でした。（レポーター：掛川泉、名古屋ステーキ岡崎ワード監督）



られるというので、早速電話で、午前中のワードの聖餐会への出席とお話を願いました。

岡崎ワードには耳の不自由な会員が少ないために知らなかったのですが、手話にも専門用語があり、「アーメン」「聖霊」「神殿」「再降臨」といった教会用語は新たに工夫して作らねばならないそうです。

横浜のろう者の会員たちが中心となって、教会の手話用語のテキストやビデオが作られていること、時々横浜で全国ろう者大会が開催され、その中で「教会用語の手話」の講習も開かれていることを知りました。残念ながら名古屋地区からの参加者はあまり多くないと聞きました。また、横浜や町田にはろう者の教会員が幾人もいて、会員の多くがごく簡単なあいさつ程度の手話を知っていることも聞きました。

そこで、2月18日の日曜学校の時間には田中姉妹に「キリスト教用語の手

話」の講習会を開いていただくことにしました。名古屋地区の二人のステーキ会長、三重地方部長の承認を頂いて、ほかのワード・支部の手話の経験のある会員たちに参加を呼びかけました。また、岡崎ワードの成人の会員たちも一緒に講習に参加することにしました。

田中姉妹は、テレビの手話ニュースのキャスターとして手話の世界では大変な有名人ですから、この講習会を教会員だけに限定するのはもったいないと思えてきました。そこで、ステーキ会長と広報評議会に協力してもらって、岡崎ワードとしては初めての本格的な広報活動を行うことにしました。

講習会の案内文を作り、職業別電話帳から書き出した岡崎市内のマスコミの支社・支局にその案内文を送りました。新聞社が4社と、テレビ・ラジオ局が7局です。さらに、岡崎市内にあるキリスト教の各教会にも招待状を書きました。

## 短期間の伝道を通して学んだこと

### ——父に「人生の目的」のレッスン——

札幌西ステーク新琴似ワード  
辻 智美

**今**年の1月9日から14日まで、ユースミSSIONナリーとして、岩見沢支部で伝道する機会が与えられました。今回で3度目の経験でした。

9日の朝、我が家の前には一晩の間に1メートル以上も雪が積もりました。あまりにもすごい雪で、除雪車も来ません。わたしはどうすればよいのか分からなくなり、伝道本部に電話しました。「バスも運休しているし、行く方法がありません。どうすればいいですか？ 信仰によってなんて言わないでくださいね。」わたしがこう言うと、「それは言いませんが、姉妹宣教師たちと直接連絡を取ってください。だいじょうぶ。試練の後には必ず祝福が来ます。頑張ってください」との長老からの返答でした。

#### 主が道を備えてくださる

朝食も食べずに、ずっと雪かきをしていたとき、心の中にニーフアイ第一書第3章7節の聖句が思い浮かんできました。「わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには……主によって道が備えられており……。」しかし家の前には道どころか、雪しかないのです。

午前10時に雪かきを終え、テレビを見ていると自動車は1時間に1本くらい出ているとのことなので、地下鉄の駅まで行ければ何とかかなと思いました。バスは運休していましたし、タクシーも連絡がつかいません。それでも「主が

道を備えてくださるのだから、だいじょうぶ。地下鉄の駅まで2時間歩いてでも行こう」と思い、 unnecessary 荷物はバッグから出して、聖典と宣教師ガイド、少しの着替え、薬、お金だけを持って行くことにしました。

この日、妹も一緒に行く予定でした。雪の中を一緒に歩き始めましたが、心の中でずっと天父に祈っていました。「天のお父様、どうぞ道を示してください。どうぞわたしたちに空車のタクシーを与えてください。」タクシーが時々通っていましたが、みな人を乗せていました。

後ろを歩いていた妹は、荷物が重たくて道の上を引きずっていました。妹はわたしのように荷物を軽くしていなかったのです。わたしは妹を見て、どうしてよいか分からなくなり、もっと祈っていました。後ろで音がして振り返ると、妹は荷物を引きずりながら転んでいました。わたしが妹に近づくと、妹は突然手を上げました。見ると空車のタクシーが通過して行きました。タクシーはずっと行ってしまい、無理かなと思ったとき、Uターンして戻って来てくれました。

#### 運転手さんに『モルモン書』を

運転手さんは、「すぐそこでお客さんを降ろしたところだったんだよ。急に手を挙げられても止まれなかったし、通過しようかと思ったんだよ。Uターンする所もなかったしね。でも荷物を引きずっているのを見たら、あまりにも哀れに思えてね」と話してくれました。わたしは妹に感謝しました。妹がいなかったら、多分タクシーに乗れな

かったからです。

運転手さんに感謝して、わたしたちの目的を説明し、教会や宣教師のことを話しました。わたしは岩見沢に行くまでにだれかに『モルモン書』を渡そうと思って、荷物の中に1冊入れていました。運転手さんに感謝の気持ちを込めてそれを渡すことができました。わたしは妹と心からこの経験を喜び合いました。

地下鉄に乗ってからわたしたちは、ずっと証会あかしをしていました。この日、10人の若人がユースミSSIONナリーに参加しようとしていて、しかもほぼ全員が伝道に出たいと思っているのです。

わたしたちは大雪を克服したという強い証ができていました。それまでに起きた奇跡に二人とも興奮し、心から天父に感謝していました。天父は、わたしたちを強め証を与えるために試練を、大雪を与えてくださったのです。後日、ユースミSSIONナリーに参加した友達が集まって証会が行われたとき、皆が大雪に対する証をしていました。天父は大雪を通して、わたしたちだけでなくほかの兄弟姉妹たちをも強めてくださいました。感謝しています。

6日間の伝道はほんとうにすばらしいものでした。いつも祈り、聖霊を求めている姉妹宣教師とともにいて、わたしも聖霊を感じることができました。多くの霊的な経験をすることができました。

#### 再婚した父のもとに

実は前回も岩見沢で伝道したのですが、そのときは岩見沢に行くことを志願して行きました。そこには、再婚した父が住んでいるからです。わたしの両親はある事情で8年前に離婚し、父はそれから教会を離れました。前回、わたしは再婚した父の奥さんに福音を伝えるため、勇気を持ってアパートを訪問しました。結局奥さんには断られ

てしまいましたが、奥さんに愛を伝えることができ、良い経験となりました。

今回、任地はどこでもいいと思っていました。まず岩見沢はあり得ないと思っていたのですが、岩見沢に召されたのです。でも父のところに行くことはないだろうと思っていました。父のアパートはとても遠く、冬に自転車で行くことは不可能でした。前回、奥さんには断られたし、父の住所も持って来ていませんでした。しかし、天の御心は別のところにありました。

ある日の午後、偶然教会員の助けを得て、車で3軒の家を訪問することになりました。そのうちの1軒では雪かきを手伝うので、4人で行くことになりました。わたしはとても疲れていて車の中で眠っていました。目が覚めたとき、目の前の景色を見て驚きました。父のアパートの近くに似ていたからです。同僚の一人は前回も一緒に奥さんを訪問したので、父のことを知っていました。同僚の姉妹に聞くと、そのとおりだと言うのです。わたしの頭の中は父のことでいっぱいになりました。

### 恐れと平安と

1軒目を訪問したときは「心そこにあらず」といった感じでした。2軒目に行く途中、父のアパートを見て通り過ぎました。心はもっと重くなりました。わたしはとても恐れていました。でも父のことを真剣に考える必要がありました。2軒目の家に雪かきに行ったとき、一人で考える時間を少しもらい車の中にいました。祈るのも恐ろしく、ただ聖典を開きました。

何も考えずに開いたのは、ヒラマン書第5章11節でした。「主は悔い改めの条件について告知らせるために、天使たちを遣わしてこられた。この悔い改めは人々を贖い主の力のもとに導き、彼らに救いを得させるものである。」

父に必要なのは悔い改めでした。天のお父様は父に悔い改めを知らせるために、わたしを遣わそうとしているのかなと思ったとき、平安な気持ちになっていました。そのとき、時間は午後3時でした。父が帰るのは多分5時半過ぎなので行けないだろうという思いもありました。行くのが怖い気持ちと、行かなければいけないという気持ちがあって、二つの思いがぶつかり合っていました。

それから1時間ほど雪かきをしながら、心を楽にすることができました。3軒目の家に行きました。そのころになると、「父のところに行こう」という気持ちが強くなっていました。でもまだ4時でした。ところが3軒目の家で1時間半が過ぎ、5時半になっていました。父の家は、すぐ近くで、時間もよくて、もしも行かなかつたら、天父はどんなに悲しむかなと思いました。

### 合本に父へのメッセージ

「少しだけいい？」と同僚に聞くと、「いいですよ」と言ってくれたので、行くことにしました。でもわたしは父に渡すものを何も用意していなかった

ので、わたしが使用している末日聖典合本を渡すことにしました。その合本は伝道に行くときに持って行こうと思って、一生懸命に宣教師として教える箇所をチェックして線を引いていた大切なものでした。車の中で合本に父へのメッセージを書きました。「わたしは今日自分の意思でお父さんのところに来たのではありません。天のお父様が信じられない方法でわたしをここに連れて来てくださいました。天のお父様は、お父さんを愛していっぱいいます。わたしたちもお父さんを愛しています。」

ちょうどメッセージを書き終えたとき、前から車が来ました。見ているとその車から父が出て来ました。父はわたしに気づかず、アパートに行ったので、慌てて車から降りて父を追いかけました。2階に上がって行こうとする父を、姉妹たちが「辻さん」と呼び止めてくれました。父が振り向いたとき、そこにはわたしが立っていました。父は驚いて「智美、どうした」と言いました。わたしは「お父さん、来たよ」と言って握手しました。

### 「この前、夢を見たんだ」

姉妹たちは車に戻り、わたしは父の家に入りました。その日は奥さんがいませんでした。父は昔の優しい父に戻っていました。「寒いか。ごめんな。これ食べるか。みんな元気か。」父はとても優しい目をしていました。わたしはどのようにしてここに来たかを説明し、合本を渡しました。父は、合本を読むと約束してくれました。

いろいろ話をした後、「毎日、お父さんのために祈っているよ。親子なんだから、お父さんのことは忘れないよ」と言ったとき、父は「お父さんだよ。実はな、この前、夢を見たんだ。幸恵（姉）とな、智美と喜久恵（妹）と一緒にいて、お父さん、おまえたち



辻 智美姉妹

からレッスンを受けていたんだ。今年の初夢だったよ」と言いました。それを聞いたとき、わたしは父にレッスンをする必要を感じました。

なぜ父の夢にいたのは姉とわたしと妹だけで、弟や末の妹は一緒にいなかったのかと考えました。姉は現在専任宣教師として岡山伝道部で働いていますし、わたしと妹はユースミッションナリーでした。この日、それぞれが伝道していました。わたしは3人の代表として父のところに連れて来られたのだと思いました。

「お父さん、少し時間がある？ わたしね、今伝道に行こうと思っていて、宣教師の教材を勉強してるんだけど、まだ人に教えたことはないんだ。お父さん聞いてくれない？ わたしが教えるから。姉妹たちを呼んできてもいい？」と聞きますと、父は「駄目だな」と言いました。わたしが「30分でもいいよ」とさらに言うと、「教会に行ってもいいよ」と言うのです。わたしは少し驚きましたが、姉妹たちに話をして、父とともに教会に行くことにしました。

### キリストの贖い<sup>あがな</sup>によって

教会に着いて、同僚の姉妹の助けを得てレッスンを始めることにしました。父に自己紹介してもらったとき、父はこう言いました。「辻です。娘がお世話になっています。ありがとうございます。昔教会に行っていました。…」父はとても謙遜になっていました。

『賛美歌』189番「神の子です」を歌い、わたしが祈ってからレッスンを始めました。救いの計画を図に書きながら進めていきました。「お父さん、神様はどのような御方ですか。」父は完璧に答えてくれました。でも父はそのようなことを言える立場ではないといった感じでした。わたしは父にレッスンをしながらとても緊張してしま

た。言葉に詰まったとき、いつも同僚が助けてくれました。救いの計画を父は完全に知っていました。

レッスンを進め、人生の目的を説明し、「わたしたちの最終的な目標は、天のお父様のところに帰ることです。お父さん、帰りたいですか」と聞いたとき、「お父さんはふさわしくない」と言い出しました。わたしは父にイエス・キリストの贖い<sup>あがな</sup>について説明し、救い主は罪と死を克服されたことを伝えました。

父は「それはバプテスマを受ける前の人のことで、お父さんの罪は赦されないと」言いました。それを聞いてわたしは悲しくなり、父に泣きながら訴えました。「お父さんは、天のお父様のところに帰れるよ。そのためにイエス様は苦しまれたんだよ。わたしたちの目標は天のお父様のところに帰ることでしょう。わたしたちが天のお父様のところに帰ったとき、もしそこにお父さんがいたら、わたしたちはどんなにうれしいか分からない。だからお姉ちゃんも手紙をくれるでしょう。」

### 「お父さんに感謝しているよ」

お父さん、わたしはお父さんに感謝しているよ。わたしたちは幸せだったよね。毎朝毎晩、家族の祈りをして聖典を読んで、日曜日には家族で教会に行って、月曜日には「家庭の夕べ」をして、休みの日にはよく家族で出かけたよね。だれが見ても幸せな理想的な末日聖徒の家庭だったでしょう。それを作ったのはお父さんなんだよ。

お父さんは多くのものを失ったよね。お父さんは大きな犠牲を払ったでしょう。でもお父さんの犠牲によってわたしたちは多くの祝福を受けたよ。だからお父さんにもわたしたちが受けた祝福を少しでも返したい。今、お姉ちゃんが伝道に出ているよ。わたしも伝道に出たいよ。孝尚（弟）も伝道に出

いと思ってる。喜久恵（妹）もだよ。それはお父さんのおかげだよ。でもね、わたしたちがどんなに伝道しても、いちばん大切なお父さんに伝道しなければ、一つも実を結べないんだよ。」

### 天のお父様のところに帰ろう

父は困った顔をしながら、ただ黙ってわたしを見ていました。わたしは半分泣きながら「お父さん、何か言ってくれないと間が持たないよ」と言うと、父は「そう言われると、お父さん、何も言えないよ」と言ったので、わたしは続けました。「わたしの祝福文にはね、あなたたちの両親と主を迎えると書いてある。お父さん、わたしの両親ってだれ？」「お父さんか？」「そう、お父さんだよ。わたしはね、お父さんも天のお父様のところに帰る可能性があると思ったとき、ほんとうにうれしくて涙が出たよ。ね、お父さん、一緒に帰ろう。帰れるよ。」

父はわたしの言葉を聞いて、ほんとうは天父のところに帰りたと思っていて、いつか教会に戻りたいと思っていること、知恵の言葉を守っていることを話してくれました。それを聞いてわたしは安心しました。わたしは父に感謝の言葉を告げ、レッスンを終えました。

『賛美歌』181番「家庭の愛」を歌い、同僚の姉妹に祈ってもらい、閉会することにしました。「家庭の愛」は昔父が大好きで、「家庭の夕べ」といえば毎週こればかり歌ったものでした。この日、父はとても大きな声で歌ってくれました。まるで昔に戻ったようでした。わたしは父の歌声を聞きながら、また泣いてしまい、歌うのが難しかったです。

祈りが終わり、父に感謝の気持ちを述べ、握手して「愛してるよ。頑張ってる」と言って父を抱き締めました。父は「分かっている」と言ってくれました。

父を見送った後は、体からすっかり力が抜けていました。

### 父に会えたのは奇跡

その日の夜は疲れ切って、アパートに帰ってぐっすり休むことができました。まるで天父がわたしに「良くやったね」と言ってくれるようでした。

父に会えたのは奇跡でした。岩見沢に召され、予定していたレッスンがなくなり、偶然車で父の家の近くに行くことができるようになりました。また、雪かきや訪問した姉妹の家で過ごした時間は、父の帰宅のタイミングにぴったりだったのです。父もその日だけ早く帰って来たようでした。すべての条件が整わなかったら、父には会えなかったでしょう。もしもわたしが父の家に5分早く行っていたら、留守のためにあきらめていたでしょう。天父の方法やその正確さ、力、そして天父の父への愛を知ることができました。

### 神の愛を携えた力強い宣教師に

6日間のユースミッションナリーは、すばらしい経験でした。吹雪に向かって自転車をこいだり、何時間も寒い屋外にいて、一軒一軒ノックして歩いたりするのは初めての経験でした。あまりにも体が冷たくなって、アパートに帰ってストーブの前で小さくなっていたりしました。姉妹たちは雪道を自転車に乗って、よく転んでいました。

そのような中であって姉妹たちはいつも元気でにこにこ笑っていました。わたしも姉妹たちがいてくれたので、いつも笑顔でいることができました。彼らのような宣教師になりたいと思います。笑顔には大きな力があります。すべての力の源は神の愛です。わたしは神の愛を携えた力強い宣教師になりたいです。この経験が与えられたことに感謝しています。(つじ・ともみ ステーク宣教師)

## FMラジオ局のボランティア活動

——家族の大切さを訴えたい——

東京北伝道部長野地方部長野支部  
武井昇次

わたしの母は十何年も前に亡くなりましたが、母の模範に感謝しています。わたしが小学校低学年のころ、近所に季節労働者の家があり、同級生の友達に住んでいました。古い土蔵の物置とも言えるところでした。母がわたしたちの小さくて、着られなくなった衣類、靴などの生活用品を運んでいたことが思い出されます。それ以外にも、母は人が困っているのを見て黙ってはいられず、いろいろな所で援助の手を差し伸べていました。

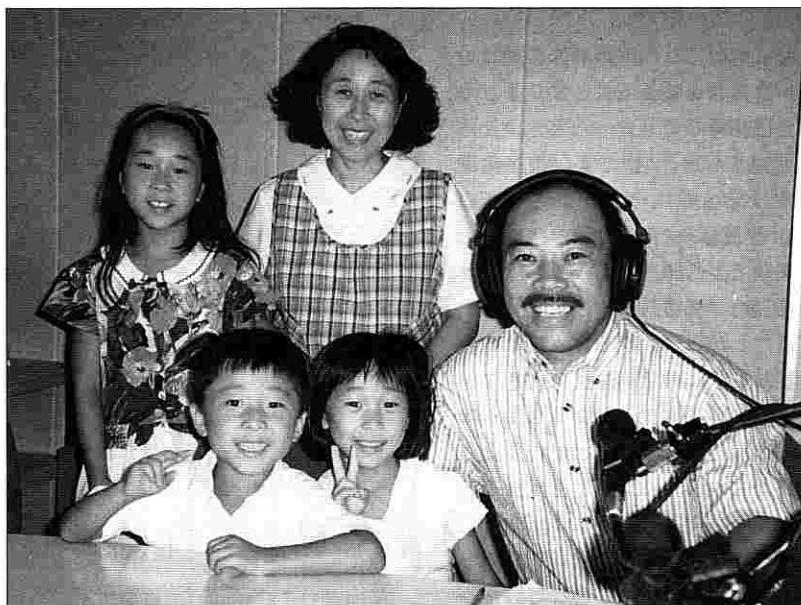
そうした母の姿を見て育ったわたしは、自分に何ができるのか長い間考えていました。30歳ごろ急にボランティア活動なるものに思うところがありました。ケント・デリカット兄弟は日本各地でボランティア活動を通してたくさんの人々と出会いました。彼と直接

話をする機会があり、ボランティアについて学びました。でも、子育てに忙しいわたしには、実感がありませんでした。

35歳ごろに、市で出している広報の中に長野赤十字病院でのボランティア募集の記事を目にし、申し込みました。患者さんの看護のお手伝いその内容です。今現在約200人のボランティアが登録していますが、「ボランティア会」会長としての責任を受けています。

また昨年7月に開局した「FMぜんこうじ」(コミュニティ放送)が放送ボランティアを募集している新聞記事が目にとまり、申し込みました。とは言うものの放送という分野はまったくの素人です。面接でわたしの思いを伝えたところ、事務局長をやってほしいとの依頼を受けました。現在75人ほどの仲間と、企画と制作のチームに分かれて番組制作に携わっています。

4月から番組編成に伴って20代から



FMラジオ放送番組に家族五人で出演

40代の聴取者をターゲットにした新番組を制作し、わたしも第3、4の日曜日午後6時から7時の時間帯での生放送を担当しています。音楽とお話による放送で、子育て中のお父さんが楽しめる内容です。家族の大切さとわたしたちが信仰生活の中で得たすばらしい体験談を紹介していきたいと思っています。昨年は結婚10年目ということで、わたしと妻が出演したり、家族5人で出演したりと楽しい思い出もありまし

た。

わたしたちには、神様からいろいろな賜物たまものが与えられています（モロナイ10：13—18参照）。福音の実践の場として様々なボランティア活動の中で神様から授けられた才能や賜物を人々のために役立てられることに感謝しています。また家族の理解と教会のすばらしい友達の支えにも感謝しています。（たけい・しょうじ 長野地方部広報ディレクター）

## シオンの山の救い手として

——先祖に心向けられるように——



札幌西ステーク  
新琴似ワード  
佐藤養子

**19**77年4月27日、わたしはバプテスマを受けました。改宗して間もなく、福音を知る機会なくこの世を去った人々にも、救いの機会が与えられていることを知りました。わたしの父は酒飲みで、52歳でこの世を去り、母は女手一つで6人の子供を育ててくれました。貧しかったけれども、いつも笑顔を忘れなかった母。朗らかで信仰が篤く、心の優しかった母も62歳で亡くなりました。

母は熱心な仏教徒でしたが、後に、ある新興宗教に信仰を持つようになりました。生前は死んだ人々の命日をよく覚えていて、供養を欠かしたことがありませんでした。母を失った悲しみは、この教会に改宗するまで続きました。その父母や一度も会うことのない祖父も、イエス・キリスト様の贖いあがなにより真理を受け入れられる機

会があることを知って、わたしの心は慰められました。

### 市役所の火災で壁に ぶち当たった系図の探求

系図とうほんを探求しようと決心して、まず父の謄本を取り寄せましたが、それ一通で壁にぶち当たりました。昭和9年、わたしが3歳のとき、函館に大火があり、そのとき市役所も燃えてしまいました。両親は秋田県南秋田郡から函館にきたことが分かりましたが、それ以前のことは分かりませんでした。しかし、「彼は先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう」（教義と聖約2：2）という聖句がわたしに勇気と希望を与えてくれました。わたしの先祖が末日に救いを受けるという約束を主が与えてくださるならば、わたしの心を先祖に向けるだけでいいのです。

### ささやく声が聞こえて

あるとき、わたしは会社で仕事をしていました。そろばんをはじいていると、心の中でささやくようにこんな声が聞こえました。「秋田、公務員、鈴木。」わたしは、はっとして何のことだろうと少し考えました。そうすると突然、遠い昔母がわたしに聞かせてくれたことを思い出したのです。母には弟と妹がいましたが、妹は22歳ぐらいで亡くなり、弟も結婚して二人の子供を残し、早死にしていました。その弟の娘が、秋田に嫁いでいることを思い出したのです

えー、でも「秋田！ 公務員！ 鈴木！」何だろう。秋田は広いし、公務員も大勢いる、鈴木という姓はどこにでもあるのに……と。「そうだ、秋田市役所」と思ったとき、もうわたしの指はダイヤルを回していました。

「もしもし」と交換手が出たとき、自分では何を言っているか分かりませんでした。ただ夢中でした。「わたしは札幌から電話をしていますが、肉親を捜しています。そちらに鈴木さんという方がおられますか。」「鈴木何さんですか？」「名前は分かりません。」「鈴木という名前の者は二人おられますか。」「わたしはすぐに「50代の方をお願いします」と答えました。

「もしもし、鈴木ですが。」母に似た秋田弁なまりの懐かしい声でした。わたしはその声に励まされ、「突然お電話してすみません。わたしは佐々木（旧姓）という者ですが、肉親を捜しています。どうぞこの電話を切らないでください。」気違いと思われて、電話を切られないためでした。「失礼ですが、あなたの奥さんの名前は淡路（母の旧姓）カネエさんですか。」電話の向こうからの声は、幕の彼方からの母の声のように聞こえました。「はい、そうですが。」わたしはあまりの驚きと喜びで声が詰まりました。「函館に住んでいた佐々木与七の妻はわたしの母、淡路ミヤです。その娘の養子です。カネエさんは母の弟の娘さんです。わたしはお会いしたことはありませんが、生前、母から聞いていました。奥さん

はお元気ですか。電話番号を教えてくださいませんか。」

### 打ち砕かれた壁

何とすばらしい聖霊の導き、主の業でしょうか。主の贖いの力によって、わたしの前にあった壁は打ち砕かれ、先祖へと続く道がそこに開かれたのでした。

この経験はわたしの信仰を強め、主がともにいてくださることを証し、「エリヤの霊」がともにいてくださることを確信し、何でもできるという証を心に植え付けてくれました。そして、わたしの先祖は偉大な信仰をもって、わたしのために何百年もエノスのように祈り続けていてくれたことを、聖霊によって知ることができました。

その日から今日まで18年間、死者に心向けられるように主に祈り、求め続けてきました。わたしは「シオン山の救い手」になりたいと思いました。先祖の記録を入手できるように、朝も夜も、バスを待っているときも、歩いているときも先祖に心に向けていました。機会のある度に系図の証をしました。

### 「寝食も忘れるほどに 一生懸命書きました」

自分の名前が「家族の記録」に書き込まれるのを、わたしの後ろから前から横から言葉も出せずにじっと見詰め続けているわたしの先祖たちの愛と感謝の思いを身に感じながら、寝食も忘れるほどに一生懸命書きました。この人たちのために、時間と体力、記録するための必要な知恵を与えてくださるように、毎日、祈り続けることができました。字が読めないとき、読めるように祈りました。書き方が分からなくなると祈りました。そうすると、分かるようになりました。

記録の中の「養子」という字には特別に愛着を感じました。わたしが生ま

れる前から「先祖に心に向けられるよう」に、「死者の救い」をおろそかにしないようにと、主はわたしの父に靈感をお与えになり、父はわたしに「養子」という名前を付けたのです。

### 一人暮らしの家にびっちり 人がいるような気がして

主はわたしに、死者の救いのために全身全霊をもって働きなさいと何度もささやいておられます。わたしたちの死者の記録がどこにあるかを知っておられるのは「救い主イエス・キリスト様」と死者本人たちです。

あるホームティーチャーが来られたとき、「姉妹、不思議なことがあるんです。前に佐藤姉妹を訪問したとき、姉妹は一人暮らしなのに家にびっちり人がいるような気がしてならなかったのです。きっと自分の思い違いだと思っていました、今晚もやはりそのように感じます」と言われました。わ

たしは「その方々はまだ『家族の記録』に書かれていない死者たちだと思いますよ。順番を首を長くして待っているんです」と答えました。

エリヤを助けたやもめのかめには、生涯粉と油が尽きることなく、その親族も同じように主の恵みを受けたと聖典にあります（列王上17：9—16参照）。神様はわたしたちに霊的な祝福と守り、導きを与えてくださると同時に、物質的、肉体的、経済的にも守ってくださると証します。

先祖を救うための先祖の探求と、その方々の名前を神殿に送るための「かめ」には粉と油が、すなわち先祖の名前が尽きることはありません。わたしはそのことが真実であると証します。今もわたしは「死者の記録」を下さいと祈っています。いつまでも生きているかぎり、わたしの家にその記録が尽きないように……。 (さとう・ようこ ステーク宣教師)

## 霊界の友達のバプテスマ

——「亡くなられた奥様の供養をしたいのです」——

札幌西ステーク篠路支部  
斉藤美恵子

**家**族歴史を調べていると、時々思いがけない不思議な体験をいたします。

わたしが改宗した当時、二人の息子さんと教会においでになっていた高橋姉妹という方がおられました。あまり個人的に話したことはなかったのですが、いつもニコニコしていて、熱心に責任を果たす姿を見て、「とても神様に近い人だなあ」と感じていました。

しかし、間もなくその姉妹は入院し、あっという間に亡くなられました。そのとき初めて、彼女がまだバプテスマ

を受けていないことを知りました。ご主人は工事関係の仕事をしていて、いつも家におられませんでした。しかし彼女は、何とか愛する夫と一緒に、バプテスマを受けるのを引き延ばしておられたのです。ご主人は、「宣教師の話は良い話だとは思いますが、家族を養うために今の仕事をやめるわけにはいかない」と言って、安息日を守れないことを理由に拒み続けておられたとのことでした。

### 亡くなった友達のために

わたしはその話を聞いて暗い気持ちになりました。当時、系図は直系の親族しか出せないと聞いていました。そ



## 斉藤ご家族

れでは、彼女がバプテスマを受けるために、いつかご主人が改宗してくれるのだろうか。それとも二人の息子さん  
が再び教会に戻って、お母さんのためにいつの日かバプテスマをしてくださるのだろうか。いろいろ考え、気にしておりました。

高橋姉妹のご主人は、子供さんを育てるために仕事をやめて料理屋を始めらしい、また、家も引っ越されたという話が伝わってきました。

そのうちにわたしも結婚し、当時いた支部を離れました。それから何年たっても、高橋姉妹のご主人がバプテスマを受けたというニュースは入ってきませんでした。

次女が生まれて間もないころ、わたしは家族歴史を調べていました。もうこれ以上出せないと思っていたのに、まだまだ神殿に提出できる部分があると教えられ、毎日のように一生懸命「家族の記録」を作成していたある夜のことです。ふと、自分が今調べているのはわたしの傍系で、直接わたしは血のつながりがあるわけじゃない、それならわたしが他人である高橋姉妹の家族の記録を提出してもいいのではないかと思ったのです。そうだ！ わたしが出してあげよう、出そう。何年たっても、彼女のバプテスマができずにいるのだから……と決心しました。

### ご主人の居場所が分からずに

ところが、問題がありました。彼女のことを調べようとしても、ご主人がどこに引っ越されたのか分かりません。ただ、札幌にいるらしいというだけで、あとは分かりません。名字だけで名前が分からないので、電話帳でも調べられません。当時の支部長であった兄弟に電話をすると、彼も知らないとのことでした。それでも最後に「当時、ホームティーチャーをしていた兄弟に聞いたら分かるかもしれない」と教え



られ、夜も遅かったのですが、すぐにその兄弟に電話をして事情を話しました。しかし「もう昔のことなので覚えていません」という返事でした。やはり駄目かとがっかりし、受話器を置きかけると、その兄弟が「電話帳をめぐって見たら、あるいは思い出すかもしれません」と言ってくださいました。しかし、高橋の姓は何ページにもわたっていたのです。はたして分かるのでしょうか。こんなに多くの高橋さんの中から捜し出すのは難しそうだ、正直言って期待していませんでした。

ところが30分ほどして電話が鳴り、その兄弟が「分かりました！ 思い出しました」と連絡を下さり、わたしは小躍りして喜びました。

### 直接会いに行こう

同じ名前の方が5人ほどいましたが、翌日の方から順番に電話をかけてみると、二人目で分かりました。再婚した奥さまが電話に出られ、とても親切に住所やご主人のお店の名前、電話番号などを教えてくださいました。

さて、そこでわたしはどうしようかと考え込みました。教会を知らない人に死者の儀式の話をして分かってもらえるだろうかと心配になったのです。高橋さんのご主人はもう再婚しているのに、前の奥さんのことをあれこれ聞いて嫌がられないだろうか。何と聞き出したらいいのだろうか。とても不安

になりました。わたしは何度も何度もお祈りをしました。初めは手紙を書くつもりだったのですが、「いや、やはり直接会いに行こう」と決心したのです。

翌朝、二人の子供を連れて汽車で札幌まで行きました。お店に着いたのは、午前10時半ごろでした。後で考えてみると、開店30分前の大変忙しい時間帯だったのです。顔を出されたご主人にすぐ、「亡くなられた奥さまの供養をしたいのです。そのために知りたいことがあるのですが、お教えくださいませんか」と言いますと、「ああ、そうですか」と簡単に中に入れてくださいました。そして「死んだ者のために遠い所からわざわざ来てくださって、ありがたいです」と言ってくださいました。

うれしくて、ドキドキしながら話をしました。すると、「先妻の出生などよく覚えていないところがあるので、<sup>どうほん</sup>謄本を取って調べます」と親切におっしゃるではありませんか。

### 涙が出て叫びたいくらい

当初はとても難しいことと思っていたのに、このようにあまりにも簡単に協力していただき、半ばあつけにとられてしまいました。謄本は約束どおり送られてきました。記録をもとに新琴似ワードのある姉妹に身代わりの儀式をお願いしました。彼女は高橋姉妹のことをまったく知らない人です。しか

し、神殿で高橋姉妹の身代わりのバプテスマを受けるときも、接手礼を受けるときも「なぜか分からないけれど、後から後から涙が出て、叫び出したくらい胸がいっぱいになりました」と後で話してくださいました。

亡くなられてから6年余り、姉妹はずっとこの日を待っておられたのでしょう。神様がわたしに高橋姉妹の願いを御霊を通して教えてくださって、それを受け止めることができたのです。

彼女の喜びがわたしの心に伝わり、わたしは深く深く感謝の祈りをささげました。

ご主人にはその後このことを報告し、『モルモン書』と神殿の写真をお送りしました。返事はありませんでしたが、満足していただいたと思います。この御業が神様の業であることを心より証いたします。(さいとう・みえこ 日曜学校福音の教義クラス教師)

きました。しかし、どこの教会にも足を踏み入れることはできませんでした。すべてが生まれて初めてのことでしたし、どの教会が神様にいちばん近いのかもよく分かりませんでした。キリスト教のこともよく知らなかったわたしでしたが「イエス・キリストが一人なら、どうしてこんなにたくさんの別々の教会があるんだろう。」そんな素朴な疑問が心に引っ掛かっていました。

ある日、本屋で『宗教がわかる事典』という本を読みました。そこにはキリスト教だけでなく、ほかの宗教についても詳しく書いてありました。わたしはその本で初めて「末日聖徒イエス・キリスト教会」の名前と、どのような教会であるかを知りました。

そこには、『モルモン書』やジョセフ・スミス最初の示現、布教活動、そのほか教会の戒めなどについて書かれていました。わたしはほかの宗教のところも読んでみましたが、この教会について書かれているところを読んだときがいちばん心に平安を感じました。「この教会には人の考えは入っていない、とても純粋なものがある。」そう感じました。

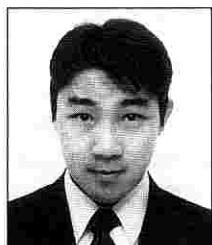
電話帳で教会の電話番号を調べて、生まれて初めて宣教師と会ってお話を聴かせていただくことになりました。

数日後、教会の前で、日本人とアメリカ人の宣教師が、寒い中コートを着て待っていてくださり、初対面のわたしを優しい笑顔と温かい握手で迎えてくれました。優しく清く、偽りのない彼らの瞳は、わたしが生まれて初めて見たものでした。

### 「自分も神様の子供なんだ」

宣教師から救いの計画やジョセフ・スミスの示現について詳しく教わり、今まで分からなかったことのお答えを受けました。中でもいちばん感動したのは神様と人間の関係についてでした。

## たまもの 神様から与えられた賜物を 分かち合うなら



東京北ステーク  
浦和ワード  
森田和弥

わたしは幼いころから、神様を信じていました。きれいな花やかわいい昆虫、青く透き通った空などの自然に触れるとき、家族がいて幸せを感じたり、痛みや悲しみを感じたりする心を人間が持っているのを考えたとき、「きっとそれらは神様が与えてくださって、生きているものには必ず何か大切な意味があるんだ」と思っていました。

### 「どうして人間は 生きているの」

そんなわたしは、よく両親に「どうして空は青いの」「どうして人間は生きているの」と尋ねていました。でも納得できる答えは得られませんでした。わたしの家族はとても温かい家族でしたが、特別な信仰を持ってはいなかつ

たからです。

そんな思いを持ちながら大人になっていく中で、わたしは芝居をするのが好きで芝居に熱中していきました。また世の中で善いとされる様々なことも試してみました。それでも自分の心がだんだんと重くなっていくのを感じ、学校でも社会の中でもほんとうの人生の目的なんて分からない、「結局、人間は死んでしまったら何もなくなるんだ」と、18歳のころのわたしの心はとても沈んでいました。けれどもわたしは神様を信じていたので、きっと神様なら人生の目的は何か、自分が分からないことは全部教えてくれるはずだと思っていました。それを教えてくれるのはどこなのかと考え悩んだ末、教会を訪ねることにしました。イエス・キリストのこともよく知りませんでした。クリスチャンと呼ばれる人に対してわたしはいつも神聖な気持ちを強く感じていました。

### 真実の教会を探し求めて

それからは、仕事の帰り、休みの日、とにかく時間があれば教会を探しに行

宣教師にこう質問されました。「もし神様と人間に関係があるなら、どんな関係があると思いますか。」わたしはよく考え「神様は教師で、人間は生徒だと思います」と答えました。でも宣教師はこう言いました。「神様は、わたしたちの天の父です。」わたしはこの言葉を聞いたとき、「神様がわたしたちを愛してくださるのは天の父だからなんだ。そして自分も神様の子供なんだ」と知って、ほんとうにうれしく思いました。

毎週教会に行き宣教師の話を書く度に、胸が熱くなり心が洗われるようでした。そして宣教師に会ってから約1か月後の1992年3月19日に、無事バプテスマを受けることができました。宣教師が下さった信仰の種を、神様はその後試練と祝福を通し、育てて下さいました。

### 札幌伝道部の専任宣教師に

1993年11月5日、わたしは札幌伝道部の専任宣教師としてJMTC（日本宣教師訓練センター）に入所しました。初めての任地は、北海道の中でも雪が多いと言われる滝川という所でした。わたしが滝川に着くのとほとんど同時に雪が積もり始めました。伝道は好きでしたが、家族も友人もいなくて、雪国で暮らしたこともない新米の宣教師であったわたしには、大きな試練でした。でも主はいつもわたしの近くにいて下さっていました。

その日は、いつもお話を聞いて下さっていた二人のお母さんと教会で会う約束をしていました。なぜか、先輩宣教師から話を一人でするように言われ、とても緊張して額に汗をかきながら話しました。

### 耳もとに力強い声を聞いて

そのうち極度の緊張のためか、教えるための資料をめくっていた手が途中

で動かなくなり、頭の中も真っ白になってしまいました。ほんとうに何も考えられませんでした。わたしは心の中で自分でも知らないうちに、天父に「助けてください」と祈っていました。そのときはっきりと耳もとで男の人の力強い声を聞きました。「神殿について証しなさい。」あまりにもはっきり大声で耳もとで言われたので、怖い気持ちはありませんでしたが、とても驚きました。

滝川の教会は、古い民家のような建物で、一人一人歩けば床がみしみしと鳴るような教会で、自分たちのほかにだれかがいれば分かると思い、部屋の扉の向こうや窓に目を向けました。人の気配はまったくありませんでした。隣にいる同僚が求道者がいる目の前でそんなことを言うはずがありません……。

ふと、部屋の壁に掛かっていた東京神殿の写真を見上げました。すると心が温かくなり神殿について話すのは主の御心だと思え、話を進めました。心を込め自分の神殿に対する証をしました。その瞬間わたしはまったく緊張せず、自分が自分でなくなったような気持ちでした。このようにしてその日のレッスンを無事に終えることができました。そのときのわたしにとって、声を聞いたことよりレッスンを無事に終えられた喜びの方が大きく、あの不思議な声のことはその後あまり考えませんでした。それでもその1週間後、それが確かに主の助けと導きであったことが分かりました。

その日の朝に宣教師用教材を勉強していると、ちょうど前につかえてしまったページにきました。わたしはまだその箇所を勉強したことがなく、そのとき初めてそのページを開きました。するとそこは神殿について話すところでした。しかも読んでみると、自分が証したことが順番も言葉も変わらずに同じ内容で書かれていました。あのと

き、もしあの声が何も教えてくれなかったら、わたしは何も話せなかったと思います。

### 証を人々に分かち合うときに

「わたしがあなたがたの所に行った時には、弱くかつ恐れ、ひどく不安であった。そして、わたしの言葉もわたしの宣教も、巧みな知恵の言葉によらないで、霊と力との証明によるのである。」（1コリント2：3—4）神様はこのように弱いわたしでも器として使って下さったのです（モロナイ7：31参照）。

その後も専任宣教師の生活は苦しいこともありましたが、言葉では言い表せないほどの祝福を受けました。未熟なわたしを主はいつも愛し、訓練して下さいました。

昨年12月、わたしは札幌伝道部の専任宣教師としての召しを終え、無事に帰還しました。伝道に出たばかりのころはホームシックで泣いてばかりいましたが、札幌伝道部の最後の任地を離れるときには、伝道を続けていたくて、北海道を離れたくなくて泣いていました。それほど伝道を通して主に仕えることは、わたしに大きな祝福を与えてくれました。

証を人々と分かち合うときに、より大きな証を神様は与えて下さいます。自分に与えられている神様からの賜物を、ほかの人々と分かち合うなら、神様は喜んで下さいます。いつも助けてくれた同僚や伝道部長ご夫妻、教会員の方々、求道者の方々、また見守って下さった天のお父様、また家族や友人に心から感謝しています。

これからもいろいろな経験をすると思いますが、いつも試練も祝福も心の糧にできるよう、頑張りたいと思います。（もりた・かずや）

# 4月に召された専任宣教師

JMTC第199期生 21人



前列左から1-7, 中列左から8-14, 後列左から15-21

〈名前〉

1. 織田 春
2. 児島こすえ
3. 江口佳香
4. 星野玲子
5. 武村雅子
6. 井木舞子
7. 村上真唯
8. 小阪拓
9. 吉田恵太郎
10. 野崎 崇
11. 近藤智恵
12. 塩崎 泉
13. 得能達生
14. 小野耕史
15. 河内山公宏
16. 赤松道成
17. 中井吉保
18. 右下大輔
19. 中西正樹
20. 柿木尚人
21. 内山 晃

〈出身地〉

- 神戸S/神戸W  
 東京南S/渋谷W  
 我孫子S/牛久W  
 東京S/吉祥寺W  
 名古屋西S/高畑W  
 福岡M/鹿児島D/鹿児島B  
 神戸M/奈良D/大和郡山B  
 大阪堺S/和歌山W  
 東京北S/神戸B  
 大阪北S/豊中第二B  
 東京S/吉祥寺W  
 東京北S/浦和W  
 神戸S/北六甲B  
 横浜S/川崎W  
 京都S/下鴨W  
 沖縄那覇S/普天満W  
 大阪北S/豊中第二B  
 大阪北S/豊中第二B  
 大阪北S/豊中第二B  
 東京S/所沢W  
 東京S/三鷹W

〈伝道地〉

- 東京南伝道部  
 岡山伝道部  
 岡山伝道部  
 名古屋伝道部  
 東京北伝道部  
 東京北伝道部  
 札幌伝道部  
 岡山伝道部  
 神戸伝道部  
 東京南伝道部  
 仙台伝道部  
 福岡伝道部  
 沖縄伝道部  
 札幌伝道部  
 東京北伝道部  
 名古屋伝道部  
 東京南伝道部  
 札幌伝道部  
 仙台伝道部  
 福岡伝道部  
 岡山伝道部

S:ステーキ, M:伝道部, D:地方部, W:ワード, B:支部

## 役員の変動

1996年3月12日から1996年4月11日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 仙台伝道部青森地方部弘前支部  
新支部長: 明石弘人
- 東京北ステーキ中野ワード  
新監督: 渡辺 弘
- 静岡ステーキ清水ワード  
新監督: 高橋芳典
- 岡山ステーキ出雲支部  
新支部長: 浜村一彦
- 福岡ステーキ久留米支部  
新支部長: 吉山 明
- 沖縄ステーキ石垣支部  
新支部長: 杉山浩倫
- 沖縄那覇ステーキ首里ワード  
新監督: 西 晃男

皆さんの原稿を  
募集しています

◎ご投稿の際には連絡先(住所、電話番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名を記入し、写真を同封のうえお送りください。原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載までに時間がかかる場合もありますので、ご了承ください。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師たちを紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第、編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名〔フリガナ〕、伝道部名、召された月を明記)

◎あて先: 〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室

☎03(3440)2666 FAX 03(3440)3275

### 海外に召された日本人宣教師



高橋 奈保

ソルトレーク・テンブルスクウェア訪問者センター伝道部  
 1996年2月、東京東S/長生W

# 4月に召された専任宣教師

JMTC第199期生 21人



前列左から1—7, 中列左から8—14, 後列左から15—21

〈名前〉

1. 織田 春
2. 児島こすえ
3. 江口佳香
4. 星野玲子
5. 武村雅子
6. 井木舞子
7. 村上真唯
8. 小阪拓
9. 吉田恵太郎
10. 野崎崇
11. 近藤智恵
12. 塩崎泉
13. 得能達生
14. 小野耕史
15. 河内山公宏
16. 赤松道成
17. 中井吉保
18. 右下大輔
19. 中西正樹
20. 柿木尚人
21. 内山 晃

〈出身地〉

- 神戸S/神戸W
- 東京南S/渋谷W
- 我孫子S/牛久W
- 東京S/吉祥寺W
- 名古屋西S/高畑W
- 福岡M/鹿児島D/鹿児島B
- 神戸M/奈良D/大和郡山B
- 大阪堺S/和歌山W
- 東京北S/坂戸B
- 大阪北S/豊中第二B
- 東京S/吉祥寺W
- 東京北S/浦和W
- 神戸S/北六甲B
- 横浜S/川崎W
- 京都S/下鴨W
- 沖縄那覇S/普天満W
- 大阪北S/豊中第二B
- 大阪北S/豊中第二B
- 大阪北S/豊中第二B
- 東京S/所沢W
- 東京S/三鷹W

〈伝道地〉

- 東京南伝道部
- 岡山伝道部
- 岡山伝道部
- 名古屋伝道部
- 東京北伝道部
- 東京北伝道部
- 札幌伝道部
- 岡山伝道部
- 神戸伝道部
- 東京南伝道部
- 仙台伝道部
- 福岡伝道部
- 沖縄伝道部
- 札幌伝道部
- 東京北伝道部
- 名古屋伝道部
- 東京南伝道部
- 札幌伝道部
- 仙台伝道部
- 福岡伝道部
- 岡山伝道部

S:ステーキ, M:伝道部, D:地方部, W:ワード, B:支部

## 役員の変動

1996年3月12日から1996年4月11日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 仙台伝道部青森地方部弘前支部  
新支部長: 明石弘人
- 東京北ステーキ中野ワード  
新監督: 渡辺 弘
- 静岡ステーキ清水ワード  
新監督: 高橋芳典
- 岡山ステーキ出雲支部  
新支部長: 浜村一彦
- 福岡ステーキ久留米支部  
新支部長: 吉山 明
- 沖縄ステーキ石垣支部  
新支部長: 杉山浩倫
- 沖縄那覇ステーキ首里ワード  
新監督: 西 晃男

皆さんの原稿を  
募集しています

◎ご投稿の際には連絡先(住所, 電話番号), 教会での責任(役職名), 所属ユニット名を記入し, 写真を同封のうえお送りください。原稿は一部手直しさせていただきますことがあります。また, 掲載までに時間がかかる場合もありますので, ご了承ください。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師たちを紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第, 編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名〔フリガナ〕, 伝道部名, 召された月を明記)

◎あて先: 〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室

☎03(3440)2666 FAX 03(3440)3275

### 海外に召された日本人宣教師



高川 奈央

ソルトレーク・テン  
プルスクウェア訪問  
者センター伝道部  
1996年2月, 東京東  
S/長生W